

拉物姐子愛好
松林今草好

日本の高等学校における
中国語教育の広がり

日本高中汉语教育的发展

韓国朝鮮語教育との比較で見る
与朝鲜语教育相比较

1999年6月

財団法人国際文化フォーラム
财团法人国际文化交流中心

表紙は『高校中国語教育のめやす』の基本語彙を使って作成しました。

封面设计所使用的汉语单词出自于《高中汉语教育目标》。

支那語の日本語化とその影響

日本の高等学校における 中国語教育の広がり

韓国朝鮮語教育との比較で見る

支那語の日本語化とその影響

目 次

I.	国際文化フォーラム(TJF)とアジアの言語	
1.	「高校中国語教育」との関わり	3
2.	中国語と韓国朝鮮語教育の合同調査	4
II.	中国語と韓国朝鮮語教育の取り組み校	
1.	二つの言語教育の広がり	6
2.	外国語教育の中の中国語と韓国朝鮮語	11
III.	中国語教育の現状	
1.	導入の経緯.....	12
2.	履修概要	13
3.	教員をめぐる状況.....	17
4.	教材と授業の工夫.....	20
5.	言語学習と交流プログラム	22
IV.	中国語教育の定着に向けて	
1.	『高校中国語教育のめやす』の完成	25
2.	中国の日本語教育との連繋	26
リスト		
1.	中国語教育の取り組み校	30
2.	修学旅行で中国語圏を訪れた高等学校	39
3.	中国(語)の専門学科・教職課程のある大学	42
日本高中汉语教育的发展.....		45-72

表で見る「高校中国語教育」

項目	表 [No.]	ページ
地域	95-98 年度の広がり [2]	7
	地域で見た取り組み校 [3]	7
	二つの言語教育 [4]	8
	取り組み率 [5]	10
	公私立別の取り組み率 [6]	10
開始時期	開始年度 [1]	6
	二つの言語教育 [4]	8
公私立別	開始年度 [1]	6
	95-98 年度の広がり [2]	7
	地域で見た取り組み校 [3]	7
	公私立別の取り組み率 [6]	10
	英語以外の外国語 [7]	11
	履修形態 [10]	14
	履修単位数 [12]	15
	学習者数 [15]	16
	海外修学旅行 [25]	22
	海外姉妹校 [26]	23
履修概要	設置学科 [8]	13
	専門高校 [9]	14
	履修形態 [10]	14
	履修期間 [11]	14
	履修単位数 [12]	15
	履修の単位数と形態 [13]	15
	履修単位数の多い取り組み校 [14]	15
	学習者数 [15]	16
	学習者数の多い取り組み校 [16]	16
	多く使われている教材 [24]	21
教員	職名 [18]	18
	免許 [19]	18
	担当教員数 [20]	19
	担当教員の母語 [21]	19
	担当講師の母語 [22]	19
	授業時間数 [23]	19
	友好クラス交流 [28]	27
交流	海外修学旅行 [25]	22
	海外姉妹校 [26]	23
	中国語圏との姉妹校交流 [27]	24
	友好クラス交流 [28]	27
外国語	英語以外の外国語 [7]	11
	センター試験 [17]	17

I 国際文化フォーラム(TJF)と アジアの言語

21世紀を目前にして、ことばや文化の異なる人びとが出会い、ともに活動する機会が増えしていくことに伴って、お互いのコミュニケーションを図る必要性がますます強まっています。国際文化フォーラム(TJF: The Japan Forum)は、そのようなコミュニケーションが円滑に行われるために、それぞれの人を育んできたことばや文化をお互いに理解することが重要だと考えています。なかでも、若い世代のための外国語教育と文化理解教育を重視し、中国、米国、オーストラリアを中心とするアジア太平洋地域の小中高における日本語教育をサポートするプログラムを実施しています。このような事業と平行して、TJFは日本の若い人々が英語だけでなくアジア地域のことばと文化を学びやすくするための教育環境づくりにも取り組んでいます。また、これらの地域の小中高生が日本の同世代の人々と相互に交流することも願って活動しています。

アジアの言語に関する事業の一環として、TJFはまず、1993年度に日本におけるアジア地域のことばの学習状況について事前調査を行いました。調査の対象は、中国、韓国、タイ、インドネシア各国の言語としました。その理由は、これらの国々の初等中等教育で日本語学習が盛んなことと、日本にとって最も身近なことばであるべき中国語と韓国朝鮮語の教育に取り組む必要性を認めていたからです。調査の結果、中国語と韓国朝鮮語の教育に取り組む日本の高等学校が90年代に入ってから着実に広がっていることがわかりました。その一方で、必ずしも二つの言語教育の

実態が明らかになっていないことがはっきりしました。また、教育環境の整備が十分でないことも確認できました。

1 「高校中国語教育」との関わり

このレポートでは、中国語教育に取り組む高等学校、講座の担当教員、学習する生徒を含む中国語教育全体を意味するものとして「高校中国語教育」を使っています。TJFは、調査事業を皮切りに、「高校中国語教育」が長年にわたって抱えてきた課題に関係者とともに取り組んでいます。

■ 「高校中国語教育」の第1回調査(94年度)

高等学校の中国語教育に関しては、全国高等学校中国語教育研究会^{注)}という教師のネットワーク組織が82年以来、こうした状況のなかで地道な活動を続けていました。アジアの言語に関する調査で明確になった問題意識をもとに、TJFは高等学校の中国語教育に

注) 82年に設立された高等学校で中国語教育を担当する教員を中心とした組織。高等学校における中国語教育の教授法の研究を行うとともに、会員相互の交流親睦をはかることを目的とする。主な活動として、年1回の研究大会の開催、高校生を対象とした教材『高校中国語』の編集、会報の発行等を行っている。全国に5つの支部(北海道・東北・関東、中部、関西、中国・四国、九州・沖縄)を置き、支部ごとに研究会や高校生のための中国語弁論大会等を開催している。

ついて、94年度に第1回のアンケート調査を実施しました。研究会の協力もあり、中国語教育を実施している高等学校のほぼ全てを調査対象にすることができました。集計結果とその後の情報収集で明らかになった学校現場の状況と課題をまとめた報告書『いま高校の中国語教育を問い合わせる』を96年に出版しました。この種の報告が初めてだったこともあり、報告書は大きな反響を呼びました。TJFは民間財団の立場から、課題を解決するための「高校中国語教育」に関する10項目の提言を報告書の中で行いました。

■ 第1回調査以後の事業展開（95年度から）

TJFは、第1回調査の結果にもとづいて、教育現場のニーズに応えるための事業を95年度にスタートしました。「高校中国語教育」が抱える最も緊急な課題は、基準となる学習目標や学習項目が設定されていないことにあることが明らかになっていましたので、まず教師たちとともに『高校中国語教育のめやす』作成に取り組みました。（pp. 25-26に詳細を記載しています。）

この間、「高校中国語教育」に関するTJFへの問い合わせが増え、関連情報が次第に集まってきた。調査事業そのものも、収集した情報を集約し、TJFの出版物やホームページ（<http://www.tjf.or.jp/>）を通じて継続的に提供する形になりました。TJFは、教師にとって研修と情報交流のための貴重な機会である全国高等学校中国語教育研究会の支部が主催する研究会や中国語教育研究会などの活動もサポートしています。こうした活動を通じて、高校教師や中国語教育関係者とのネットワークが広がるとともに、関係者の間で情報が共有されるようになりました。

一方、TJFは中国の中等教育における日本語教育との連繋を図るために、中国東北部の日本語教師と日本の高等学校で中国語を担当する教師との交流を核にした「友好クラス」の試みを97年度から始めました。（pp. 26-28に詳細を記載しています。）

2 中国語と韓国朝鮮語教育の合同調査

第1回調査の後も中国語教育を導入する学校は着実に増え、「高校中国語教育」とそれを取り巻く状況に新しい動きが見られました。こうした変化を追うとともに韓国朝鮮語教育の実態も合わせて把握するために、97年度から98年度にかけて二つの言語教育の合同調査と情報収集を行いました。合同調査にしたのは、中国語と韓国朝鮮語教育の取り組み校が重なっていたことと、共通する点が多いと思われる二つの言語の教育事情を比較することによって、それぞれの言語教育について掘り下げた見方ができると考えたためです。

■ 調査対象

今回の合同調査では、97-98年度の時点で中国語または韓国朝鮮語教育を実施していた学校だけでなく、講座開設を計画または希望している学校や、以前は実施していた学校も対象としました。二つの言語教育の置かれた状況は必ずしも安定したものではなく、現状を捉えるためには、ある年度の実施状況だけではなく、数年間におよぶ動きを見る必要があると考えたからです。実際、学校側の姿勢の変化、カリキュラム編成の変更、授業を行う教員の確保、講座の世話をする教諭の異動、履修希望者数の不足などによって、カリキュラムに組み込んだり、開設を予定していても実施に至らなかった例が見られました。

なお、中国語や韓国朝鮮語教育は必ずしも外国語科目の中だけで行われているわけではなく、課題研究や他教科の授業、必修クラブなど教科外活動として取り組んでいる場合も少なくないので、これらの一部を調査対象に含めることにしました。

■ 調査経過

まず、先行調査・研究を参考にしながら、97年5月末までに中国語または韓国朝鮮語教

育を実施している可能性のある高等学校375校をリストアップしました。97年6月から98年3月にかけて、これらの学校を対象にアンケート調査を実施しました。調査票を回収できなかった学校に対する電話インタビューによる確認を含めて、98年6月まで中国語教育308校、韓国朝鮮語教育130校の取り組み校を確認しました。アンケート調査の集計結果とこれらの高等学校の地域別リストは、中間報告として小冊子を発行するとともにTJFのホームページに掲載しました。

アンケート調査の回答者は、高等学校の中中国語と韓国朝鮮語教育に携わる教員が大半ですが、回答された調査票から読み取れる内容には限界があります。98年度に入ってから、それを補うために二つの言語教育に取り組んでいる学校を訪問し、講座を担当する教員や学校関係者へのインタビュー、教師研修会や教員との座談会を通じて取材しました。教育委員会や大学関係者などからも取材し、周辺情報を得てきました。

■ このレポートがめざすもの

2年間におよぶ調査の結果、図に示したように、98年度末現在で中国語教育353校、韓国朝鮮語教育165校、共通するもの107校の取り組みを確認できました。このレポートは、アンケート調査結果を表で示しながら、学校や教師の取り組み例をいくつか紹介することによって、日本の高等学校における二つの言語教育の現状と問題点をわかりやすく提示することをめざしています。

今回の調査と情報収集を通じて、修学旅行で中国語圏(中国・台湾・シンガポール・マレーシア)や韓国を訪れる学校が年々増えていることがわかりました。これら地域の学校と姉妹校関係を結んでいる学校が数多くあることにも気づきました。こうした交流が言語学習と結びつくことによって、お互いの理解をさらに深めることになると思われます。

高等学校の中国語教育に関するこのレポートは、別冊の韓国朝鮮語教育に関するレポート

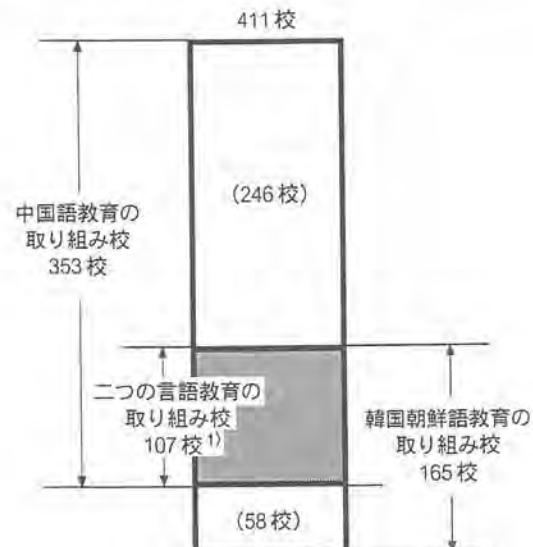
トと対をなしています。中国や韓国などの関係者の便に供するため、中国語教育のレポートは日本語と中国語、韓国朝鮮語教育のレポートは日本語とハングル表記による二部構成にしています。なお、日本語部分における「中国語」は普通话を意味し、「韓国朝鮮語」は、日本でハングル、韓国語、朝鮮語などの名称で呼ばれている言語を指します。これらの用語について、中国語表記は汉语(漢語)、朝鮮語(朝鮮語)とします。

二冊のレポートによって、日本の高等学校における外国語教育の一端を、それぞれの地域でご理解いただくことにも大いに意義があると考えています。

◆

このレポートの中国語部分の作成について
孫浴光氏(中国大連市教育学院日本語教研員、
TJFの招聘プログラムで来日)、胡興智氏(元
関東国際高等学校中国語担当講師)をはじめ、
多くの方のご協力をいただきました。

このレポートが対象とする取り組み校



注) 取り組み校：調査時点で実施しているもの、以前実施していたもの、開講予定のあるもの、開講しているが実施していないものを対象とする。一部の教科外活動を含む。

1) 中国語の取り組み校の30.3%、韓国朝鮮語の取り組み校の64.8%に相当する。

中国語と韓国朝鮮語教育の取り組み校

中国語と韓国朝鮮語教育に取り組む高等学校の開始年度・都道府県別の数は表1-4のとおりです。97年度に実施したアンケート調査を土台に、98年度中に確認したものを加えてあります。履修概要などを含む取り組み校のリストをレポートの中央部分に挿入しました。リストはTJFのホームページに掲載し、随時更新しています。

二つの言語教育の現状を浮き彫りにするために、97-98年度時点で実施していた学校だけでなく、調査時点まで99年度以降の開講を予定している学校、96年度以前に実施していながら97-98年度には実施しなかった学校も含めました。このレポートでは、<取り組み校>という用語をこれらの学校すべてを含むものとして使っています。また、講座がカリキュラムに組み込まれている状態を<開講>としています。新たに導入する場合は、実際に講座がスタートした年度を開始時期と見なしています。

1 二つの言語教育の広がり

表1と3に、開始時期と地域ごとの取り組み校数を公私立別に示しました。それぞれの地域と時期による状況の変化とともに、公立校と私立校では取り組み方に違いが見られます。二つの言語教育について全国的に捉えることと同時に、もう一步掘り下げて、地域ごと、公私立校ごと、さらには学校ごとの取り組みを見ることが重要だと考えています。

表1 開始年度で見た取り組み校

年度	中国語			韓国朝鮮語			同時 開講
	合計	公立	私立	合計	公立	私立	
未定	1	-	1	4	2	2	-
2001	1	1	-	1	1	-	1
2000	2	2	-	3	3	-	2
1999	15	11	4	13	11	2	4
1998	18	16	2	21	18	3	10
1997	31	23	8	22	18	4	9
1996	27	21	6	11	9	2	5
1995	37	27	10	7	4	3	3
1994	20	15	5	21	9	12	5
1993	20	15	5	8	5	3	3
1992	17	13	4	6	4	2	2
1991	25	15	10	6	4	2	3
1990	19	15	4	2	-	2	1
1989	18	10	8	2	1	1	-
1988	13	9	4	2	1	1	1
1987	16	11	5	5	1	4	3
1986	6	3	3	-	-	-	-
1985	6	2	4	1	-	1	-
1984	2	-	2	-	-	-	-
1983	3	2	1	-	-	-	-
1982	2	2	-	1	1	-	-
1981	-	-	-	-	-	-	-
1980	1	-	1	1	1	-	-
1979	4	3	1	-	-	-	-
1978	-	-	-	1	1	-	-
1977	-	-	-	1	1	-	-
1976	-	-	-	1	1	-	-
1975	-	-	-	1	1	-	-
1974	1	-	1	-	-	-	-
1973	4	-	4	2	1	1	-
1972	-	-	-	-	-	-	-
1971	-	-	-	-	-	-	-
1970	3	-	3	-	-	-	-
1969以前	8	6	2	2	-	2	-
不明	33	20	13	20	15	5	-
合計	353	242	111	165	113	52	52

表2 中国語教育の広がり：95～98年度

都道府県	学校数の増加			取り組み率 ¹⁾ の増加		
	合計	公立	私立	合計	公立	私立
北海道	3	1	2	0.9	0.3	3.7
青森	1	-	1	1.1	0	5.9
岩手	1	1	-	1.0	1.1	0
宮城	1	1	-	0.9	1.1	0
秋田	-	-	-	0	0	0
山形	4	3	1	5.6	5.4	6.7
福島	1	1	-	0.9	1.0	0
茨城	-	-	-	0	0	0
栃木	1	1	-	1.2	1.4	0
群馬	2	1	1	2.3	1.4	7.7
埼玉	7	5	2	3.3	3.0	4.5
千葉	5	2	3	2.5	1.4	5.4
東京	12	8	4	2.7	3.7	1.9
神奈川	6	5	1	2.3	2.7	12
新潟	-	-	-	0	0	0
山梨	1	1	-	1.9	2.4	0
長野	2	1	1	1.9	1.1	6.3
富山	1	1	-	1.7	2.0	0
石川	2	2	-	3.0	3.5	0
福井	1	-	1	2.6	0	14.3
岐阜	3	2	1	3.3	2.6	6.3
静岡	3	2	1	2.0	1.9	2.3
愛知	2	-	2	0.9	0	3.7
三重	2	2	-	2.5	3.1	0
滋賀	1	1	-	1.3	1.8	0
京都	7	4	3	6.8	6.2	8.1
大阪	12	10	2	4.2	5.3	2.1
兵庫	9	8	1	3.9	4.5	1.9
奈良	1	1	-	1.5	2.0	0
和歌山	2	2	-	3.7	4.3	0
鳥取	1	1	-	2.9	3.4	0
島根	3	3	-	5.9	7.3	0
岡山	2	1	1	1.9	1.2	4.2
広島	4	4	-	2.9	3.8	0
山口	2	2	-	2.2	2.8	0
徳島	-	-	-	0	0	0
香川	-	-	-	0	0	0
愛媛	-	-	-	0	0	0
高知	1	-	1	1.9	0	12.5
福岡	5	2	3	2.7	1.5	4.8
佐賀	5	5	-	10.9	13.2	0
長崎	5	5	-	5.7	7.5	0
熊本	1	-	1	1.2	0	4.5
大分	5	4	1	6.5	6.6	6.3
宮崎	2	2	-	3.4	3.4	0
鹿児島	1	1	-	1.0	1.0	0
沖縄	2	2	-	2.9	2.9	0
合計	132	98	34	2.4	2.4	2.6

表3 地域で見た取り組み校

都道府県	中国語 (C)			韓国朝鮮語 (K)			C ∩ K ¹⁾		
	合計	公立	私立	合計	公立	私立	合計	公立	私立
北海道	4	2	2	3	1	2	1	1	-
青森	1	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手	2	2	-	3	2	1	1	1	-
宮城	4	3	1	3	1	2	2	1	1
秋田	1	1	-	-	-	-	-	-	-
山形	4	3	1	2	-	2	1	-	1
福島	2	1	1	-	-	-	-	-	-
茨城	3	2	1	-	-	-	-	-	-
栃木	3	2	1	-	-	-	-	-	-
群馬	6	1	5	1	-	1	1	-	1
埼玉	18	12	6	4	-	4	3	-	3
千葉	14	8	6	2	1	1	2	1	1
東京	51	28	23	12	9	3	11	8	3
神奈川	21	15	6	6	5	1	3	2	1
新潟	1	1	-	1	1	-	1	1	-
山梨	2	2	-	-	-	-	-	-	-
長野	2	1	1	3	2	1	1	1	-
富山	5	4	1	1	1	-	-	-	-
石川	3	3	-	3	3	-	3	3	-
福井	4	1	3	2	-	2	2	-	2
岐阜	6	4	2	1	1	-	1	1	-
静岡	7	4	3	-	-	-	-	-	-
愛知	9	4	5	1	-	1	1	-	1
三重	3	3	-	1	1	-	1	1	-
滋賀	8	7	1	5	4	1	4	3	1
京都	15	6	9	6	2	4	6	2	4
大阪	28	22	6	32	26	6	15	13	2
兵庫	24	21	3	11	10	1	8	7	1
奈良	4	3	1	2	1	1	2	1	1
和歌山	5	4	1	1	-	1	-	-	-
鳥取	4	4	-	4	4	-	2	2	-
島根	4	4	-	3	3	-	2	2	-
岡山	6	3	3	-	-	-	-	-	-
広島	6	6	-	16	11	5	6	6	-
山口	6	4	2	3	2	1	2	2	-
徳島	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛	-	-	-	2	2	-	-	-	-
高知	2	1	1	-	-	-	-	-	-
福岡	18	13	5	8	4	4	8	4	4
佐賀	8	7	1	4	4	-	2	2	-
長崎	9	8	1	1	1	-	-	-	-
熊本	5	3	2	5	2	3	2	1	1
大分	9	5	4	6	3	3	6	3	3
宮崎	5	4	1	4	3	1	4	3	1
鹿児島	3	2	1	1	1	-	1	1	-
沖縄	8	8	-	2	2	-	2	2	-
合計	353	242	111	165	113	52	107	75	32

1) C ∩ K : 二つの言語教育にともに取り組んでいる学校

1) ある地域の高等学校数に対する取り組み校数の割合

表4 二つの言語教育の取り組み校

都道府県 (学校数)	学校 ¹⁾ *私立	開始年度 ²⁾			都道府県 (学校数)	学校 ¹⁾ *私立	開始年度 ²⁾		
		C	K	ほかの外国語			C	K	ほかの外国語
北海道 (1)	札幌国際情報	96 → 97	仏露			佐野工業定時制	98 ← 91		
岩手 (1)	不来方	87 → 89	仏独西			此花総合(市)	99 = 99	仏	
宮城 (2)	*仙台育英学園	91 → 97			兵庫 (8)	姫路商業	79 → 未		
	宮城野	97 = 97	仏			*関西学院高等部	86 → 94	仏独	
山形 (1)	*山形城北女子	未 ← 88	仏			湊川	87 = 87		
群馬 (1)	*白根開善	95 ← 94				尼崎(市)	98 = 98		
埼玉 (3)	*自由の森学園	85 → 87	仏西			神戸甲北	98 = 98	ほか2	
	*慶應義塾志木	91 = 91	仏独ほか17			尼崎	99 = 99		
	*立教	96 = 96	仏独西露ほか2			六甲アイランド(市)	00 = 00	仏	
千葉 (2)	*千葉明徳	93 → 94				芦屋(市)	[97] ?		
	流山東	98 = 98			奈良 (2)	*天理教校親里	89 → 94	仏西ほか1	
東京 (11)	*武蔵	73 → 90	仏独			山辺	97 = 97		
	*桜美林	88 → 99				鳥取 (2)	米子	92 → 93	
	国際	89 → 92	仏独西露			青谷	95 = 95		
	都立大学附属	90 [94]	仏独西			島根 (2)	浜田商業	97 = 97	
	飛鳥	94 ← 80	仏			邇摩	98 = 98		
	葛西南定時制	95 = 95				広島 (6)	安芸府中	92 → 94	仏ほか1
	西	97 = 97	仏独				広島商業	93 = 93	
	日比谷	97 = 97	仏独				大竹	98 = 98	
	晴海総合	97 → 99	仏独西				三次青陵	98 = 98	
	*芝浦工業大学	98 = 98	仏				舟入(市)	99 = 99	
	狛江	[95] → 98	仏				広島観音	00 = 00	
神奈川 (3)	*栄光学園	80 → 94				山口 (2)	響	97 ← 96	
	神奈川総合	96 ← 95	仏独西				下関国際	[98] [98]	
	大師	97 → 98	仏西			福岡 (8)	戸畠商業(市)	69 → 95	
新潟 (1)	新潟商業	94 = 94	露				*九州国際大学付属	94 = 94	
長野 (1)	塩尻	01 = 01					東鷹	94 = 94	
石川 (3)	金沢辰巳丘	95 → 99	仏独露				*沖学園	97 → 99	
	金沢伏見	96 = 96					*慶成	98 = 98	
	金沢北陵	97 → 未					博多青松	98 → 99	
福井 (2)	*啓新	89 [94]					福岡女子(市)	[95] 94	
	*敦賀気比	94 = 94					*福岡第一	? ?	
岐阜 (1)	土岐紅陵	98 → 99				佐賀 (2)	高志館	92 → 97	
愛知 (1)	*安城学園	90 = 90					神崎清明	96 → [97]	
三重 (1)	昂学園	96 = 96				熊本 (2)	東稜	87 = 87	
滋賀 (4)	守山女子(市)	87 → 99					*玉名女子	92 = 92	
	国際情報	88 = 88				大分 (6)	*別府大学附属	93 → [97]	
	*近江兄弟社	94 = 94					*日本文理大学附属	95 = 95	
	水口	95 → 96					大分東	96 = 96	仏独
京都 (6)	*南京都	94 → 未					日田三隅	97 = 97	
	日吉ヶ丘(市)	96 → 97	独西				日出陽谷	98 = 98	
	*同志社国際	97 = 97	仏独西				*楊志館	99 ← 93	
	*花園	97 = 97				宮崎 (4)	*日章学園	87 = 87	
	嵯峨野	97 → 98	仏西				富島	90 → 98	
	*同志社	[97] ?	仏独				本庄	91 = 91	
大阪 (15)	*帝塚山学院泉ヶ丘	84 → 87	仏西				都農	98 = 98	
	*大阪体育大学浪商	89 → 95	独			鹿児島 (1)	鹿児島東	86 → 98	仏西
	住吉	91 = 91	仏西			沖縄 (2)	向陽	95 → 97	
	桃谷通信制・定時制	92 = 92					那覇国際	99 = 99	仏独西
	旭	92 ?	仏独						
	佐野	92 ?	仏独西						
	阪南	93 = 93							
	松原	93 = 93	仏西						
	枚方	93 → 97	仏独西						
	箕面	93 ?	仏独西						
	花園	95 ← 94							
	西	96 = 96	仏						
	柴島	97 = 97	仏						

1) 都道府県ごとの中国語の開始年度順 (同年の場合は韓国朝鮮語の開始年度順) に掲載した。

2) 開始年度は西暦19--、20--の--のみ記載した。

C: 中国語 K: 韓国朝鮮語

=: 同時開講 →: 中国語が先行 ←: 韓国朝鮮語が先行

[]: 実施が確認されている年度 ?: 開始年度が不明

未: 開始年度が未定

■ 80年代後半から増加する取り組み校

表1に見られるように、中国語と韓国朝鮮語教育の取り組み校は80年代後半から増加しています。87年度から98年度にかけて、中国語は年平均21.8校、韓国朝鮮語は年平均9.4校の割合で取り組み校が増加しています。87年に提出された臨時教育審議会の最終答申で、中高における選択科目の多様化が提案されたり、学習指導要領が改訂されるなど、英語教育を中心にコミュニケーション手段や国際理解のための外国語教育が重視されるようになったことも背景にあると考えられます。

91年度に「外国語教育多様化研究協力校」が設けられ、英語以外の外国語教育に関する研究が始まりました。93年には「外国語教育の改善に関する調査研究協力者会議」と「高等学校教育の改革の推進に関する会議」が、相次いで報告書を発行しました。前者の報告書「中学校高等学校における外国語教育改善の在り方について」では、近隣のアジア地域の言語をはじめ英語以外のさまざまな外国語教育推進の必要性が強調されました。後者の報告を受け、総合学科や単位制高校などの新しいタイプの高等学校と特色ある学科やコースの設置が促進されました。

二つの言語教育に取り組む高等学校の重なりは、表3と4に示したとおり107校(表3中のCJK: 公立75、私立32)であり、公立校の数が私立校の約2.3倍となっています。これらの学校における中国語と韓国朝鮮語の導入時期の前後関係を表4に示しました。多くは中国語先行型になっていますが、韓国朝鮮語先行型も一部(8校、7.5%)見られます。二つの言語教育を同時に開講した学校は52校(表1)あり、87年度以後に集中しています。107校のうち、英語以外の外国語として中国語と韓国朝鮮語だけを開講している学校が64校(59.8%)あり、中国・四国と九州地域に多く見られます。

■ 地域と公私立別の取り組み率

表3に示したように、中国語の取り組み校は全国的に広がっており、98年度末の時点で取り組み校を確認できなかったのは徳島、香川、愛媛の3県だけです。95年度末には、確認できなかったのは6県でした。98年度末で韓国朝鮮語の取り組み校が確認できていない県は、関東北部・東北・四国地域の計11県です。

地域と公私立校ごとの取り組みの違いを見るために、取り組み率(ある年度における、ある地域の高等学校数に対する取り組み校数の割合)を、都道府県別・公私立別に算出してみました。次ページの表5と表6に、それぞれの言語といずれかの言語の取り組み校(CJK)について取り組み率を示しています。これらの表から、地域と公私立校ごとの取り組みの特徴が浮き彫りになってくると思います。

全国的な割合を見ると、全高等学校の7.5%、公立校の6.7%、私立校の10.0%が中国語または韓国朝鮮語教育に取り組んでいます。中国語は全高等学校の6.4%、公立校の5.8%、私立校の8.4%、韓国朝鮮語は全高等学校の3.0%、公立校の2.7%、私立校の4.0%となっています。

■ 3年間で取り組み校が132校増加

中国語教育に関する第1回調査では、95年度末に221校の取り組み校を確認しました。取り組み校は80年代後半から急増していますが、その伸びは90年代後半にさらに顕著になっています。2回にわたる調査を通して、95年度-98年度の3年間に新たに132校の取り組み校を確認しました。表2(7ページ)に地域と公私立別の取り組み校の増加と取り組み率の変化について示しました。6県を除くすべての県で取り組み校が増えています。学校数の増加が大きかったのは、順に東京、大阪、兵庫、埼玉、京都、神奈川、千葉、福岡、佐賀、長崎、大分です。取り組み率では、佐賀、京都、大分、島根、山形での増加が目立っています。

表5 地域で見た取り組み率

都道府県	中国語 (C)	韓国朝鮮語 (K)	C U K ¹⁾
北海道	1.2	0.9	1.8
青森	1.1	-	1.1
岩手	2.0	3.0	4.0
宮城	3.5	2.7	4.4
秋田	1.5	-	1.5
山形	5.6	2.8	7.0
福島	1.8	-	1.8
茨城	2.3	-	2.3
栃木	3.6	-	3.6
群馬	6.9	1.1	6.9
埼玉	8.5	1.9	9.0
千葉	6.8	1.0	6.8
東京	11.1	2.6	11.4
神奈川	8.0	2.3	9.2
新潟	0.8	0.8	0.8
山梨	3.9	-	3.9
長野	1.9	2.8	3.7
富山	8.5	1.7	10.2
石川	4.5	4.5	4.5
福井	10.3	5.1	10.3
岐阜	6.4	1.1	6.4
静岡	4.7	-	4.7
愛知	3.9	0.4	3.9
三重	3.8	1.3	3.8
滋賀	13.8	8.6	15.5
京都	14.4	5.8	14.4
大阪	9.9	11.3	15.8
兵庫	10.4	4.8	11.7
奈良	6.2	3.1	6.2
和歌山	9.3	1.9	11.1
鳥取	11.4	11.4	17.1
島根	7.8	5.9	9.8
岡山	5.6	-	5.6
広島	4.3	11.3	11.3
山口	6.5	3.3	7.6
徳島	-	-	-
香川	-	-	-
愛媛	0.0	2.7	2.7
高知	3.8	-	3.8
福岡	9.7	4.3	9.7
佐賀	17.4	8.7	21.7
長崎	10.2	1.1	11.4
熊本	5.9	5.9	9.4
大分	11.7	7.8	11.7
宮崎	8.5	6.8	8.5
鹿児島	2.9	1.0	2.9
沖縄	12.1	3.0	12.1
全国	6.4	3.0	7.5

注) 都道府県別の高等学校の数は、平成10年度 学校基本調査報告書(文部省)による。

1) C UK: 二つの言語教育いずれかの取り組み校

表6 公私立別の取り組み率

都道府県	公 立			私 立		
	中国語 (C)	韓国朝鮮語 (K)	C U K ¹⁾	中国語 (C)	韓国朝鮮語 (K)	C U K ¹⁾
北海道	0.7	0.3	0.7	3.7	3.7	7.4
青森	-	-	-	5.9	-	5.9
岩手	2.3	2.3	3.4	-	7.7	7.7
宮城	3.2	1.1	3.2	5.3	10.5	10.5
秋田	1.7	-	1.7	-	-	-
山形	5.4	-	5.4	6.7	13.3	13.3
福島	1.0	-	1.0	5.9	-	5.9
茨城	1.8	-	1.8	4.8	-	4.8
栃木	2.9	-	2.9	6.7	-	6.7
群馬	1.4	-	1.4	38.5	7.7	38.5
埼玉	7.3	-	7.3	13.0	8.7	15.2
千葉	5.3	0.7	5.3	10.9	1.8	10.9
東京	12.7	4.1	13.1	9.7	1.3	9.7
神奈川	8.1	2.7	9.7	7.9	1.3	7.9
新潟	0.9	0.9	0.9	-	-	-
山梨	5.0	-	5.0	-	-	-
長野	1.1	2.2	2.2	6.3	6.3	12.5
富山	8.0	2.0	10.0	11.1	-	11.1
石川	5.4	5.4	5.4	-	-	0.0
福井	3.1	-	3.1	42.9	28.6	42.9
岐阜	5.1	1.3	5.1	12.5	-	12.5
静岡	3.8	-	3.8	7.0	-	7.0
愛知	2.3	-	2.3	8.9	1.8	8.9
三重	4.6	1.5	4.6	-	-	-
滋賀	14.0	8.0	16.0	12.5	12.5	12.5
京都	9.2	3.1	9.2	23.1	10.3	23.1
大阪	11.6	13.8	18.5	6.3	6.3	10.5
兵庫	11.8	5.6	13.5	5.8	1.9	5.8
奈良	6.1	2.0	6.1	6.3	6.3	6.3
和歌山	8.7	-	8.7	12.5	12.5	25.0
鳥取	13.8	13.8	20.7	-	-	-
島根	9.8	7.3	12.2	-	-	-
岡山	3.6	-	3.6	12.5	-	12.5
広島	5.7	10.4	10.4	-	14.3	14.3
山口	5.6	2.8	5.6	10.0	5.0	15.0
徳島	-	-	-	-	-	-
香川	-	-	-	-	-	-
愛媛	-	3.2	3.2	-	-	-
高知	2.2	-	2.2	12.5	-	12.5
福岡	10.5	3.2	10.5	8.1	6.5	8.1
佐賀	18.4	10.5	23.7	12.5	-	12.5
長崎	11.9	1.5	13.4	4.8	-	4.8
熊本	4.8	3.2	6.3	9.1	13.6	18.2
大分	8.2	4.9	8.2	25.0	18.8	25.0
宮崎	9.1	6.8	9.1	6.7	6.7	6.7
鹿児島	2.4	1.2	2.4	4.5	-	4.5
沖縄	12.9	3.2	12.9	-	-	-
全国	5.8	2.7	6.7	8.4	4.0	10.0

注) 都道府県別の高等学校の数は、平成10年度 学校基本調査報告書(文部省)による。

1) C UK: 二つの言語教育いずれかの取り組み校

2 外国語教育の中の 中国語と韓国朝鮮語

ここまで、二つの言語教育の取り組み校の概要を地域、開始年度、公私立別に見てきました。ここで日本の高等学校の外国語教育における中国語と韓国朝鮮語の位置づけを見たいと思います。

表7は、英語以外の外国語教育に取り組んでいる高等学校の現状を示しています。全国的に見ると、90年度以降は中国語が最も多く、97年度に303校となっています。同年に韓国朝鮮語は103校で、フランス語の191校に次いで多くの学校で開講されています。それぞれの学習者数が高等学校の全生徒数^{注)}に占める割合を見ると、中国語が15,390名で0.35%、韓国朝鮮語が3,929名で0.09%であり、高校生1,000人あたりの学習者は、それぞれ3.5人と0.9人となっています。フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語は、それぞれ1,000人あたり2.1人、1.1人、0.5人、0.2人であり、英語以外の外国語学習者はきわめて少数であることがわかります。ただし、これらの言語の取り組み校と学習者数が年ごとに増加していることも事実です。

注) 97年度の生徒数4,371,360名。平成10年度学校基本調査報告書(文部省)に基づく。

表7 英語以外の外国語を開講する高等学校

		学校数						履修者数 1997
		(年度)	1986	1988	1990	1993	1995	
中国語	公立	19	40	64	96	124	201	7,915
	私立	27	31	47	58	68	102	7,475
	合計	46	71	111	154	192	303	15,390
韓国朝鮮語 ¹⁾	公立	4	8	10	25	47	64	2,046
	私立	3	6	14	17	26	39	1,883
	合計	7	14	24	42	73	103	3,929
フランス語	公立	26	34	44	57	74	101	3,448
	私立	49	55	63	71	73	90	5,739
	合計	75	89	107	128	147	191	9,187
ドイツ語	公立	17	24	31	37	43	55	1,549
	私立	26	30	30	36	32	42	3,218
	合計	43	54	61	73	75	97	4,767
スペイン語	公立	7	9	13	23	27	47	1,249
	私立	12	12	18	16	16	21	987
	合計	19	21	31	39	43	68	2,236
ロシア語	公立	1	2	3	5	11	11	315
	私立	1	2	3	6	9	10	504
	合計	2	4	6	11	20	21	819
その他	公立	0	0	0	0	0	5	71
	私立	6	6	5	6	20	21	324
	合計	6	6	5	6	20	26	395
合計	公立	74	117	165	243	326	484	16,593
	私立	124	142	180	211	244	325	20,130
	合計	198	259	345	454	570	809	36,723

1) 文部省資料では朝鮮・韓国語

資料：高等学校における国際交流等の状況（文部省）

中国語教育の現状

—韓国朝鮮語教育との比較で見る

各校における中国語と韓国朝鮮語教育の開講に至る経緯や取り組みの内容は、地域や導入時期、学校の特性などによってさまざまあり、一様に論じることはできません。以下、いくつかの学校や教育委員会などの取り組み例を紹介しながら、二つの言語教育の置かれた現状を伝えたいと思います。韓国朝鮮語の取り組みを紹介する場合は、ハングルや韓国語など、それぞれの学校が使っている呼称を用います。

1 導入の経緯

取り組みに影響を及ぼす要因は、個々の学校で開講を推進し、維持している教員の努力、学校の改編(普通科・商業科から総合学科、統廃合など)、校長や理事長などの考え方、自治体の国際化政策などさまざまです。

◆ 大東文化大学第一(東京) 系列校である大東文化大学(中国語学科)の働きかけを受け、74年に中国語教育を開始。94年からは北京への修学旅行を実施している。2年次に全員が必修科目として1単位履修し、修学旅行での活用をめざして会話中心に学習する。3年次に継続履修する生徒は、ほとんど大東文化大学中国語学科に進学。

◆ 鹿児島県立鹿児島東 86年、全国で2番目に国際教養科を設置した。当初から実施していた中国語に加え、98年度に韓国語、フランス語、スペイン語を導入した。1年生全員

が必修科目として中国語会話を2単位履修する。4つの言語のいずれかを2年次は2単位、3年次は3単位履修できるカリキュラムを組んでいる。コミュニケーション能力の育成を第一に考えた10~20名のクラス編成で、中国語と韓国語はネイティブ教員とのチームティーチングで行う。中国、韓国の学校との姉妹校交流を始めており、将来は交換留学につなげたいと考えている。

◆ 兵庫県教育委員会 多様な外国語を学ぶ機会を設けるため、87年度に3つの県立高校を会場に中国語とハングル講座を開始した。二つの言語を学ぶことを通じて近隣地域との友好を深めて欲しいという願いからだ。県立高校に通う全ての生徒にこれらの言語を学ぶ機会を提供する試みが、第二外国語教育の可能性を広げている。授業は、土曜日(ほぼ隔週)の午後と夏季に行われる。クラブ活動や学校行事と重なることもあって、講座の出席状況が必ずしもよくなないことや、講座の実施校から遠い生徒の通学問題もあるが、一つのモデルとして注目される。湊川(中国語とハングル)、神崎工業(中国語)、姫路北(中国語)の3校で実施している。履修単位数は2単位。

◆ 岐阜市立岐阜商業 社会の変化に対応した商業教育を推進する観点から88年度に学科改編を行い、新たに誕生した経営管理科国際経済コースで中国語を開講。岐阜市と中国杭州市が姉妹都市提携を結んでいたことから、当時、岐阜商業と杭州市総合中等専業学校との間に姉妹校提携の話が持ち上

がっていたことが中国語導入への大きな推進力となった。

◆ 大阪府教育委員会 91年度から93年度にかけて府立高校9校に国際教養科を設置した。語学教育の充実を特色の一つとしており、第二外国語をカリキュラムに組み込んでいる。旭・佐野・住吉・花園・枚方・箕面の6校は中国語と韓国朝鮮語を、泉北・千里・長野の3校は中国語を開講している。旭は韓国、佐野・泉北・千里・花園・箕面は中国への修学旅行を実施している。韓国朝鮮語については、97-98年度に実施していない学校を含む。

◆ 南京都(京都) 理事長が78年に教育視察旅行で中国を訪れたことがきっかけとなり、中国の教育関係者との交流が始まる。理事会の意向で94年に国際交流コースに中国語クラスを開設。授業を担当するのは、教師歴30年を超えるベテランを中心に全員が中国から招聘された教員。1、2年次に各3週間の中国への短期留学を実施している。中国語クラスの卒業生は、ほぼ全員が中国語学科のある日本あるいは中国の大学に進学する。

◆ 石川県立辰巳丘 創立10周年を迎えた95年度に外国語コース中国語専攻を設置し、県で初めて中国語教育に取り組み始めた。講座を担当するのは教諭1人と金沢大学在学中の中国人留学生2人。中国語専攻に在籍している生徒は3年間で最高24単位を履修する。

◆ 鳥取県立青谷 友好都市である中国江蘇省太倉(タイツァン)市との交流を基盤に、環日本海交流の拠点をめざしていた青谷町と、生徒に目的意識を持たせるためのコース制導入を検討していた青谷高校の考えが一致し、95年度の国際コース誕生と同時に第二外国語として中国語とハングルの授業を開始した。学校祭の一環として日中韓高校生国際シンポジウムを青谷町が主催し、太倉師範学校と韓国慶尚南道の居昌(コチャン)商業高校から生徒と教員を招いている。ハングル講座の講師は町が招致した国際交流員である。

2 履修概要

表8に中国語と韓国朝鮮語の講座を設置している学科を示しました。どちらも普通科が最も多くなっています。普通科に設置している学校でも一部のコースだけ開講している場合が多く、中国語は94校中42校(44.7%)、韓国朝鮮語は52校中14校(26.9%)がそうなっています。97年度以降は、幅広い選択科目を設置できる総合学科で二つの言語教育を取り入れるところが増えています。

同時開講52校のうち14校は総合学科に設置しています。総合学科での取り組みは中国語29校、韓国朝鮮語18校を確認しています。中国語は総合学科を設置している学校(98年度、全国で106校)の27.4%、韓国朝鮮語は17.0%に相当します。長崎県は総合学科設置校3校すべてが中国語を開講しています。福島県では97年度に総合学科を設置した際に、公立高校として初めて中国語教育を導入しました。教育行政上も各通学地域に総合学科を持つ学校を1校ずつ設置することが目標となっており、総合学科の増加が二つの言語教育の広がりにつながると期待されます。導入当初は一部の学科の

表8 設置学科で見た取り組み校

学科	中国語	韓国朝鮮語
普通科	94	52
総合学科	29	18
国際経済科	22	4
商業科	19	4
国際科	14	6
国際教養科	14	6
国際文化科	7	3
外国語科	6	1
英語科	5	1
工業科	2	1
国際観光科	2	-
国際情報科	2	-
情報処理科	2	-
情報科	2	-

注) 一つの学校が複数の学科で取り組んでいる場合、重複がある。回答校のうち、2校以上で開講されている学科を記載した。

みに設置していた講座を、他の学科の生徒も履修できるカリキュラムに変更するなど、取り組み校内部での広がりも見られます。

◆ 関東国際(東京) 86年に外国語科中国語コースを設置し、専門科目としての中国語教育を開始した。99年度から普通科の生徒も2年次に必修選択科目として中国語を履修している。

◆ 神奈川県立大師 96年度に総合学科に移行し、97年度に中国語、フランス語、スペイン語、98年度にハングル、99年度にポルトガル語を開講した。6つの系列があり、地域国際系列の生徒が総合選択科目として履修している。

◆ 兵庫県立神戸甲北 97年度に普通科から総合学科へ移行した。アジア系の在日外国人が地域内に多く在住することから、「アジアと結ぶ」を学校の特色の一つに掲げ、外国語科目として中国語、ハングル、ベトナム語、インドネシア語を開講している。姉妹校関係にある韓国ウルサンの高校との間で、生徒の相互訪問を行っている。98年度に韓国

への修学旅行を実施した。上海市の位育(ウェイユ)中学との交流も準備している。

学校名に商業や工業などが含まれる専門(職業)高校の取り組み状況を表9に示しました。中国語に取り組んでいる商業高校は43校あり、取り組み校全体の12.2%に相当します。うち8校は70年度以前に中国語教育を開始しています。

表10に履修形態ごとの取り組み校数を示しました。最も多いのは自由選択で、中国語が46.6%(公立109校、私立29校)、韓国朝鮮語が53.2%(公立54校、私立13校)となっています。次に多いのが必修選択で、中国語32.8%(公立77校、私立20校)、韓国朝鮮語33.3%(公立33校、私立9校)となっています。中国語は83.8%が自由または必修選択で、必修は12.5%です。韓国朝鮮語は87.3%が自由または必修選択で、必修は9.5%となっています。必修と選択を組み合わせている学校がそれぞれ3.7%、3.2%あります。いずれの場合も選択科目として位置づける学校が大半を占めています。

表11は、履修期間ごとの取り組み状況を示しています。選択の場合は、履修できる最長期間を意味します。履修期間1年の取り組み校が中国語46.9%、韓国朝鮮語52.7%、2年間がそれぞれ38.5%と35.7%であり、中国語の

表9 専門高校での取り組み

	中国語	韓国朝鮮語
商業高校	43	8
工業高校	4	4
農業高校	1	1

表10 履修形態で見た取り組み校

履修形態	中国語			韓国朝鮮語				
	合計	(%)	公立	私立	合計	(%)	公立	私立
自由選択	138	(46.6)	109	29	67	(53.2)	54	13
必修選択	97	(32.8)	77	20	42	(33.3)	33	9
必修	37	(12.5)	11	26	12	(9.5)	3	9
必修選択+自由選択	13	(4.4)	11	2	1	(0.8)	1	-
必修+必修選択	9	(3.0)	5	4	1	(0.8)	-	1
その他 ¹⁾	2	(0.7)	1	1	3	(2.4)	2	1
合計	296	(100.0)	214	82	126	(100.0)	93	33

注) 一つの学校が複数の学科で取り組んでいる場合、重複がある。

1) 必修+自由選択、必修+必修選択+自由選択

表11 履修期間で見た取り組み校

期間	学年	中国語(%)	韓国朝鮮語(%)
1年	1	6	6
	2	43	22
	3	72	30
	その他	13	10
		134 (46.9)	68 (52.7)
2年	1-2	9	6
	2-3	97	40
	その他	4	0
		110 (38.5)	46 (35.7)
3年以上	1-3	42	11
	その他	0	4
		42 (14.7)	15 (11.6)
合計		286 (100.0)	129 (100.0)

注) 一つの学校が複数の学科で取り組んでいる場合、重複がある。

85.3%、韓国朝鮮語の88.4%で履修期間が1年または2年となっています。

表12に履修単位数ごとの開講状況を示しました。選択の場合は、履修できる最大の単位数を意味します。中国語、韓国朝鮮語のいずれも2単位が最も多く、それぞれ37.6%、40.8%を占めています。次に多いのが4単位で、29.3%、30.8%です。これらを合わせると、2または4単位の取り組み校が中国語で66.9%、韓国朝鮮語で71.7%となります。中国語は、94年度の調査では4単位が36.8%と最

も多く、続いて2単位が21.7%でした。表13は履修単位数と形態を合わせて見たものです。

履修単位数の多い高等学校を表14に示しました。10単位を超える12校のうち6校が私立です。開講年度で見ると、80年代後半から90年代前半に集中しています。

■ 学習者数と履修動機

これまで見てきたように、中国語や韓国朝鮮語など英語以外の外国語を履修している生

表12 履修単位数で見た取り組み校

単位数	中国語			韓国朝鮮語				
	合計	(%)	公立	私立	合計	(%)	公立	私立
1	4	(1.4)	2	2	5	(4.2)	3	2
2	108	(37.6)	81	27	49	(40.8)	41	8
3	24	(8.4)	14	10	7	(5.8)	4	3
4	84	(29.3)	66	18	37	(30.8)	30	7
5	13	(4.5)	10	3	6	(5.0)	4	2
6	29	(10.1)	21	8	10	(8.3)	7	3
7	8	(2.8)	7	1	1	(0.8)	1	0
8	3	(1.0)	3	0	0	(0.0)	0	0
9	2	(0.7)	1	1	2	(1.7)	1	1
10-19	8	(2.8)	4	4	2	(1.7)	1	1
20-28	4	(1.4)	2	2	1	(0.8)	0	1
	287	(100.0)	211	76	120	(100.0)	92	28

注) 一つの学校が複数の学科で取り組んでいる場合、重複がある。

表13 履修の単位数と形態で見た取り組み校

単位数	中国語				韓国朝鮮語			
	自選	必選	必修	その他	自選	必選	必修	その他
1	1	0	3	0	2	0	3	0
2	52	42	13	1	30	15	3	1
3	11	9	4	0	6	1	0	0
4	40	35	3	6	19	16	0	2
5	6	4	1	2	1	4	1	0
6	17	4	6	2	4	3	2	1
7	1	1	1	5	0	1	0	0
8	2	0	0	1	0	0	0	0
9	1	0	0	1	1	0	1	0
10-19	0	1	4	3	0	1	0	1
20-28	0	0	2	2	0	0	1	0
	131	96	37	23	63	41	11	5

注) 回答数は中国語287、韓国朝鮮語120

表14 履修単位数の多い取り組み校

学校 (*私立)	都府県	単位数	設置学科(開講年度)
不來方	岩手	25	普通科外国語学系(87)
金沢辰巳丘	石川	24	普通科外国語コース中国語専攻(95)
* 関東国際	東京	21	外国語科中国語コース(86)
* 明徳義塾	高知	20	普通科国際外國語(中国語)コース(95)
* 京都両洋	京都	19	国際コース(87)
伊奈学園総合	埼玉	18	普通科語学(中国語)コース(91)
* 敷賀気比	福井	18	国際科中国語コース(94)
* 南京都	京都	18	国際交流中国語コース(94)
向陽	沖縄	15	国際文化科(95)
* 柴田女子	青森	14	普通科中国語コース(95)
桃谷通信制・定時制	大阪	12	外国語科(92)
玄界	福岡	11	普通科国際文化コース(88)

注) 単位数が10単位を超える取り組み校を掲載した。

徒は、ほとんどの学校でごく一部に限られています。このことは学校ごとの学習者数(表15)にも表れています。1校あたりの学習者数は11名から20名規模のところが最も多く、中国語で23.0%、韓国朝鮮語で25.4%となっています。以下、中国語の場合は、21-30名が回答校の15.3%、10名以下と101名以上が各11.5%、

31-40名が10.0%の順です。韓国朝鮮語の場合、10名以下が22.2%、101名以上が14.3%、31-40名が12.7%、21-30名が9.5%の順です。学習者数が20名以下の学校は、中国語が34.4%、韓国朝鮮語が47.6%で、30名以下は49.8%と57.1%となっています。中国語は、取り組み校の約半数が学習者数30名以下であり、韓国朝鮮語になると約半数が20名以下です。

表16は、これらの中でとくに学習者数が多い学校を示します。中国語の場合は150名を超える高校17校のうち13校が私立校で、韓国朝鮮語の場合は学習者数100名を超える高校10校のうち4校が私立校です。中国語では修学旅行以外にも語学研修や姉妹校提携を実施している学校が多くみられます。韓国朝鮮語の上位6校はすべて修学旅行を実施しています。地域的に見ると、中国語が全国に広がっているのに対して、韓国朝鮮語は山形・東京(各1校)以外は関西以西に集中しています。

アンケート調査によれば、中国語、韓国朝鮮語とともに、二つの言語を選択する生徒の履修動機は、ことばと文化に対する関心が最も高くなっています。中国語の場合、『三国志』を読む、香港映画を見る、中国語の歌を聞く

表15 学習者数で見た取り組み校

学習者数	中国語			韓国朝鮮語				
	合計	(%)	公立	私立	合計	(%)	公立	私立
2 - 10	24	(11.5)	19	5	14	(22.2)	12	2
11 - 20	48	(23.0)	34	14	16	(25.4)	7	9
21 - 30	32	(15.3)	27	5	6	(9.5)	4	2
31 - 40	21	(10.0)	17	4	8	(12.7)	6	2
41 - 50	10	(4.8)	7	3	4	(6.3)	2	2
51 - 60	17	(8.1)	11	6	2	(3.2)	1	1
61 - 70	12	(5.7)	9	3	3	(4.8)	1	2
71 - 80	10	(4.8)	8	2	0	(0.0)	0	0
81 - 90	6	(2.9)	3	3	0	(0.0)	0	0
91 - 100	5	(2.4)	5	0	1	(1.6)	1	0
101以上	24	(11.5)	7	17	9	(14.3)	5	4
学校数	209	(100.0)	147	62	63	(100.0)	39	24
学習者数	11,981		5,990	5,991	3,276		1,589	1,687

注) 文部省資料によれば、97年度の開設学校数(学習者数)は、中国語303(15,390)、韓国朝鮮語103(3,929)である。表はアンケート調査の回答分のみ。

表16 学習者数の多い取り組み校

学校名 (*私立)	都府県	学習者数	履修形態(開講年度)	交流プログラム
*京都両洋	京都	648	国際コース必修(87)	語学研修
*桜丘	愛知	507	普通科1年必修(85)	姉妹校
*長門	山口	490	商業科必修(93)	
*慶應義塾	神奈川	420	3年必選+自選(83)	
*関西	岡山	310	商業科流通経済・情報処理コース必修(73)	
*立花	福岡	276	普通科中国語コース必修(73)	
桃谷通信制・定期制	大阪	260	外国語科1-2年必選、3年自選(92)	
*大東文化大学第一	東京	245	普通科2年必修、3年必選+自選(73)	修学旅行
*関東国際	東京	216	外国語科中国語コース各学年必修(86)	修学旅行、語学研修
*武蔵野	東京	183	1-3年自選(70)	
*群馬女子短大附属	群馬	179	普通科進学コース、選抜クラス、特別進学クラス(90)	
*沖学園	福岡	170	社会総合学科1年必選(97)	
*国際開洋第一	静岡	167	普通科国際コース各学年必修(85)	
鹿児島東	鹿児島	163	国際教養科1年必修、2-3年必選(86)	姉妹校
浦添商業	沖縄	162	国際観光科1-3年必修+必選、商業科3年必選(88)	
神戸商業	兵庫	155	商業科国際コース2-3年必選、進学コース、就職コース必選(79)	
*立命館宇治	京都	152	普通科2-3年自選(96)	修学旅行、姉妹校

注) 学習者数が150名を超えるものを掲載した。

など、自分たちに身近なものを通じてことばや文化に触れたことが履修のきっかけになっています。97年1月の大学入試センター試験から、外国語科目に中国語が加わりましたが、大学受験を生徒の中国語の履修動機に挙げた学校は多くありません。

表17に見られるように、中国語での受験者数は、フランス語、ドイツ語を上回っていますが、センター入試を中国語で受験した生徒がいる学校は15校(回答校の5.7%)で、うち7校は中国語コースなど3年間の履修単位数が10単位を超えていました。履修単位数2~4単位の学校が最も多い現状で、中国語を受験科目として選択する生徒がほんの一部に限られていることがわかります。

大学教育とのつながりで言えば、大学でも第二外国語として継続して学習したり、中国や中国語の専門課程のある大学への進学や留学を希望する生徒が増えています。

3 教員をめぐる状況

講座を担当する教員として中国語360名、韓国朝鮮語101名(いずれも延べ人数)を確認しました。ただし、複数の学校で教えている教員も多く、実際の人数はこれより少ないものと思われます。

調査では、講座の担当教員とともに、講座を担当する教科の教諭の役割に着目しました。担当教科の教諭は、中国語や韓国朝鮮語を導入するために、教職員や管理職を説得することから、講師の確保や受講生募集、教室の手配などを一手に引き受けるだけでなく、

表17 センター試験の外国語受験者数

	中国語	フランス語	ドイツ語
1997年	243	182	168
1998年	242	162	142
1999年	223	178	134

資料：大学入試センター

開講後も授業がある時間しか学校に来ない非常勤講師と生徒や学校側との調整役を務めるなど、講座運営に積極的に関わっています。こうした教師たち(本人が授業を受け持つ場合とそうでない場合がある)が中国語と韓国朝鮮語教育を支える大きな力となっています。

◆ 千葉県立幕張総合 担当の杉山辰夫教諭は、生徒にネイティブの中国語に触れさせたいと個人的ネットワークで講師を探しました。ほぼボランティアという条件で日中の授業を担当してくれる講師は見つからなかったが、放課後の時間という条件で講師が見つかり、97年度から毎週月曜日に課外授業を開始した。教諭は毎週の授業に参加するだけでなく、月に一度は夜遅くまで講師と授業の打ち合わせをする。

◆ 東京都立日比谷 97年度から第二外国語の選択科目として、中国語とハングル講座をスタートした。担当教科である国語科の加藤明雄教諭と佐藤和夫教諭の働きかけにより、職員会議では全会一致で同時開講が決まった。長年にわたってフランス語・ドイツ語講座を継続してきた伝統があったとはいえ、推進役を務めた両教諭の存在が大きい。

◆ 兵庫県立神戸甲北 中国語担当の水畠哲也教諭は、98年度に中国語の授業が始まるまで長年準備を進めてきた。92年から全国高等学校中国語教育研究会の全国大会や関西支部の学習会に参加し、何をどうやって教えるかを学んできた。97年には静岡中国語講座が主催する第2次中国語教師養成研修団に参加し、北京語言文化大学で3週間にわたり研修を受けた。中国を訪れるたびに授業の補助教材を収集してくるほか、中国紹介ビデオを自ら撮影・編集し、これらを授業に使っている。宿題プリントを配布したり『你好通信』を発行して、生徒の学習意欲を高めている。

表18に講師・教諭等の職名ごとの担当教員数を示しました。中国語、韓国朝鮮語いずれの場合も講師が多く、それぞれ65.0%、59.4%

です。中国語については、講師の占める割合が94年度の調査と比べて5.2ポイント増加しています。教諭の占める割合は、それぞれ26.1%、33.7%となっています。

表19に教員免許ごとの教員数を示しました。中国語免許の保持者が63.9%であるのに対して、朝鮮語免許の保持者は37.3%であり、教員免許の保有率に大きな差があります。また、中国語は国語免許の保持者が42.2%いるのが特徴であり、韓国朝鮮語の場合は英語免許の保持者が27.5%いるのが特徴となっています。臨時免許の保持者は中国語が5.6%、韓国

朝鮮語が15.7%です。担当教科の外国語免許(臨時を含む)を保持する者の割合は、中国語教員69.4%に対して、韓国朝鮮語教員52.9%となっています。

中国語の場合、免許についての回答数が今回の調査で確認した担当教員数の50%(180/360)であり、未回答者を含めると、中国語免許を持たない教員の比率はさらに高くなるとの指摘もあります。

表20に担当教員数ごとの取り組み校数を示しました。中国語と韓国朝鮮語とともに1名だけの教員で担当している場合が最も多く、それぞれ69.1%、75.4%となっています。2名の場合は(22.0%、14.5%)を含めた教員数1~2名は、それぞれ91.1%、89.9%であり、大部分の取り組み校で常勤と非常勤を合わせて2名以下の教員が担当していることがわかります。

表21に担当教員の母語について示しました。また、いずれの言語の場合も担当教員の約6割を占め、今後も二つの言語教育を支える大きな力になると予想される講師の母語を見たのが表22です。中国語の場合、担当教員全体で見ると日本語を母語とする者が全体の

表18 職名で見た担当教員数

職名	中国語		韓国朝鮮語
	94年度 (%)	97年度 (%)	97年度 (%)
講師	128 (59.8)	234 (65.0)	60 (59.4)
教諭	59 (27.6)	94 (26.1)	34 (33.7)
ALT ¹⁾	27 (12.6)	25 (6.9)	3 (3.0)
その他	0 (0.0)	7 (1.9)	4 (4.0)
	214 (100.0)	360 (100.0)	101 (100.0)

1) Assistant language teacher

表19 免許で見た担当教員数

中国語		
免許の科目と種類		(%)
中国語	中国語のみ	40
	+ 国語	48
	+ 英語	20
	+ その他	7
		115 (63.9)
臨時免許	臨時免許のみ	6
	+ 社会	2
	+ 国語	1
	+ 国語+社会	1
		10 (5.6)
他教科	国語	26
	社会	10
	英語	9
	その他	10
		55 (30.6)
	合計	180 (100.0)

1) 免許の科目名は朝鮮語である。

2) 臨時免許の科目名は教育委員会によって異なる。

韓国朝鮮語		
免許の科目と種類		(%)
朝鮮語 ¹⁾	朝鮮語のみ	11
	+ 英語	5
	+ その他	3
		19 (37.3)
臨時免許 ²⁾	臨時免許のみ	6
	+ 英語	2
		8 (15.7)
他教科	英語	7
	国語	4
	音楽	3
	商業	2
	社会+その他	2
	農業	2
	その他	4
		24 (47.1)
	合計	51 (100.0)

56.4%を占めています。講師では中国語を母語とする者の方が多くなっており、2人に1人強が母語話者です。韓国朝鮮語は、バイリンガルを含めると、担当教員全体で58.9%、講師では72.2%が母語話者です。

表23に授業時間数別の担当教員数を示しました。中国語、韓国朝鮮語いずれも2時間が最も多く、それぞれ28.7%、28.9%を占めています。次に多いのが4時間で、23.1%、17.8%となっており、いずれも担当教員の約半数が2~4時間となっています。

■ 教員のためのプログラム

教員たちは国内外での研修の機会や他校の状況に関する情報を求めています。高校の教員が主体となった研究会も、地域レベルでの活動が活発化しています。中国語教育関係者

や教育委員会も海外研修など独自のプログラムを開始しており、研修や情報交流の機会は以前に比べて多くなっています。

◆ 全国高等学校中国語教育研究会 関東、関西支部がそれぞれ研究会を行っていたのに加え、97年度より中部支部も大学と連携し

表21 担当教員の母語

母語	中国語 (%)	母語	韓国朝鮮語 (%)
中国語	141 (42.7)	韓国朝鮮語	48 (50.5)
日本語	186 (56.4)	日本語	39 (41.1)
バイリンガル	3 (0.9)	バイリンガル	8 (8.4)
330 (100.0)			95 (100.0)

表22 担当講師の母語

母語	中国語 (%) ¹⁾	母語	韓国朝鮮語 (%)
中国語	114 (54.3)	韓国朝鮮語	34 (63.0)
日本語	93 (44.3)	日本語	15 (27.8)
バイリンガル	3 (1.4)	バイリンガル	5 (9.3)
210 (100.0)			54 (100.0)

1) 94年度は母語が中国語50.9%、日本語49.1%

表23 授業時間で見た担当教員数

時間数	中国語 (%)	韓国朝鮮語 (%)
1	8 (2.6)	4 (4.4)
2	87 (28.7)	26 (28.9)
3	28 (9.2)	8 (8.9)
4	70 (23.1)	16 (17.8)
5	15 (5.0)	5 (5.6)
6	39 (12.9)	3 (3.3)
7	4 (1.3)	1 (1.1)
8	10 (3.3)	6 (6.7)
9	3 (1.0)	4 (4.4)
10	9 (3.0)	2 (2.2)
11	6 (2.0)	1 (1.1)
12	2 (0.7)	3 (3.3)
13	0 (0.0)	1 (1.1)
14	2 (0.7)	4 (4.4)
15	5 (1.7)	1 (1.1)
16	9 (3.0)	0 (0.0)
17	1 (0.3)	1 (1.1)
18	5 (1.7)	3 (3.3)
19	0 (0.0)	1 (1.1)
303 (100.0)		90 (100.0)

教員数／職名	中国語 (%)	韓国朝鮮語 (%)
1名 講師	128	39
教諭	35	10
ALT	3	1
その他	4	2
	170 (69.1)	52 (75.4)
2名 教諭+講師	22	4
講師	16	4
講師+ALT	8	0
教諭+ALT	4	2
教諭	2	0
教諭+その他	2	0
	54 (22.0)	10 (14.5)
3名 教諭+講師	3	2
講師	3	1
教諭+講師+ALT	3	0
教諭	1	2
講師+ALT	1	0
教諭+その他	1	0
	12 (4.9)	5 (7.2)
4名 教諭+講師	4	2
以上 教諭+ALT	3	0
講師	2	0
教諭+講師+ALT	1	0
	10 (4.1)	2 (2.9)
合計	246 (100.0)	69 (100.0)

て研究会開催などの活動を開始した。98年度には、神奈川県下の中国語の担当教員が研究会を発足し、3カ月に1回会合を開催している。

- ◆ **中国語教育研究会** 現代中国語の教授法向上をめざし、86年より研究会を開催。第二外国語としての中国語教育の現場における問題点をテーマに取り上げ、毎回2名の講師が報告する。研究会の主な参加者は大学(第二外国語)、高校、民間の中国語教育機関の教員。
- ◆ **中国語教育協議会** 中国語教育に携わる教員間の交流と外国語科目としての中国語教育の確立と充実を図ることを目的に、97年に設立された。98年度より教員セミナーを実施している。研修テーマは、発音教育、文法教育、教科書の作り方、学力判定法など。
- ◆ **神奈川県教育委員会** 中国側の要請により、79年から県立高校の国語科の教員を中国の大学に日本語教師として派遣している。98年現在、県内3つの公立高校で派遣教員が中国での経験を生かして中国語の講座を担当している。
- ◆ **鳥取県教育委員会** 96年度に日本で初めて独自に中国語指導助手(ACT: Assistant Chinese Teacher)を招聘した。ACTの採用にあたっては、担当者自らが中国を訪れて面接を行っている。県内の中国語教育の充実を図るために、近い将来、県立高校の教員を中国に派遣することを検討している。
- ◆ **長崎県教育委員会** 中国語教員養成のために、上海の華東師範大学に県立高校の現職教員を毎年2名、11カ月間派遣する語学研修プログラムを97年に開始した。中国語教育を実施あるいは実施予定の学校、中国への修学旅行を実施している学校の教諭が研修に参加している。
- ◆ **静岡中国語講座** 高校の中国語教師を対象に中国語のレベルアップと教育理論・教授法の習得をめざした研修会を主催。研修会

場は北京語言文化大学、期間は夏休み中の約3週間。

4 教材と授業の工夫

これまで見てきた単位数・学習者や教員数などの実情に応じて中国語、韓国朝鮮語教育とともに、多くの学校では会話と社会・文化事情の学習に重点を置いています。学習内容の基準がなく、教材も不足している中で、担当教員は日々の授業に取り組んでいます。

■ 求められる高校生向け教科書

表24に多く使われている教材を示しました。94年度の調査と同様、最も多く使われているのは『高校中国語』(83年初版、94年改訂版発行白帝社)で、75校が使用しています。今回の調査では、100種類を超える教材が挙げられました。教材が不足していると答えた学校が129校(回答校の48.7%)あり、教材は依然として大きな課題となっています。多くの教員が高校生向けの教科書や教材の不足を訴えています。

■ 授業の工夫

授業では映画やビデオ鑑賞・調理実習・民俗芸能の実演など、生徒の学習意欲を高めるためのさまざまな工夫が行われています。とくにネイティブ・スピーカーの授業参加は発音指導や生徒の文化理解の促進に効果があることから、多くの学校がチームティーチングを希望しています。

87年度に始まったJETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)による中国語・韓国朝鮮語のALTは、98年度に初めて中国から3名(長崎・福井県)、韓国から1名(鳥取県)が招致されました。英語圏から約5年遅れて、92年度に中国から、93年度に韓国から招致されるようになった国際交流員も、中国語や韓国朝鮮語の講師を務めています。地域に

在住する留学生や母語話者が授業に参加している例も多く見られます。

◆ 千葉県立松戸国際 中国語担当の大野隆敏 教諭は、民族習慣や言葉の正しい使い方を知る上で、映像教材の活用が有意義だと考えており、映画『乳泉村の子(原題：清涼寺钟声)』を授業の補習教材に使っている。日中間の歴史などほとんど知らない、あるいは多少の知識はあってもそれ以上積極的に知ろうとしない生徒が日中友好について考えるきっかけとなり、日中間の歴史について知識だけではなく心情面でも理解を深めることができがねらいである。一応の基礎知識を与えた上で映画を鑑賞させる。今後、この映画の中からいくつかの場面を選んで簡単なテキストを作成し、語学面の学習を進めていく予定である。

◆ 石川県立辰巳丘 語学力の向上を図るために、2年次の海外語学研修(北京・上海・蘇州)をはじめ、校内中国語スピーチコンテストを年2回実施している。石川県留学生協会主催の交流会への参加、金沢大学の中国人留学生を招いた餃子パーティ、地元企業が香港から招いた留学生を生徒宅にホーム

ステイさせるなど、担当の菅原宏教諭は地域を巻き込んだプログラムを進めている。

◆ 三重県立松阪商業 課題研究の1講座として中国語を開講。3単位を1時間と2時間続きの授業で行っている。年度末に行う発表会では、中国語と日本語(解説)による会話劇を実施。生徒の中国に対する関心を深めるため、1学期に1回は中国料理の実習時間を設けている。

◆ 鳥取県立青谷 県が招聘したACTとのティームティーチングで授業を進めている。授業の日はACTがずっと学校にいるので、中国に関する生徒たちの質問や留学の相談に応じたり、学校の教職員を対象とした中国語会話の講座も行っている。

◆ 鹿児島県立鹿児島東 中国語会話の授業はすべてネイティブの講師とティームティーチングで行っている。ネイティブの発音を生徒の耳に残したいとの思いから、教室では講師が文法の説明から会話まで、できるだけ中国語を使って授業を進めている。定期テストや小テストにもヒアリングや相互問答を必ず取り入れている。

表24 多く使われている教材

教材	出版社	使用校数 ¹⁾
高校中国語 ²⁾	白帝社	75 (41)
ポイント学習 中国語初級	東方書店	12 (5)
中国語はじめの一歩	白水社	10 -
標準中国語 ^{1,3)}	白帝社	8 (10)
青年漢語	東方書店	8 -
入門北京カタログ	朝日出版社	8 -
新中国	中華書店	7 (4)
中国語123	白水社	5 (7)
最新中国語教本	中華書店	5 (4)
実用漢語課本	東方書店	5 (3)
漢語入門	好文出版	5 (1)
基礎中国語会話	東方書店	4 (6)
12回で学ぶ中国語	白帝社	4 (2)
言える中国語	同学社	4 -
漢語基礎課本	白帝社	4 -

1) () 内は94年度の数字 2) 改訂版22を含む 3) 修訂版3を含む

■ スピーチコンテストと検定試験

弁論大会に参加し、学習成果を発表することで学習意欲を高めている学校が多数あります。全国高等学校中国語教育研究会は、関東支部、関西支部がそれぞれ、高校生対象の朗誦暗唱・弁論大会を開催し、年々参加者が増えています。京都外国語大学も97年から高校生中国語スピーチコンテストを開始しました。全日本中国友好協会主催の中国語弁論大会や朝日スピーチコンテスト中国語弁論大会の上位入賞者にも、高校生が顔を見せるようになっています。中国語検定試験やHSK(漢語水平考試)など検定試験も学習目標の一つになっています。

5 言語学習と交流プログラム

生徒が中国語や韓国朝鮮語を話す地域の文化をより身近なものに感じられるよう、取り組み校は授業のほかにも、言語学習を支えるさまざまなプログラムを実施しています。

■ 中国語圏と韓国への修学旅行

言語学習をサポートするプログラムとして、最も多くの取り組み校が実施しているのが修学旅行です。中国語の場合、中国・台湾・シンガポールなどの中国語圏に修学旅行を実施している学校は15.6%(55校)です。韓国朝鮮語の場合、韓国を訪問している学校は

25.5%(42校)です(いずれも予定を含む)。修学旅行を目標に学習を進めるなど、言語学習と積極的に関連づけている学校も見られます。

72年に私立高校2校が韓国への修学旅行を実施したのが海外への修学旅行の始まりです。公立高校の海外修学旅行は、84年の韓国(福岡県)、87年の中国(浦和市)に始まり、その後実施校と生徒数は年々増え続けています(表25参照)。一方で、海外への修学旅行を規制している自治体もあります。98年度現在、8都道府県(茨城、栃木、千葉、東京、神奈川、長野、愛知、和歌山)と6政令指定都市(札幌、千葉、川崎、横浜、名古屋、神戸)が海外への修学旅行を認めていないため、これらの地域にある公立高校では実施できない状況にあります。しかし、すでに試行に入っている

表25 海外修学旅行を実施する高等学校

国・地域	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
韓国	公立	40	45	49	67	107	139	146
	私立	90	85	92	90	84	90	82
	合計	130	130	141	157	191	229	224
	生徒数	-	-	33,760	36,570	40,677	41,599	38,769
中国	公立	5	10	31	44	57	62	69
	私立	21	21	40	46	46	54	55
	合計	26	31	71	90	103	116	124
	生徒数	-	-	19,619	25,126	29,497	27,840	27,810
アジア (韓国・中国を除く)	公立	3	3	7	3	10	17	36
	私立	31	30	34	40	45	60	55
	合計	34	33	41	43	55	77	91
	生徒数	-	6,714	6,815	6,591	9,666	11,736	13,896
北米 ¹⁾ ・ハワイ	公立	0	1	2	4	8	13	17
	私立	72	66	84	100	113	132	138
	合計	72	67	86	104	121	145	155
	生徒数	-	8,635	18,759	21,916	23,218	26,556	27,303
オセアニア ²⁾	公立	0	1	1	1	3	12	16
	私立	22	24	39	48	59	85	88
	合計	22	25	40	49	62	97	104
	生徒数	-	6,160	8,570	10,157	13,339	20,047	19,352
ヨーロッパ・その他 の地域	公立	0	0	0	0	0	4	2
	私立	5	7	18	22	27	45	47
	合計	5	7	18	22	27	49	49
	生徒数	-	446	1,008	1,633	3,047	5,508	5,160
合計	公立	48	60	90	119	185	247	286
	私立	241	233	307	346	374	466	465
	合計	289	293	397	465	559	713	751
	生徒数	-	-	88,531	101,993	119,444	133,286	132,290
								140,918

資料：海外修学旅行の実施状況（日本修学旅行協会）

1) 米国、カナダ、メキシコ 2) オーストラリア、ニュージーランド、グアム、サイパン

ところもあり、規制緩和の方向にあります。

海外への修学旅行の実施状況(表25)を目的地別に見ると、生徒数では韓国が最も多く、中国がそれに次いでいます。97年度は、韓国38,769名(228校)、中国27,810名(124校)、北米・ハイ27,303名(155校)、オセアニア19,352名(104校)の順です。97年度と98年度を比較すると、韓国・中国を除くアジア地域で21.4%、中国で13.4%増加しています。97年度に修学旅行で中国を訪れた生徒数は中国語学習者数の約2倍、韓国を訪れた生徒数は韓国朝鮮語学習者数の約10倍となっています。教科として中国語や韓国朝鮮語を取り入れていなくても、修学旅行の事前学習として訪問先の文化事情や言語について学ぶ学校が多く、修学旅行との関連で、これらの言語や文化について学ぶ機会が広がることが期待されます。

中国語の履修単位数が多い学校の中には、語学研修で中国を訪れている学校があります。中国語を担当する教員が研修旅行を主催するケースも見られました。企画・引率する担当教員にかかる負担は大きいのですが、生徒にとって中国語学習の成果を発揮するよい機会になっています。

◆ 兵庫県立神戸商業 中国語学習者に生の中国と中国語を体験させたいとの中野貞弘教諭の思いから、97年に4日間の北京への中国語研修旅行を実施した。参加者ができるだけ中国語を使えるよう、旅行直前には通常の授業に加えて10時間の研修を行った。

■ 姉妹校交流

中国語の場合、中国・台湾・シンガポールなど中国語圏に姉妹校のある学校は取り組み校の13.0%(46校 公立19、私立27)あり、韓国朝鮮語の場合、韓国に姉妹校のある学校は13.3%(22校 公立4、私立18)あります。姉妹校交流は公立に比べて私立の取り組みが多いことがわかります。修学旅行や語学研修の際に姉妹校を訪問し、交流会を開催する例が多く見られます(表26、27参照)。

◆ 立命館宇治(京都) 98年に天津外国语学院

附属外国语学校と姉妹校提携を結ぶ。夏休みには外国语学校日本語科の協力を得て、約2週間の語学研修を実施している。

◆ 和歌山県立那賀 98年1月に山東省実験中

学と姉妹校提携を結ぶ。同年8月に那賀高校の生徒、教職員など22名が5泊6日の日程で訪中した。滞在期間中、生徒は2泊のホームステイを体験した。99年は実験中学の生徒を受け入れる予定。

表26 海外姉妹校と提携する高等学校

国・地域	1986	1989	1991	1993	1995	1997
米 国	公立	64	81	133	137	150
	私立	68	83	123	121	197
	合計	132	164	256	258	347
オーストラリア	公立	17	26	45	56	83
	私立	23	34	61	75	136
	合計	40	60	106	131	219
ニュージーランド	公立	0	0	8	11	15
	私立	6	10	25	28	47
	合計	6	10	33	39	62
韓 国	公立	6	9	17	20	28
	私立	56	65	79	77	83
	合計	62	74	96	97	111
カナダ	公立	7	8	19	20	19
	私立	7	14	30	32	62
	合計	14	22	49	52	81
中 国	公立	11	13	20	13	21
	私立	19	29	24	29	51
	合計	30	42	44	42	99
台 湾	公立	0	0	3	2	4
	私立	24	11	32	31	29
	合計	24	11	35	33	35
その他の地域	公立	2	3	7	8	14
	私立	15	18	34	52	58
	合計	17	21	41	60	143
合 計	公立	107	140	252	267	334
	私立	218	264	408	445	663
	合計	325	404	660	712	997
						1,352

資料：高等学校における国際交流等の状況(文部省)

表 27 中国語圏に姉妹校を持つ取り組み校

学校名 (*私立)	都道府県	交流相手校	所在地
* 函館昭和女子学園	北海道	青島旅游学校	青島
* 尚志	福島	瀋陽第20中学	瀋陽
* 浦和実業学園	埼玉	北京師範大学第二付属中学	北京
伊奈学園総合	埼玉	天津外国语学院附属	天津
* 早稲田大学本庄	埼玉	北京大学附属中学	北京
柏	千葉	承德第一中学	承德
* 関東国際	東京	北京語言文化大学 蘇州大学	北京 蘇州
* 武蔵	東京	人民大学付属高校	北京
* 桜美林	東京	上海外国语学校	上海
* 平和学園	神奈川	淡江高級中学	台北
* 高岡向陵	富山	大連第八中学	大連
福光	富山	稽山中学	紹興
* 敦賀気比	福井	北京外国语大学	北京
岐阜商業	岐阜	杭州市綜合中等專業学校	杭州
* 御殿場西	静岡	華州高級工業家事職業学校	高雄
* 桜丘	愛知	南京師範大学附属中学	南京
* 東邦	愛知	南京外国语学校	南京
* 津島女子	愛知	静修女子高級中学	台北
西京商業	京都	オートラム・セカンダリー・スクール	シンガポール
* 立命館宇治	京都	天津外国语学院附属外国语学校	天津
扇町	大阪	上海復興中学	上海
千里	大阪	鎮江市第一中学	鎮江
神戸甲北	兵庫	位育中学	上海
* 甲南女子	兵庫	天津外国语学院	天津
* 國際開洋第二	和歌山	南樓中学校	天津
那賀	和歌山	山東省実験中学	濟南
青谷	鳥取	太倉師範学校	太倉
防府商業	山口	濟南第二職業中等專業学校	濟南
下関商業	山口	青島第一職業高級中学	青島
* 明徳義塾	高知	大連理工大学	大連
玄界	福岡	北京市第三十一中学	北京
* 揚志館	大分	北京月壇中学	北京
* 日章学園	宮崎	協和高級工商職業学校 大連第一中学校	台北 大連
鹿児島東	鹿児島	天津市立第三十四中学	天津
* 鹿児島城西	鹿児島	景文高級中学 大連市第一中学、大連市職業高級中学	台北 大連
向陽	沖縄	北京外国语大学	北京

注) 交流相手校の名称は、アンケート調査の回答内容に基づいて記載した。

中国語教育の定着に向けて — TJF の取り組みを中心に

TJFは、96年4月に発行した「高校中国語教育」に関する報告書の中で、中国語教育が抱える課題を解決するための10項目の提言を行いました。TJFとしては、これらの項目のうち、いくつかの課題に取り組んできました。現状の把握と課題の明確化から始まった「高校中国語教育」との関わりは、課題の解決と定着化に向けた努力の段階に入っています。

1. 第二外国語としての中国語教育を積極的に推進する
2. 高校中国語のガイドラインを作成する
3. 高校中国語の標準テキストを編纂する
4. 資格をもった中国語担当教員を確保する
5. 教員を養成するとともに再研修の機会を提供する
6. 教員主導の研鑽の機会を充実させる
7. 教員の海外研修の機会をつくる
8. 一日も早くACT(中国語指導助手)招致を実現させる
9. 教員間のネットワークを構築する
10. 中国語教育関連の情報を共有する

や学習項目が設定されていないことが、最も深刻な問題として浮かび上がりました。このような中で、現場の教員で基準作りをという研究会の志の思いに応え、95年度よりガイドライン作成プロジェクトに協力することにしました。

研究会の副会長と理事を中心に、数回の合同合宿を含めた検討が重ねられ、96年の研究会第14回大会で、文法項目・語彙項目について第1次案が提示されました。それをたたき台としながら、研究会の一プロジェクトとして取り組むことが確認され、96年の第2次、97年の第3次案を経てようやく98年に語彙と文法に関する最終案がまとまりました。日々の仕事に追われているプロジェクトメンバーが一堂に会して、「高校中国語教育」で教える文法項目と語彙を決める作業は予想以上に多くの時間を要しました。

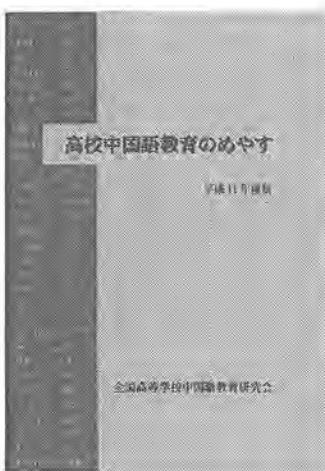
プロジェクトの成果は、大学関係者の協力も得て『高校中国語教育のめやす』平成11年度版(A4版 本文20ページ)として結実し、99年6月に発行の運びとなりました。TJFは、4年間にわたってプロジェクトに対する助成を行うとともに、出版に至る編集協力をしました。『めやす』の完成は、「高校中国語教育」にとって画期的なものであり、その広がりに果す役割も大きいと思われます。

■ 『高校中国語教育のめやす』の特色

1. 高校生が第二外国語として中国語を学ぶために、何をどのような配列・順序で学習することが望ましいかを軸に作成した

1 『高校中国語教育のめやす』の完成

「高校中国語教育」の基準の必要性はかなり以前から指摘されており、89年の全国高等学校中国語教育研究会の第7回大会で「学習指導要領の試案づくり」が議題に挙げられました。TJFの94年度調査でも、基準となる学習目標



『高校中国語教育のめやす』をご希望の方は、TJFまでお問い合わせください。

2. 高等学校における中国語の学習目標を次の2点とした
 - (1) 中国語の音声上の特徴を考慮し、発音指導を重視して中国語の基礎的な能力を養う
 - (2) コミュニケーション能力の養成をはかり、国際理解・異文化理解を深める
3. 入門初級段階の音声指導を考慮し、標準単位数を3~4単位とした
4. 経験豊富な高等学校の中国語教員が中心となってまとめた一つの提案であり、拘束的な性格は持たない

2 中国の日本語教育との連繋

TJFは、「高校中国語教育」と関わる一方で、92年以来中国における日本語教育関連事業として、中国で日本語を学習する中高生を対象とした弁論大会や東北三省(黒竜江省、吉林省、遼寧省)と内モンゴル自治区の普通中学や高級中学の日本語教師を対象とする研修会を中国の関係機関と共に催してきました^{注)}。

■ 友好クラス交流

こうした事業を行う中で、中国の中高校で日本語を教えていたる教師の誰もが、日本の学校との交流を強く望んでいたことを知りました。一方、日本の高等学校で中国語を担当する教員にも中国の学校との交流を望む声がありました。

ことばの学習と交流プログラムが結びつくことで、中国語との取り組みがより積極的になるとともに、自分たちのことばや文化を見直す

^{注)}中国の中等教育における日本語教育が最も盛んな地域は東北三省と内モンゴル自治区である。同地域の日本語教育関係者によれば、この地域の中等教育における日本語教育実施校は270校余り、担当教員は約1,000人、学習者は約8万人と見込まれる(97年現在)。

きっかけになることを指摘する教師は少なくありません。姉妹校関係をもとに、教師や生徒の相互訪問を行っている学校もあります。しかし、学校間交流の場合、担当教師の希望だけでは実現が難しいことがあります。TJFは、教師を核にしたクラス間の交流なら気軽に始めることができると考え、97年から「友好クラス」の橋渡しを始めました。表28に示した「友好クラス」26組は、それぞれ生徒の自主性を重んじた文通を主体に交流しています。

◆ 山梨県立塩山高等学校

四川省南充外国语学校

山梨県と四川省が姉妹省県であったことからこの組合せが決定。塩山高校で中国語を教える内山修一講師は、「生徒たちにとっては、自分宛の手紙が中国から届くこと自体がとても嬉しいことです。外国人が書く日本語に接するのが初めての生徒は、日本人からみればめちゃくちゃな日本語に最初は驚きますが、日本語を勉強して1年しか経っていない生徒が書いたものだと知り、逆にびっくりしています。授業で習った中国語が実際に使えるという喜びが生徒の励みにもなっています。ビデオレターを作って中国へ送ったらどうかという提案も出されました。学校側も中国への研修旅行を計画するなど、その成果が少しずつ学校全体に広がっています」と、交流の成果を語る。

◆ 大分県立大分東高等学校

珲春市第二高級中学

中国語と国語を担当する田口理一教諭は手紙文による国際交流と文章表現の授業を企画した。日本語を学んでいる中国の高校生に日本の文化(弁当・花見・ルーズソックスなど生徒が自由に項目を選ぶ)を紹介することを目的に200~400字程度の文章を書かせ、生徒どうしで評価を行った後に中国側に送っている。珲春市第二高級中学の生徒の多くが朝鮮族であることから、大分東高校で韓国語を担当する教員にも呼びかけ、交流を広げようとしている。

表28 友好クラス交流の取り組み

日本の中国語教師または学校 (氏名/クラス/学校/県)		中国の日本語教師または学校 (氏名/クラス/学校/省・市・県)
佐藤英三子 札幌国際情報	北海道	楊鳳秋／1クラス、61名 北寧市高級中学 遼寧省・北寧市 劉路 瀋陽市外國語学校 遼寧省・瀋陽市
田口友美／2クラス、22名 柏日体高校	千葉	金錦善／2クラス、108名 ハルビン市朝鮮族第一中学 黒竜江省・ハルビン市 李娟／5クラス、100名 延吉市第二高級中学 吉林省・延吉市 徐建会／4クラス、156名 鎮賀県第一中学 吉林省・鎮賀県
藤森孝幸 千葉国際	千葉	金钟穆／1クラス、34名 慶安県朝鮮族中学 黒竜江省・慶安県 朴龍吉／7クラス、98名 延辺大学付属中学 吉林省・延吉市
龜谷新一、杉山辰夫／7クラス 幕張総合	千葉	牟秀春／7クラス、77名 大連市104中学 遼寧省・大連市
大野隆敏 松戸国際	千葉	李福子／3クラス、110名 牡丹江市朝鮮族中学 黒竜江省・牡丹江市
佐藤宜行 外語短大付属	神奈川	宋薇 瀋陽市外國語学校 遼寧省・瀋陽市
山田秀二／1クラス、14名 大師	神奈川	張田来 大連市103中学 遼寧省・大連市
倉石愛子／2クラス、15名 津久井	神奈川	王健英／1クラス、38名 ハルビン市第73中学 黒竜江省・ハルビン市
金井一夫／1クラス、6名 六ツ川	神奈川	王慶偉／1クラス、20名 ハルビン市第18中学 黒竜江省・ハルビン市 張弘／1クラス、11名 ハルビン市第13中学 黒竜江省・ハルビン市
内山修一／3クラス、51名 塩山	山梨	田晶／2クラス、75名 大連市第一中学 遼寧省・大連市 劉海峰／2クラス、60名 甘旗卡第二中学 内蒙古自治区 南充外国语学校 四川省・南充市
大家ゆたか／2クラス、15名 小杉	富山	孫宋娟 東北中山中学 遼寧省・瀋陽市
笠原祥士朗／3クラス、60名 敦賀気比	福井	大連市第36中学 遼寧省・大連市
斎藤正高 桜丘	愛知	劉明暉 大連市第62中学 遼寧省・大連市
小林和代 嵯峨野	京都	池美蘭／3クラス、150名 吉林市朝鮮族中学 吉林省・吉林市
藤田美奈子 山辺	奈良	李英実／3クラス、93名 敦化市第二中学 吉林省・敦化市
水畠哲也 神戸甲北	兵庫	金中華／2クラス、60名 佳木斯市朝鮮族中学 黒竜江省・佳木斯市
松本陽子／1クラス、27名 博多青松	福岡	崔粉善 鶴東県朝鮮族中学 黒竜江省・鶴東県
田口理一 大分東	大分	金惠辰／6クラス、330名 渾春市第二高級中学 吉林省・渾春市
小金沢豊／1クラス、28名 入間市立東町中	埼玉	馬文莉／1クラス、46名 ハルビン市第112中学 黒竜江省・ハルビン市

このほかにも、「友好クラス」の生徒から送られてきた自作の詩を中国語の教材として取り上げたケースや、中国の学校生活や日本語の授業を撮影したビデオを同世代の高校生の生活を知る教材として活用した例があります。日本の教師からは、正式な姉妹校提携に結びつけたい、中国語を学習している生徒を連れて「友好クラス」を訪問したいなどの要望も出てきました。TJFは、「友好クラス」の橋渡しを行うとともに、お互いのことばの学習に役立つ交流ノウハウの蓄積に努めたいと考えています。

■ 教材開発と情報交流

TJFは、日本の中国語教育あるいは中国における日本語教育の拡充をめざして行っているさまざまな事業を連繋させることに力を入れてきました。たとえば中国語を学習する日本の高校生が、ことばだけでなく中国の文化に関心を持つことを願って、97年にホームページに「中国高校生写真館」をオープンしました。ここでは日本語を学習する中国の高校生の生活を紹介しています。今後は写真を素材とした高校生向けの中国語の教材づくりにも取り組む予定です。

機関誌で取り組み校を紹介したり、ホームページに最新の取り組み校リストなど関連情報を持載することを通じて、教師や関係者間の情報交流の促進にも努めてきました。99年4月には、高等学校の中国語担当教員を対象とした季刊ニュースレター『小溪』(Xiaoxi)を創刊しました。近い将来、『小溪』に相当する中国の日本語教師向けニュースレターを発行し、二つの紙面をリンクさせることで、日中双方の教師間で意見や情報の交換ができると考えています。

今後も、日本の高等学校における中国語教育と中国の中等教育における日本語教育の連繋を図る事業を展開することで、「高校中国語教育」の一層の広がりに役立ちたいと考えています。



リスト

一覧表

1	中国語教育の取り組み校 实施汉语教育的日本高中	30
2	修学旅行で中国語圏を訪れた高等学校 去使用汉语的国家和地区修学旅行的日本高中(97年度)	39
3	中国(語)の専門学科・教職課程のある大学 设有汉语专业和汉语师范课程的日本大学	42

一覧表 1-3 以日语材料为基础上作成。并尽可能用汉语作补充。地区、学校、学部、学科、课程等只用日语表示。

用語と用例 用语和用例

都道府県 都道府县(地区)	修学旅行・語学研修・姉妹校
学校名(五十音順) 学校名(按日语读音顺序)	修：中国語圏への修学旅行を実施
履修概要 选修概要	去使用汉语的国家和地区修学旅行
[実施]年度 []内の年度のみ実施を確認	語：中国語研修を実施
[]内仅指了解到该年度实施	实施汉语研修
87～87年から 从 87年	姉：中国語圏の姉妹校と交流
～93 93年まで 到 93年	与使用汉语的国家和地区的姊妹校交流
97× 97年実施せず 97年停課	他の外国语教育
学科コース名 学科、课程名	英語、汉语、朝鲜语以外的外语教育
履修形態 学习形式	仏：フランス語 法语
必選： 必修選択 必选课	独：ドイツ語 德语
自選： 自由選択 自选课	西：スペイン語 西班牙语
必修： 必修 必修课	露：ロシア語 俄语
二2三2： 二学年と三学年で各2単位履修	ポルトガル 葡萄牙语
二年级和三年级各 2个学分	ベトナム 越南语
二三2： 二学年または三学年で2単位履修	インドネシア 印度尼西亚语
二年级或三年级 2个学分	マレーシア 马来西亚语
教科外： 教科外活動 教学以外的活动	+2：その他 2言語
//： 確認できていない項目	其他2种语言
没确认的项目	

1 中国語教育の取り組み校 實施汉语教育的日本高中

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	履修概要 開始[実施]年度 / 学科コース名 / 履修形態 : 学年(一、二、三、四)、単位数(1、2、3、…)	修学旅行		他の 語学研修 姉妹校
			韓国朝鮮語 教育	外國語 教育	
北海道東北					
北海道 (4)	旭川東定時制	87/普通科/必選 四2			
	札幌国際情報	96/国際文化科/必選 二2 三2、全学科/自選 三2			有 仏露
	* 函館昭和女子学園	97/調理科・生活インテリア科/必修 一2			姉
	* 立命館大学慶祥	97/普通科/必選 二4			仏
青森 (1)	* 柴田女子	95/普通科中国語コース/必修 一4 二5 三5		修	
岩手 (2)	岩谷堂	96/総合学科/自選 二2 四2			仏
	不來方	87/普通科外国語学系/必修 一5 二8 三12	語	有	仏独西
宮城 (4)	貞山	94/ / 自選 二32			
	* 仙台育英学園	91/外国語コース/必選 二2 三3、教養コース/必選 二2 三1		有	
	仙台東	95/ / 自選 三3			仏
	宮城野	97/普通科人文国際コース・総合学科/自選 三3		有	仏
秋田 (1)	秋田東	94/科目別履修講座/自選 全学年2 (一般も受講)			露
山形 (4)	上山明新館	95/普通科国際教養コース/自選 三3			
	庄内総合	97/ / 自選 三2			
	* 山形城北女子	開講予定有		有	仏
	米沢商業	96/国際経済科/必選 三3			
福島 (2)	光南	97/総合学科/自選 二32			
	* 尚志	89/ / 自選 三2	修・姉		
関東甲信越					
茨城 (3)	中央	90~94			
	* 東洋大学附属牛久	91/普通科文系コース/自選 三2			
	日立第二	94/国際科/必選 二2			仏
栃木 (3)	今市	98/総合学科/自選 二2			仏
	氏家	95/総合学科/自選 二32、自選 三4			仏独
	* 國學院大學付属	93/国際情報科/必選 三3			仏
群馬 (6)	伊勢崎東	98/国際科/自選 二2			仏
	* 共愛学園	91/ / 必選 二2 三2			
	* 桐生第一	89			
	* 群馬女子短大附属	90/普通科進学コース/必修 二1 三1、 選抜クラス・特別進学クラス/必選 二1 三1			
	* 白根開善	95/普通科/自選 二34		有	
	* 明照学園樹徳	91~92			
埼玉 (18)	伊奈学園総合	91/普通科語学 (中国語) コース/自選 一4 二2 三4 必選 二4 三4	姉		仏独
	岩槻	95/国際文化科/必選 二2 三2			仏独西
	* 浦和実業学園	95/普通科文系コース/必選 二2	修・姉		
	川口 (市)	[97]			
	川越総合	97/総合学科/自選 二2			西
	* 慶應義塾志木	91		有	仏独+17
	越谷南	94/外国語学科/必選 二2 三2			仏独西

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	履修概要 開始[実施]年度/学科コース名/ 履修形態: 学年(一、二、三、四)、単位数(1、2、3、…)	選修概要		修学旅行 語学研修 姉妹校	韓国朝鮮語 教育	他の 外国语 教育
			修学旅行 語学研修 姉妹校	韓国朝鮮語 教育			
(埼玉続)	坂戸	91//必選 一2 二2					仏独西
	* 狹山ヶ丘	79/普通科Lコース/必修 二2 三2					
	* 自由の森学園	85/普通科中国語コース/必選 三2				有	仏西
	白岡	[97]					
	南稜	[97]					
	新座総合技術	82//自選 三4				仏	
	不動岡	91/外国語科/必選 二2 三2				仏独	
	* 立教	96/普通科/必選 三2				有	仏独西露+2
	和光国際	87/普通科人文・英語コース、情報処理科情報処理A・情報会計 コース/自選 三2、外国語科/必選 一2 二2 自選 三2-3					仏独西
	* 早稲田大学本庄	84/普通科/自選			修・姉		
	蕨	95/外国語科/必選 二2					仏独
千葉 (14)	稻毛 (市)	90/国際教養科中国語コース/必選 二2 自選 三2					仏独
	柏 (市)	90/国際科/必修 二2 自選 三2			姉		
	* 柏日体	89/普通科/自選 二3 三3			修		
	* 渋谷教育学園幕張	97//自選 各学年2			修		
	* 千葉国際	99				仏	
	千葉商業	95/国際経済科/必選 二2 三2					
	* 千葉明徳	93/普通科/自選 三3			有		
	流山東	98/国際文化科/必選 二3 4			有		
	成田国際	93/国際教養科・英語科/自選 二2 三2			修(99より)		仏
	幕張総合	96/普通科/自選 一2 二2 三4				仏	
	松戸国際	95/国際教養科/必選 二2 三2				仏	
	松戸馬橋	91/普通科/必選 三2					
	* 流通経済大学付属柏	86//自選 一2 二2				仏独	
	* 麗澤	96/普通科/自選 三2					
東京 (51)	飛鳥	94//自選 二2 三2			有		仏
	足立新田	89~、97X					
	* 郁文館国際	95/中国語科/必選 二2 三2				仏	
	* 顕明館	85/普通科/自選 一1 二1			修		仏独
	* 桜美林	88/普通科/自選 各学年2			姉	有	
	大泉学園	95					
	* 学習院高等科	95/普通科/自選 二 三				仏	
	葛西南定時制	95//必選 三2 四2				有	
	* 関東国際	86/外国語科中国語コース/必修 各学年6 必選 三3 99/普通科/必選 二2			修・語・姉		露
	北園	[94]//自選 各学年2					仏独露
	北園定時制	99/普通科/自選 三2 四2					
	北野	91//必選+自選 三7					
	* 国本女子	89//課外、自由研究					
	* 慶應義塾女子	[95]					
	* 啓明学園	88					
	工芸定時制	90/工業科/自選 四2					

1. 中国語教育の取り組み校

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	履修概要 開始[実施]年度 / 学科コース名 / 履修形態: 学年(一、二、三、四)、単位数(1、2、3、…)	修学旅行		他の 外国語 教育
			語学研修	韓国朝鮮語 姉妹校	
(東京続き)	国際	89/国際学科/自選 二2 三2			有 仏独西露
	小平	97/普通科外国語コース/必選 三2			仏独
	狛江	[95]/ /自選 三2			有 仏
	* 芝浦工業大学	98			有 仏
	* 昭和第一	90/商業科国際経済コース/自選 二2	修		
	第一商業全日制	94/ /必選 三2			
	第五商業定時制	97/ /四2			
	* 大東学園	99			
	* 大東文化大学第一	74/普通科/必修 二1 必選 三6 自選 三2	修		
	* 拓殖大学第一	49/普通科/自選 各学年2	修		西
	立川	94/ /必選 二2 三2			仏独
	千歳	92/普通科/自選 三2、帰国生/各学年2			
	* 東京女子学院	88			仏
	* 桐朋女子	[95]			
	都立大学附属	90/普通科/自選 二2 三2	有 仏独西		
	西	97/普通科/自選 二2			有 仏独
	* 日本学園	70~94	姉		
	羽田	90			
	晴海総合	97/総合学科語学コミュニケーション系/必選 二2 自選 二2	有 仏独西		
	東	87/ /必選 三2			
	東村山	97/ /自選 三4			
	光丘	91/ /必修 各学年2、帰国生取り出し/各学年2			
	一橋	89/普通科一般生徒・帰国生徒コース/必選 三2			
	日比谷	56~69、97再開/普通科/自選 二2	有 仏独		
	深川	88~、97X			
	富士森	90/ /自選 三4			
	府中東	[97]			
	* 文教大学付属	[95,97]/ /自選 三3			
	* 堀越	89/普通科国際理解コース/必修 一1 二1	修		
	* 町田学園女子	90	修・姉		
	* 明星学園	[94]			
	向丘	94/ /自選 三2			仏
	* 武蔵	73/普通科/自選	語・姉 有 仏独		
	* 武藏野	70/ /自選 一2 二2 三1			仏
	* 和光	70/ /自選 二2 三2			
神奈川 (21)	相原	93/国際経済科/自選 三3			
	磯子	90/普通科国際ビジネスコース/必選 二2 三2			仏西
	* 栄光学園	80/ /一			有
	外語短大付属	94/ /必選 一3 自選 二2 三2			仏独西
	神奈川総合	96/単位制/普通科個性化コース/自選 2、 国際文化コース/必選 2			有 仏独西
	上溝	~96、97X			
	川崎市立商業	95/商業科/自選 二2 三2			

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	履修概要 选修概要		修学旅行 語学研修 姉妹校	他の 韓国朝鮮語 教育
		開始[実施]年度 / 学科コース名 / 履修形態 : 学年(一、二、三、四)、単位数(1、2、3、…)			
(神奈川 続)	* 関東学院定時制 [95] * 慶應義塾 83/必選 三3 自選 三2 * 慶應義塾湘南藤沢 [95] 高等部 大師 97/総合学科地域国際系列/自選 一4 津久井 93/普通科/必選 二2 三2 白山 95/普通科/自選 三2 * 白鵬女子 87 ひばりが丘 87/普通科国際教養コース/必選 一2 二3 自選 三2、 一般コース/自選 二2 三2 * 平和学園 教科外 姉 保土ヶ谷 79/普通科/自選 二2 三2 仏西 六ツ川 87/普通科一般コース/自選 二2 三2 仏独 弥栄西 83 弥栄東 83 横浜商業 (市) 40/商業科中国語総合類型コース(全)/自選 三3、 中国実務総合類型国際コース/必選 二3 自選 三2 西			有 仏西・ルートガル 西 仏西	
新潟 (1)	新潟商業	94/商業科国際経済コース/必選 二2 三3、 国際教養コース/自選 二2			有 露
山梨 (2)	塩山	89/国際経済科/必選 各学年2			
	甲府城西	98/総合学科			
長野 (2)	塩尻	2001/総合学科国際文化系列/自選 二2			有
	* 松本第一	[95]			
北陸東海					
富山 (5)	小杉	95/総合学科中国語コース/自選 各学年2			
	* 高岡向陵	91/普通科国際コース/必選 一2 二2 修・姉			露
	富山商業	過去に実施、97×			
	富山南	[95]			
	福光	95/普通科文系/必選 三3 姉			
石川 (3)	金沢辰巳丘	95/普通科外国语コース中国語専攻/必修 一4 二7 必修+必選 三5-13、英語専攻/必選 二2 三2 修・語			有 仏独露
	金沢伏見	96/普通科国際文化普通コース/自選 二2 三2 有			
	金沢北陵	97/総合学科/自選 二2 有			
福井 (4)	足羽	89 修・語・姉			
	* 啓新	89 姉 有			
	* 敦賀気比	94/国際科中国語コース/必修 一5 二6 三7 98/普通科選択コース/必選 二2 三2 語・姉 有			
	* 北陸	96/商業科国際経済コース/必修 一1 修・姉			
岐阜 (6)	岐阜商業 (市)	89/商業科経営管理国際経済コース/必修 二3 三2 修・姉			
	岐阜総合学園	[97]			
	土岐紅陵	98/総合学科/自選 二4 三2 有			
	* 富田	[97]			
	養老女子商業	95/国際ビジネス/必修 一2 二2 必選 三2 修			
	* 麗澤瑞浪	94/普通科/自選 三2			

1. 中国語教育の取り組み校

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	履修概要 開始[実施]年度 / 学科コース名 / 履修形態: 学年(一、二、三、四)、単位数(1、2、3、…)	修学旅行		他の 語学研修 韓国朝鮮語 教育
			姉妹校	外國語 教育	
静岡 (7)	* 加藤学園暁秀	97//必修 一3 二3			
	* 国際開洋第一	85/普通科普通・国際コース/必修 各学年1	修		
	* 御殿場西	92/普通科国際コース/必修 二1 三1	姉		
	静岡市立商業	[97]			
	静岡城北	95/国際科必選 二2 三2			仏
	静岡中央	93/普通科/自選 一4 二2			
	長泉	96/国際コース/必選 三2			西
愛知 (9)	愛知商業	90~、97×			
	* 安城学園	90	有		
	春日井商業	82/国際経済科/自選 三2			
	* 桜丘	85/普通科/必修 一1 必選 二3	修・姉		
	千種	85//必選 二2			仏独西
	* 津島女子	95/国際コース/必選 二2 三2	修・姉		
	* 東邦	91/普通科国際コース必選 二2 三2、普通コース自選 三2	修・姉		
	* 豊川	97-98/普通科国際教養コース/必選 二2 三2 99/普通科/自選 二2 三2			仏
	御津	90			
三重 (3)	上野農業	[97]	姉		
	昂学園	96	有		
	松阪商業	92/国際経済科/必選 三3			
近畿					
滋賀 (8)	* 近江兄弟社	94//自選 各学年1		有	
	大津商業	[95]			
	大津清陵	93/単位制/自選 4			
	国際情報	88//自選 二2 三2		有	
	八幡商業	65//自選 二3 三3			
	彦根翔洋	99/総合学科/自選 二2 三2			
	水口	95/普通科国際クラス・国際文化科/必選 二2 三2		有	
	守山女子(市)	87~91、99/英語科/自選 二1		有	
京都 (15)	* 京都西	57/普通科/自選 二2 三2、国際文化コース/必選 三2			仏
	* 京都両洋	87/国際コース/必修 一3 二6 三8、必選 二1 三1	語・姉		
	西京商業	95/国際経済科/必選 二2、流通経済科・情報処理科/ 必選 三2	修・姉		
	嵯峨野	97/京都こすもす国際文化系・人文芸術系/自選 二2 三2		有	仏西
	* 同志社	[97]/普通科/必選 三2		有	仏独
	* 同志社国際	97/普通科/自選 一2 二2 三2		有	仏独西
	鳥羽	96/国際文化コース/必選 二2			独
	* 西山	95//必選 三2			
	* 花園	97/普通科総合コース/自選 二2 三2		有	
	日吉ヶ丘(市)	96//必選 二2 自選 三2		有	独西
	* 南京都	94/国際交流中国語コース/必修 各学年6、 普通科語学コース/必修 一6	語・姉	有	
	紫野	94/普通科英文系/必選 二2 三2			仏

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	履修概要 選修概要 開始[実施]年度 / 学科コース名 / 履修形態 : 学年(一、二、三、四)、単位数(1、2、3、…)	修学旅行		
			語学研修	韓国朝鮮語 姉妹校	他の 外國語 教育
(京都続)	山城定期制	58/普通科/自選 三3 四3			
	* 立命館	93~、97×			
	* 立命館宇治	96/普通科/自選 二3 三3	修・語・姉		仏独
大阪 (28)	旭	92/国際教養科/自選 二2 三2	修	有	仏独
	扇町 (市)	92/人文科/必修 二1	修・姉		西
	大阪市立	96/英語科/必選 三2			
	* 大阪学院大学	96/普通科普通コース/必選 三2			仏独
	* 大阪国際文化	91/ /全学年			仏独
	* 大阪体育大学浪商	89/普通科/自選 三3		有	独
	柴島	97/総合学科/自選 二三2		有	仏
	此花総合 (市)	99		有	仏
	佐野	92/国際教養科/必選 二2 三2	修	有	仏独西
	佐野工業定期制	98/全学科/一二		有	
	住吉	91/国際教養科/必選 二2		有	仏西
	* 星翔	92/国際科/必修 三2			
	泉北	[95]国際教養科/必選 三2	修		仏西
	千里	91/国際教養科/自選 二2 三2	修・姉		仏
	* 千代田	96/文理科/自選 二、国際科/自選 三			仏
	* 帝塚山学院泉ヶ丘	84/国際科第二外国語コース/必選 一2 二2 三1		有	仏西
	長野	93/国際教養科/自選 二2 三2			仏独
	西	96/ /必選 三4		有	仏
	上神谷	[97]			
	花園	95/国際教養Aコース/必選 二2	修	有	
	阪南	93/普通科国際文化コース/必選 二4 三2		有	
	日根野	96/ /必選 二2			仏西
	枚方	93/国際教養科/自選 二2 三2		有	仏独西
	福井	95~96			
	松原	93/総合学科/自選 二2、普通科/必選 三4		有	仏西
	箕面	93/国際教養科/自選 二2 三2	修	有	仏独西
	桃谷通信制・定期制	92/外国語科/必選 一4 二2 自選 三6		有	
	淀川工業定期制	//選択 一2			
兵庫 (24)	明石商業	92~、97×			
	芦屋 (市)	[97]		有	
	芦屋南	96/国際文化科英語コース/必選 二2 三2			仏独西
	網干	91/普通科/自選 三2			
	尼崎	99/普通科/自選 二2 三2		有	
	尼崎 (市)	98/ /三3		有	
	尼崎東	96/普通科/自選 三2			
	伊丹 (市)	85/ /自選 三2			
	小野	97/国際経済科/自選 三2			
	* 関西学院高等部	86/普通科/自選 三2		有	仏独
	神崎工業	87/県立高校在籍者対象/全学年 自選 2			

1. 中国語教育の取り組み校

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	履修概要 选修概要		修学旅行 語学研修 姉妹校	他の 韓国朝鮮語 教育
		開始[実施]年度/学科コース名/ 履修形態:学年(一、二、三、四)、単位数(1、2、3、…)			
(兵庫続)	* 甲南女子	87//自選 二2 三2		修・姉	仏
	神戸甲北	98/総合学科/自選 二3 三3		姉	有 ベトナム インドネシア
	神戸商業 (県)	79/商業科国際コース/必選 二3 三3、 進学コース/必選 二3、就職コース/必選 三2			
	飾磨工業	98/工業科全コース/自選 二2			
	西宮 (県)	94/普通科/自選 三2、/自選 二2 三2			仏
	西宮 (市)	88//自選 二2 自選+他 三4			
	西宮東	90//自選 二 三			仏
	姫路北	88/県立高校在籍者対象/全学年 自選 2			
	姫路商業	79/商業科流通経済類型/必選 三2			有
	* 報徳学園	~93			
	湊川	87/県立高校在籍者対象/全学年 自選 2			有
	六甲アイランド (市)	2000/普通科国際情報学系/自選/ 二2			有 仏
	和田山商業	89/情報科・商業科/必選 三			
奈良 (4)	一条 (市)	86/外国語科/自選 三3			仏独西
	高取	93/普通科・国際科/自選 二2 三2			仏西
	* 天理教校親里	89/普通科/必選 一 自選 二 三		語	有 仏西ポルトガル
	山辺	97/総合学科/必選 二2 三2			有
和歌山 (5)	* 国際開洋第二	91/普通科普通コース/必修 一1 二1		修・姉	
	星林	89/普通科/自選 三2、国際交流科/自選 二3 三2			西
	那賀	92/国際科/必選 二2 三2		姉	
	和歌山	95/総合学科/自選 二4 三4			
	和歌山商業 (市)	86/国際情報科英語コース/必選 二2			
中国四国					
鳥取 (4)	青谷	95/普通科国際コース/必選 二3 三3		姉	有
	岩美	92			
	鳥取西定期制	89/普通科/自選 二三四4			
	米子	92~、97×			有
島根 (4)	出雲商業	94/自選 二2 三5			
	邇摩	98/総合学科/自選 三2			有
	浜田商業	97//自選 三			有
	松江市立女子	97/国際文化科/自選 三2			
岡山 (6)	岡山南	93/国際経済科/二2 三2			
	* 岡山理科大学附属	88~、97×			
	* 関西	73/商業科流通経済・情報処理コース/必修 二2 三2			
	* 清心女子	99/普通科/自選 2 (二学期制)			
	総社南	87/普通科/必選 二2			仏
	和気閑谷	99			
広島 (6)	安芸府中	92//自選 二三		修	有 仏マレーシア
	大竹	98/総合学科/総合選択 二三2		有	
	広島観音	2000		有	
	広島商業	93/国際経済科/必選 二2		有	

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	履修概要 选修概要		修学旅行 語学研修 姉妹校	韓国朝鮮語 教育	他の 外国语 教育
		開始[実施]年度/学科コース名/ 履修形態: 学年(一、二、三、四)、単位数(1、2、3、…)				
(広島統合)	舟入(市)	99/普通科国際コミュニケーションコース/必選 二2 自選 三2			有	
	三次青陵	98/総合学科/自選 二2			有	
山口 (6)	下関国際	[98]/ /選択 6-9			有	
	下関商業(市)	93/商業科商業コース/自選 三2		姉		
	* 長門	93/商業科/必修 各学年1				
	* 野田学園	92				
	響	97/ /必選 二2 三2		修	有	
	防府商業	61/商業科・国際経済科/自選 二2 三3		修・姉		
高知 (2)	高知南	88/国際教養科/必修 二2				
	* 明徳義塾	95/普通科国際外国語(中国語)コース必修 一6 二6 三6-8、 普通科国際教養コース/必修 各学年2		姉		
九州沖縄						
福岡 (18)	朝倉東	94/商業科/必選 二2				
	宇美商業	88/商業科/必選 二2 三3		修		
	大牟田商業	91/国際経済科/必選 三3		修		
	* 沖学園	97/社会総合学科国際交流・介護福祉・ビジネスコース/ 必選 一3			有	
	折尾	92~、97×				
	* 九州国際大学付属	94/普通科国際教養コース/必修 二2			有	
	久留米	[95]/英語科/必選 二2				
	* 慶成	98/人間科学科社会教養コース/必選 二2			有	
	玄界	88/普通科国際文化コース/必選 二7 三4		修・姉		
	小倉商業	91/国際経済科/必修 二3		修・姉		
	* 立花	73/普通科中国語コース/必修 一2 二3 三2		修		
	東鷹	94/普通科国際コース/必選 二2 三2			有	
	戸畠商業(市)	69/国際経済科ビジネスコミュニケーションコース/ 必選 二2 三2		修・姉	有	
	博多青松	98/普通科・情報科/自選 全学年4			有	
	福岡商業	60/ /自選 三2				
	福岡女子(市)	[95]			有	
	* 福岡第一	//教科外			有	
	北筑	96/英語科/必選 三2		修		
佐賀 (8)	唐津南	93~97/総合農業科/必選 三2		修		
	神崎清明	96/ /自選 一2		修	有	
	高志館	92/ /自選 二2 三2			有	
	佐賀北	98/ /自選 三4		修		
	佐賀商業	91/商業科/必選 二2 三2、国際経済科/必選 二4 三3		修		
	太良	97/ /自選 二2		修		
	三養基	96/国際文化コース/必修 一1 二1		修		
	* 龍谷	91~95		語		
長崎 (9)	諫早商業	95/国際経済科/必修 二2 三2				
	大村城南	99/総合学科				
	小浜	99/国際観光科				

1. 中国語教育の取り組み校

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	履修概要 開始[実施]年度 / 学科コース名 / 履修形態 : 学年(一、二、三、四)、単位数(1、2、3、…)	選修概要		修学旅行 語学研修 姉妹校	韓国朝鮮語 教育	他の 外国語 教育
			修	有			
(長崎続き)	* 佐世保実業	73~95					
	佐世保商業	90/国際経済科/必修 一2 二2 必選 三2			修		
	佐世保東翔	99/総合学科					
	島原商業	97/商業科/二3 三2、99/国際経済科/二2 三2					
	長崎商業	90/国際経済科/必選 二2 三2					
	長崎明誠	99/総合学科					
熊本 (5)	* 開新	[98]					
	熊本市立商業	95/商業科/必選 三2					
	* 玉名女子	92/普通科国際教養コース/必修 三2			有		
	東稜	87/普通科国際コース/必選 各学年1			有		
	八代東	91/国際科/必修 各学年2					
大分 (9)	大分商業	96/国際経済科国際理解コース/必修 二2					
	* 大分東明	95/普通科国際コース/必修 二1 三1					
	大分東	96/国際コミュニケーション科/必選 二2 三2			有	仏	独
	情報科学	90/情報管理科国際経済(進学)コース、流通経済科 マーケティング・国際経済(進学)コース/自選 二3 三3			語		
	* 日本文理大学附属	95			有		
	日田三隅	97/総合学科/自選 二2 三2			有		
	日出賀谷	98/総合学科/自選 二2 三3			有		
	* 別府大学附属	93			有		
	* 楊志館	99/全学科/必修 一1、ホテルコース/必選 二1			姉	有	
宮崎 (5)	都農	98/総合学科			有		
	富島	90/国際経済科/自選 二3 三2			有		
	* 日章学園	87/国際科/必修 一1 二1			修・姉	有	
	本庄	91/ /自選 三2			有		
	宮崎東定時制	91/普通科					
鹿児島 (3)	鹿児島商業	96/国際経済科/二2					
	* 鹿児島城西	87/国際科・ホテル観光科/必修 各学年1			修・姉		仏
	鹿児島東	86/国際教養科/必修 一2 必選 二2 三3			姉	有	仏西
沖縄 (8)	浦添商業	88/国際観光科/必修 一2 二2 必選 二2 三2、 商業科/必選 三2					
	球陽	89					
	向陽	95/国際文化科/必修 一2 二5 三8			修・姉	有	
	中部商業	97					
	那覇国際	99/普通科・国際科/必選 二2			有	仏	独
	那覇商業	95//自選 二2 三3					
	那覇西	88//必選 二2					仏西
	八重山	95//自選 三3					

注) 97年度の調査を土台に98年度末までに確認した情報に基づいて作成。

在 97 年度実施調査の基礎上、加進 98 年度掌握の状況。

2 修学旅行で中国語圏を訪れた高等学校 去使用汉语的国家和地区修学旅行的日本高中（97年度）

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	中国語教育 汉语教育	訪問地	学生数
青森 (3)	* 柴田女子	有	北京	100
	* 東奥學園		北京、天津	244
	* 弘前東工業		香港、深圳、広州	230
秋田 (2)	* 秋田経法大学附属		北京、天津	530
	仁賀保		諸賢	55
宮城 (2)	志津川		シンガポール (新加坡)、マレーシア (马来西亚)	141
	農業		シンガポール (新加坡)	143
福島 (2)	安積		中国	10
	* 尚志	有	北京	440
茨城 (1)	* 土浦日本大学		上海、蘇州、無錫、南京	391
埼玉 (5)	伊奈学園総合	有	北京	23
	* 浦和実業学園	有	北京、上海、西安	246
	春日部東		北京	47
	鷺宮		北京	31
	* 早稲田大学本庄	有	北京	233
千葉 (3)	* 柏日体	有	北京、西安	424
	* 曜星国際学園		北京	160
	* 渋谷教育学園幕張	有	北京、西安	320
東京 (17)	* 順明館	有	北京、西安	144
	* 科学技術学園		北京	201
	* 関東国際	有	北京、西安、洛陽	—
	* 吉祥女子		北京、上海、西安	30
	* 渋谷女子		北京、西安	192
	* 順天		北京、上海、西安	28
	* 昭和第一	有	台北	—
	* 聖学院		北京、上海、西安	30
	* 大東文化大学第一	有	北京	146
	* 拓殖大学第一	有	北京	328
	* 多摩大学附属聖ヶ丘		北京、西安	116
	* 東亜学園		北京	—
	* 東海大学菅生		北京	460
	* 日出女子学園		北京	260
	* 保善		上海、蘇州、無錫、南京	47
	* 堀越	有	シンガポール (新加坡)	—
	* 町田学園女子	有	北京	448
神奈川 (1)	* 相洋		上海、無錫、南京	20
山梨 (1)	塩山	有	北京	16
富山 (3)	小矢部学園芸		上海、蘇州、西安、招興	68
	新湊		シンガポール (新加坡)	39
	* 高岡向陵	有	北京、大連	374
石川 (2)	金沢大学教育学部付属		北京	118
	金沢辰巳丘	有	北京、上海、蘇州	7
福井 (5)	足羽	有	北京、上海、杭州	33
	* 昭英		北京、上海、杭州	38
	* 敦賀気比	有	北京	174
	* 福井南		上海、杭州	92
	* 北陸	有	北京、杭州	146
岐阜 (2)	岐阜商業 (市)	有	北京、上海、蘇州、杭州	31
	養老女子商業	有	シンガポール (新加坡)、マレーシア (马来西亚)	—
静岡 (7)	* 芥田学園		大連、無錫、南京、杭州	20
	静岡商業		クアラルンプール (吉隆坡)	40
	* 静岡精華		北京、上海、杭州、西安	12
	* 島田学園		上海、西安	20

2. 修学旅行で中国語圏を訪れた高等学校 (97年度)

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	中国語教育 汉语教育	訪問地	学生数
(静岡統計)	浜松商業		シンガポール (新加坡)	115
	浜松女子		中国	30
	浜松東		シンガポール (新加坡)	69
愛知 (5)	* 愛知淑徳		北京、上海、西安	30
	* 岡崎城西		北京	97
	* 桜丘	有	北京、上海、南京、西安	145
	* 津島女子	有	台北	—
	* 東邦	有	上海、南京	123
滋賀 (1)	* 近江兄弟社	有	上海、蘇州、杭州	40
京都 (8)	* 京都両洋	有	北京、大連	20
	西京商業	有	シンガポール (新加坡)	—
	園部		シンガポール (新加坡)	22
	八幡		シンガポール (新加坡)	11
	* 福知山淑徳		北京	174
	* 南京都	有	北京	37
	* 立命館	有	上海、南京	40
	* 立命館宇治	有	北京、大連、上海、南京、江陰	51
大阪 (10)	旭	有	上海、南京	80
	扇町	有	上海、杭州	73
	佐野	有	上海、南京	80
	* 清教学園		上海、無錫、南京	140
	泉北	有	上海、無錫、南京、鎮江	80
	千里	有	上海、南京、鎮江	80
	花園	有	上海、無錫、南京、鎮江	80
	南 (市)		上海、蘇州、南京	78
	箕面	有	上海、南京、鎮江	80
	淀川工業		中国	140
奈良 (1)	* 西大和学園		北京、上海、西安	360
兵庫 (2)	* 甲南女子	有	天津	—
	兵庫商業 (市)		シンガポール (新加坡)	39
和歌山 (1)	* 國際開洋第二	有	北京、天津	39
鳥取 (2)	境港工業		鄭州、新鄉、洛陽	4
	米子商業		保定	4
島根 (2)	* 開星		上海、蘇州、無錫	70
	松江農林		上海	6
岡山 (1)	* 黎明		北京、天津、上海、西安	62
広島 (9)	安芸府中	有	シンガポール (新加坡)	274
	* 英数学館		北京、上海、大同	59
	呉商業		シンガポール (新加坡)、マレーシア(马来西亚)	156
	加計 (芸北分校)		上海、西安、成都	22
	* 山陽女子		西安、敦煌	25
	庄原実業		フフホト(呼和浩特)	23
	広島商業	有	シンガポール (新加坡)	279
	* 広島城北		上海、蘇州	270
	宮島工業		シンガポール (新加坡)	240
山口 (2)	防府商業	有	北京、濟南、上海	200
	響	有	北京、青島、濟南	—
徳島 (1)	* 徳島文理		北京	68
香川 (2)	善通寺第一		北京、西安	8
	高松第一 (市)		北京、上海、西安、敦煌	45
福岡 (21)	朝倉		北京、上海	8
	糸島		北京	396
	浮羽		北京	236
	* 折尾女子学園		中国	10
	春日		シンガポール (新加坡)、マレーシア(马来西亚)	447
	北九州		北京	320

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	中国語教育 汉语教育	訪問地	学生数
(福岡続き)	* 九州電機学園 鞍手商業 久留米商業(市) 小倉商業 新宮 須恵 筑紫中央 筑上東 筑前 戸畠工業 * 中村学園三陽 南筑(市) * 福岡大学附属大濠 福島 門司商業	北京 上海、蘇州、無錫、南京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 上海、蘇州、南京		185 55 300 310 438 434 444 155 477 229 353 280 650 308 181
佐賀 (12)	嬉野商業 唐津南 神崎 神崎清明 杵島商業 * 敬徳 高志館 佐賀北 佐賀商業 太良 鳥栖商業 三養基	北京 北京 北京 上海、南京 北京 北京 シンガポール(新加坡) 北京 北京、シンガポール(新加坡) 北京 北京 北京、天津 北京		156 119 231 154 200 139 38 382 317 108 280 237
長崎 (11)	諫早 諫早農業 諫早東 佐世保北 佐世保商業 西陵 長崎北 長崎水産 長崎東 長崎北陽台 長崎南	北京、天津 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京 北京、蘇州、無錫		376 302 142 354 316 356 387 117 398 391 391
熊本 (6)	鹿本商工 * 九州学院 球磨工業 球磨商業 * 熊本学園大学付属 熊本商業	上海、無錫、南京 上海、蘇州、南京 上海、蘇州、無錫、南京 北京 北京 北京		292 277 219 37 33 39
大分 (1)	* 楊志館	有	北京、上海	40
宮崎 (5)	高鍋 * 日章学園 都城西 * 都城東 宮崎商業	北京 台北、大連 シンガポール(新加坡) 蘇州、無錫 シンガポール(新加坡)		174 30 84 319 77
鹿児島 (24)	阿久根農業 伊集院 出水 出水工業 出水商業(市) 指宿	上海、蘇州、南京 シンガポール(新加坡)、マレーシア(马来西亚) 上海、蘇州、無錫、南京 上海、蘇州、無錫 上海、蘇州、無錫、南京 上海、蘇州、無錫、南京		117 327 272 216 157 280

3. 中国(語)の専門学科・教職課程のある大学

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	中国語教育 汉语教育	訪問地	学生数
(鹿児島続き)	入来商業	有	上海、蘇州、無錫、南京 香港、広州、マカオ(澳门) 北京	118 173 402
	沖永良部		台北、北京、大連 上海、蘇州、杭州	— 430
	鹿児島工業		上海、蘇州、無錫、南京	230
	* 鹿児島城西		シンガポール(新加坡)、マレーシア(马来西亚)	424
	鹿児島中央		シンガポール(新加坡)、マレーシア(马来西亚)	366
	鹿児島西		シンガポール(新加坡)、マレーシア(马来西亚)	260
	鹿児島南		上海、蘇州、無錫、南京	416
	鹿屋		上海、蘇州、無錫、南京	386
	鹿屋農業		上海、蘇州、無錫、南京	297
	錦江湾		上海、蘇州、無錫、南京	300
	甲陵		上海、蘇州、無錫、常熟	398
	国分(市)		上海、蘇州、無錫、常熟	198
	国分中央		上海、蘇州、無錫、常熟	341
	川内		上海、蘇州、無錫、常熟	45
	川内商工		上海、蘇州、無錫、南京	214
	武岡台		シンガポール(新加坡)、マレーシア(马来西亚)	45
	徳之島農業		香港、広州、マカオ(澳门)	17
	南大隅(佐多分校)		上海、蘇州、無錫、南京	
沖縄(3)	沖縄工業	有	シンガポール(新加坡)、マレーシア(马来西亚)	345
	向陽		シンガポール(新加坡)、マレーシア(马来西亚)	214
	八重山商工		台湾	45

注) 研修旅行なども含む。生徒数は確認できた範囲で記載。

包括研修旅行。学生数以て得到確認のデータ为准。

3 中国(語)の専門学科・教職課程のある大学 设有汉语专业和汉语师范课程的日本大学

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	中国に関する専門学科・コース名 (学部/学科/専攻コース)	中国专业課程	中国語で受験できる学部 有汉语考试科目的系	中国語教職課程 汉语师范课程
北海道(1)	北海道大学	文/人文科学/言語文学専修課程 中国語学・ 中国文学、哲学文化学専修課程 中国哲学	文/教育/法/経済/理/ 工/農/水産/医/歯/獣	有	
青森(1)	弘前大学		人文		
宮城(1)	東北大大学	文/哲学/中国哲学専攻、文学/中国文学専攻			
茨城(2)	茨城大学 筑波大学	人文/人文学/中国文化	人文 第一・第二学群	有	
栃木(1)	宇都宮大学		国際		
埼玉(2)	埼玉大学 * 淑徳大学	国際コミュニケーション/文化コミュニケ ーション学/中国		有	
千葉(4)	* 神田外語大学 千葉大学 * 明海大学 * 麗澤大学	外国語/中国語学/言語研究・コミュニケ ーション研究・地域国際研究・比較文化研究 文/理		有	
東京(24)	* 桜美林大学 お茶の水女子大学 * 共立女子大学	文/中国語中国文学/国語国文学漢文学・ 中国語および中国言語学・中国文学 文教育/言語文化学/中国語圏言語文化 国際文化学/中国文化	文 文教育/生活科学 国際文化	有	

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	中国に関する専門学科・コース名／中国专业课程 (学部/学科/専攻コース)	中国語で受験できる学部 有汉语考试科目的系	中国語教職課程 汉语师范课程
(東京続き)	* 杏林大学	外国語/中国語学	外国語	有
	* 慶應義塾大学	文/文学/中国文学専攻	文	
	* 國學院大学	文/中国文学	文/経済	
	* 国士館大学	文/文学/中国文学専攻		
	* 創価大学	文/外国语学/中国語専攻		有
	* 大東文化大学	文/中国文学、外国语/中国語学	文/外国语	有
	* 拓殖大学	外国语/中国語学/国際・人文		有
	* 多摩大学		経営情報	
	東京大学	文/言語文化学/中国語中国文学、 思想文化学/中国思想文化学	文科1・2・3類/ 理科1・2・3類	有
	東京外国语大学	外国语/東アジア課程/中国語・言語情報、 総合文化、地域国際	外国语	有
	* 東京女子大学	文理/日本文学/中国文学部門		
	東京都立大学	人文(1・2部)/文学/中国文学専攻	人文/法/経済/工	有
	* 東洋大学	文/中国哲学文学		
	* 二松学舎大学	文/中国文学/中国文学専攻・ 比較文学文化専攻	文	有
	* 日本大学	国際関係/国際文化学/中国文化、 文理/中国文学		有
	* 文教大学	文/中国語中国文学	文	有
	* 法政大学			有
	* 明治学院大学		法/経済/社会/国際	
	* 明星大学		日本文化	
	* 和光大学		人文/経済	有
	* 早稻田大学	第一文/文学/中国文学専修		
神奈川 (3)	* 神奈川大学	外国语/中国語学		有
	横浜市立大学		国際文化/商	有
	横浜国立大学		経済	
新潟 (1)	新潟大学		人文	
長野 (1)	信州大学			有
富山 (1)	富山大学	人文/言語文化学/日本東洋言語文化講座・ 中国言語文化	人文	有
金沢 (2)	金沢大学	文/文学/中国語学中国文学	文/法	
	* 北陸大学	外国语/中国語学		有
福井 (1)	福井大学	教育/中学校課程/中国語科	教育	有
岐阜 (1)	* 聖徳学園岐阜教育大学	外国语/中国語学	外国语	有
静岡 (1)	静岡大学		人文/教育	有
愛知 (4)	* 愛知大学	文/文学/中国語中国文学専修、法/法学/ 中国法政、経済/経済学/中国経済、 現代中国/現代中国学	現代中国	有
	名古屋大学		文/教育/法/経済/ 情報文化/理/工/農/医	有
	* 名古屋外国语大学	外国语/中国語学		有
	* 名古屋学院大学	外国语/中国語学	外国语	有
京都 (7)	* 大谷大学	文/文学/中国文学分野		

3. 中国(語)の専門学科・教職課程のある大学

都道府県 (学校数)	学校名 (五十音順) *私立	中国に関する専門学科・コース名/中国专业课程 (学部/学科/専攻コース)	中国語で受験できる学部 有汉语考试科目的系	中国語教職課程 汉语师范课程
(京都続)	京都大学		文/教育/法/経済/理/ 工/農/総合人間/医/薬	
	* 京都外国語大学	外国語/中国語学		有
	* 京都産業大学	外国語/中国語学/国際関係・語学文学		
	京都府立大学	文/文学/国文学・中国文学専攻		
	* 佛教大学	文/中国文学		
	* 立命館大学	文/文学/中国文学専攻		
大阪 (8)	* 追手門学院大学	文/東洋文化学/中国文化		
	大阪大学	文/人文学/国文学・東洋文学大講座・中国文学、哲学大講座・中国哲学		
	大阪市立大学	文 (1・2部) /国文・中文学/中国語・中国文学専攻	商/経済/法/文/理/生活科学	有
	大阪外国語大学	外国語/国際文化学/昼間主コース・中国語開発環境、言語情報、国際関係、日本語、比較文化 夜間主コース・中国語 言語、国際関係、比較文化 地域文化学/昼間・夜間主コース 東アジア地域文化・中国語	外国语	有
	* 関西大学	文 (1・2部) /中国語中国文学科		有
	* 関西外国語大学	国際言語/国際言語コミュニケーション学/中国語専修		
	* 摂南大学	国際言語文化/国際言語文化学/中国語中国文化専攻	国際言語文化	
	* 帝塚山学院大学	文/国際文化学/中国文化		
兵庫 (5)	神戸大学	文/文学/中国文学専攻	文/国際文化/発達科学/法/経済/経営/理/工/農/医	
	神戸市外国語大学	外国語/中国学/語学文化・総合文化・法経商		有
	神戸商科大学		商経	
	* 姫路獨協大学	外国語/中国語学	外国语	有
	* 流通科学大学		商	
奈良 (1)	* 天理大学	国際文化/中国学		有
和歌山 (1)	* 高野山大学	文/人文学/哲学専攻・中国哲学		
岡山 (1)	岡山大学	文/言語文化学/中国文学	文/法/経済/医/歯	
広島 (1)	広島大学	文/哲学/中国哲学専攻、文学/中国語学 中国文学専攻	総合科学/文/教育/ 学校教育/法/経済/理/ 工/医/歯	
山口 (2)	* 東亜大学		経営/法/デザイン	
	山口大学	人文/言語文化学/東洋言語文化論・ 中国語文化論		有
高知 (1)	高知大学		人文	
福岡 (3)	北九州大学	外国語/外国語学/中国語専攻	外国语	有
	* 九州国際大学	国際商/国際商学/中国 (中国語) コース		
	* 西南学院大学	文/国際文化学/地域文化によるコース・ 中国文化		
熊本 (2)	熊本大学	文/文学/中国語中国文学講座	文/法	
	* 熊本学園大学			有
鹿児島 (1)	* 鹿児島純心女子大学	国際言語文化/国際言語文化学/日本語・ 中国語アジア文化コース		

資料 資料 : 『学校総覧シリーズ CD-ROM版』(96年、CREATE HOUSE)、『教員免許ハンドブック2 課程認定編』(第一法規)、『中国語』98年9月号(内山書店)

爱恨名利白头班次法课课包好课好学生学习比尔

日本高中汉语教育的发展

与朝鲜语教育相比较

爱恨名利白头班次法课课包好课好学生学习比尔

目 录

I. 国际文化交流中心(TJF)与亚洲语言	
1. TJF 与 “高中汉语教育”	47
2. 对汉语及朝鲜语教育的联合调查	48
II. 汉语和朝鲜语教育实施校的现状	
1. 两种语言教育实施校的发展	50
2. 外语教育中的汉语教育及朝鲜语教育	55
III. 汉语教育的现状	
1. 开始实施的经过	56
2. 选修概要	57
3. 教员现状	61
4. 教材和授课的各种尝试	64
5. 语言学习和交流话动	66
IV. 巩固和发展高中汉语教育	
1. 《高中汉语教育目标》的完成	69
2. 加强与中国中等日语教育界的联系	70
一览表	
1. 实施汉语教育的日本高中	30
2. 去使用汉语的国家和地区修学旅行的日本高中	39
3. 设有汉语专业和汉语师范课程的日本大学	42
日本の高等学校における中国語教育の広がり	1-28

日本高中汉语教育情况表

项目	表 [No.]	页数
地区	汉语教育实施校的发展 [2]	51
	实施校的地区分布 [3]	51
	实施两种语言教育的学校 [4]	52
	实施率的地区分布 [5]	54
	公私立学校的实施率 [6]	54
开始时期	从开始年度看实施校数 [1]	50
	实施两种语言教育的学校 [4]	52
公私立别	从开始年度看实施校数 [1]	50
	汉语教育实施校的发展 [2]	51
	实施校的地区分布 [3]	51
	公私立学校的实施率 [6]	54
	开设英语以外的外语的高中 [7]	55
	从学习形式看实施校 [10]	58
	从取得学分数看实施校 [12]	59
	从学习人人数看实施校 [15]	60
	实施海外修学旅行的高中 [25]	66
	有海外姊妹校的高中 [26]	67
开设情况	从开设学科看实施校 [8]	57
	职业高中开设情况 [9]	58
	从学习形式看实施校 [10]	58
	从学习时间看实施校 [11]	58
	从取得学分数看实施校 [12]	59
	从取得学分数和形式看实施校 [13]	59
	取得学分数多的实施校 [14]	59
	从学习人人数看实施校 [15]	60
	学习人人数多的实施校 [16]	60
	通用教材 [24]	65
教员	按职称分类的任课教师数 [18]	62
	任课教师资格认定情况 [19]	62
	从任课教师数看实施校 [20]	63
	任课教师的母语 [21]	63
	非专职任课教师的母语 [22]	63
	从担任课时数看教师数 [23]	63
交流	友好班级交流 [28]	71
	实施海外修学旅行的高中 [25]	66
	有海外姊妹校的高中 [26]	67
	与使用汉语的国家和地区的姊妹校交流 [27]	68
	友好班级交流 [28]	71
外语	开设英语以外的外语的高中 [7]	55
	参加全国统考外语考试的人数 [17]	61

表中, 高中名均用日语表示。

I 国际文化交流中心(TJF)与亚洲语言

在即将迎来21世纪的今天，不同语言及文化背景人种之间的交往、共同活动将不断增加。彼此间沟通、理解的必然性亦将得到进一步强化。财团法人国际文化交流中心(TJF: The Japan Forum)认为，理解相互赖以生存的语言及文化，是更好地进行沟通、交流的关键。

基于这种认识，我们重视面向青少年的外语教育及文化理解教育，实施了支援计划，援助在以中国、美国、澳大利亚为中心的亚太地区的中小学日语教育。我们还为日本青少年能在学习英语的同时，也学习亚洲语言及其文化创造条件，并为促成这些地区的中小学学生与日本的同龄人进行互相交流，积极开展各种活动。

为更好地开展与亚洲语言、文化相关的活动，作为准备工作的一环，1993年度（此报告中的年度为日本年度，即从4月至下一年3月）我们对日本国内亚洲语言的教育现状进行了调查。在调查中，我们选择了汉语、朝鲜语、泰语、印度尼西亚语作为调查对象。其理由之一，这些国家的初等、中等日语教育比较盛行，其二，对日本来说，有开展邻近国家的语言——汉语和朝鲜语教育的必然性。这次调查结果表明，自90年代以来，开展汉语及朝鲜语教育的高中有了明显增加，但同时也发现，其具体实施情况还需作深入的调查。教育环境也有待于进一步改善。

1 TJF与“高中汉语教育”

“高中汉语教育”这一用语，包含实施汉语教育的高中、讲座的担任教师及学生在内的整体含意。TJF的调查工作，从一开始就是围绕“高中汉语教育”这一长期有待解决的课题，与有关方面共同协作进行的。

■ 首次“高中汉语教育”调查（94年度）

有关“高中汉语教育”问题，自82年以来，由教师组织的“全国高中汉语教育研究会”^{注)}，一直进行着脚踏实地的活动。94年度，TJF以有关亚洲语言调查中发现的问题为契机，实施了第一次“高中汉语教育”的问卷调查。在研究会的协助下，我们调查了几乎所有实施汉语教育的高中。我们将调查汇总，并连同其后了解的学校现状及课题，以《今日高中汉语教育之反思》（96年，日文版）为题出版了调查报告。因此类报告尚属首次，引起了极大反响。在报告中，我们从民间财团的角度，为解决这些问题，提出了有关“高中汉语教育”的十项建议。

注) 在研究“高中汉语教育”教学方法的同时，以密切会员的相互关系和有利于交流为宗旨：以高中汉语教育任课教师为中心的组织。设立于82年。主要活动为：每年举办一次研究大会，编写以高中生为对象的教材《高中汉语》和发行会报等。在全国设有北海道—东北—关东、中部、关西、中国—四国和九州—冲绳等5个支部。以支部为单位，举办研究会和以高中生为对象的汉语演讲比赛大会。

■ 调查后的活动（自95年度起）

根据第一次调查的结果，自95年度以来，TJF着手进行了一系列工作，以满足实际教学的需要。通过调查，我们认识到，目前“高中汉语教育”最紧迫的问题是，尚未制定出统一的教学目标和教学内容。因此，我们首先与教师一起共同开始了编写《高中汉语教育目标》的工作。

随着调查活动的开展，有关“高中汉语教育”的咨询不断增加，从而使我们逐渐收集到一些相关信息。我们将收集到的信息进行汇总、整理后，通过TJF的出版刊物及网页(<http://www.tjf.or.jp/>)定期发表。TJF还通过支援全国高中汉语教育研究会支部主办的研究会、汉语教育研究会等活动，为教师提供研修及交流信息的机会。通过这些活动，高中教师及汉语教育工作者之间的联系不断加强，并逐渐实现了信息共有。

此外，为了加强与中国中等日语教育界的交流，97年度，我们试办了以中国东北地区日语教师与日本高中汉语教师之间的交流为主的“友好班级”活动。

2 对汉语及朝鲜语教育的联合调查

自第一次调查以来，实施汉语教育的学校不断增加，“高中汉语教育”及所处的环境也出现了一些新动向。为适应这些变化，同时也为掌握朝鲜语教育的现状，我们在97年度到98年度的两年间，对这两种语言的教育进行了联合调查和信息收集。我们之所以进行共同调查，是因为有些学校同时实施两种语言的教育，并且这两种语言教育的现状具有不少相同点，而通过比较研究，可分别获得对两种语言教育的深层了解。

■ 调查对象

这次的调查对象，不仅限于97-98年度实施汉语、朝鲜语教育的学校，还包括计划或希望开设上述课程及曾经开设过上述课程的学校。我们认为这两种语言教育所处的状况并非总是一成不变的，为掌握现状不能只看某一年度的实施情况，有必要对几年间的变化进行观察。事实上，有很多学校虽已制定好课程计划，准备开课，但由于学校方针的变化、课程计划的变更、任课教师的安排、负责教学的教师的调动、选修学生人数不足等因素影响，不得不取消原定计划。

此外，汉语、朝鲜语教育不单是作为外语课来开展、不少学校还将其作为课题研究、其他科目或必选俱乐部活动等课外活动等多种形式来开展，因此，我们把这种情况也列入调查范围之内。

■ 调查过程

首先，我们参考了预备调查、研究资料，在97年5月底之前，选出了正在实施或可能正在实施汉语、朝鲜语教育的375所高中。从97年6月至98年3月间进行了问卷调查。对未能收回调查表的学校，我们通过电话进行了调查。调查结果表明，到98年6月为止，实施汉语教育的学校为308所，实施朝鲜语教育的为130所。我们将问卷调查的汇总结果及按地区编排的高中名单，作为阶段报告发行了小册子，并将其登载在TJF网页上。

问卷调查的回答者大部分为从事汉语及朝鲜语教育的教师，然而单从调查表的内容来进行分析、判断，还存在一定的局限性。

为弥补这一不足，进入98年度以后，我们对实施两种外语教育的学校进行了实地考察。通过采访任课教师及学校有关人员，举办教师研究会、教师座谈会等方式，收集、了解了有关情况。同时，我们还采访了教育委员会、大学有关人员，获得了相关的信息。

■ 调查报告的目的

经过长达两年的调查，我们了解到：截止到98年度（到99年3月底为止），实施汉语教育的学校共有353所，实施朝鲜语教育的学校有165所（二者兼备的有107所）。

本报告将通过图表介绍问卷调查的结果，并通过具体介绍其中几所学校的情况以及教师所进行的各种教学活动，简单扼要地揭示当前日本高中，实施两种外语教育的现状及存在的问题。

通过这次调查及资料收集，我们发现有不少学校通过修学旅行的形式，对韩国及使用汉语的国家和地区（中国、台湾、新加坡、马来西亚等）进行过访问，有些学校还与上述地区的学校结成了姊妹校。这些交流活动与外语教学相结合，必将加深相互间的进一步理解。

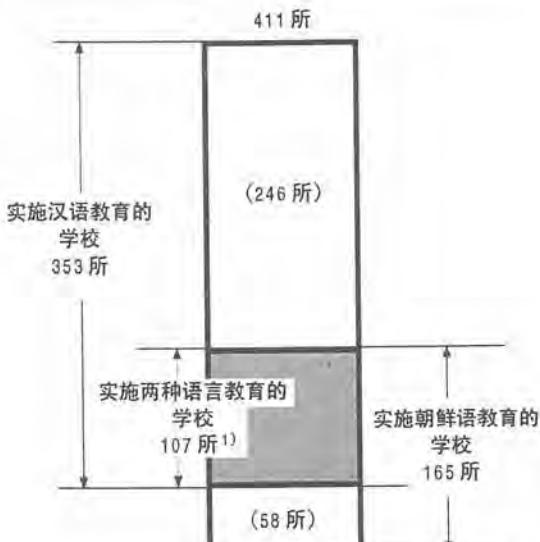
本篇有关汉语教育的调查报告与另编的有关朝鲜语教育的报告互为姊妹篇，是为中国及韩国的有关人员参阅而编写的。汉语教育的报告由日语部分及汉语部分构成；朝鲜语教育的报告由日语部分及朝鲜语部分构成。日语部分提及的“中国语”指汉语普通话；“韩国朝鲜语”在日本被称为“hangul”、“韩国语”及“朝鲜语”。在汉语部分则表记为“汉语”及“朝鲜语”。

我们认为，通过这两篇报告的编写，对帮助这些国家和地区的有关人员全面了解日本高中的外语教育概况有着十分积极的意义。

◆

本报告汉语部分的编写工作得到了孙浴光（大连教育学院日语教研员，由国际文化交流中心邀请来日）、胡兴智（原关东国际高中汉语教师）等有关人员的帮助。

本报告调查对象的实施校



注) 实施校：不仅限于97-98年度实施汉语、朝鲜语教育的学校，还包括计划或希望开设上述课程及曾经开设过上述课程的学校。

¹⁾ 相当于汉语实施校的30.3%，朝鲜语实施校的64.8%。

II 汉语和朝鲜语教育实施校的现状

开始年度和都道府县实施汉语及朝鲜语教育的高中的情况，如表1～4所示。我们在97年度实施问卷调查的基础上，加进98年度所掌握的情况，并将两个语种实施校一览表（包括选修概要）列入本报告。一览表还刊载在TJF的网页上，其内容随时更新。

为了充分反映两种语言的教育现状，我们不仅对97～98年度的实施校进行了调查，还对在99年度以后计划实施的学校及96年度以前开过课，而97～98年度停课的学校也进行了调查。这样做的理由是，我们考虑到有些学校，由于任课教师的调动或课程计划的改变而一时不能继续开课，但如果条件具备，则有重新开课的可能性。在本报告中，我们把上述学校都作为“实施校”，把讲座名列入教学计划的情况称为“开课”，如果是新设外语课程，则将讲座的实际开课年度定为开始时期。

1 两种语言教育实施校的发展

表1、表3以开始年度和地区列出公立及私立实施校的情况。从表中可以看出，不同地区及不同时期的变化以及公立学校和私立学校的实施情况的异同。我们认为有必要从全国范围掌握两种语言教育的实施情况，但对不同地区、公立学校与私立学校及各个学校的具体实施情况，有必要做进一步深入了解。

表1 从开始年度看实施校数

年度	汉 语			朝 鮮 语			同时 开课
	合 计	公 立	私 立	合 计	公 立	私 立	
未定	1	-	1	4	2	2	-
2001	1	1	-	1	1	-	1
2000	2	2	-	3	3	-	2
1999	15	11	4	13	11	2	4
1998	18	16	2	21	18	3	10
1997	31	23	8	22	18	4	9
1996	27	21	6	11	9	2	5
1995	37	27	10	7	4	3	3
1994	20	15	5	21	9	12	5
1993	20	15	5	8	5	3	3
1992	17	13	4	6	4	2	2
1991	25	15	10	6	4	2	3
1990	19	15	4	2	-	2	1
1989	18	10	8	2	1	1	-
1988	13	9	4	2	1	1	1
1987	16	11	5	5	1	4	3
1986	6	3	3	-	-	-	-
1985	6	2	4	1	-	1	-
1984	2	-	2	-	-	-	-
1983	3	2	1	-	-	-	-
1982	2	2	-	1	1	-	-
1981	-	-	-	-	-	-	-
1980	1	-	1	1	1	-	-
1979	4	3	1	-	-	-	-
1978	-	-	-	1	1	-	-
1977	-	-	-	1	1	-	-
1976	-	-	-	1	1	-	-
1975	-	-	-	1	1	-	-
1974	1	-	1	-	-	-	-
1973	4	-	4	2	1	1	-
1972	-	-	-	-	-	-	-
1971	-	-	-	-	-	-	-
1970	3	-	3	-	-	-	-
1969以前	8	6	2	2	-	2	-
不明	33	20	13	20	15	5	-
合 计	353	242	111	165	113	52	52

表 2 汉语教育实施校的发展: 95-98 年度

地区	学校的增加数			实施率 ¹⁾ 的增幅		
	合计	公立	私立	合计	公立	私立
北海道	3	1	2	0.9	0.3	3.7
青森	1	-	1	1.1	0	5.9
岩手	1	1	-	1.0	1.1	0
宫城	1	1	-	0.9	1.1	0
秋田	-	-	-	0	0	0
山形	4	3	1	5.6	5.4	6.7
福岛	1	1	-	0.9	1.0	0
茨城	-	-	-	0	0	0
栃木	1	1	-	1.2	1.4	0
群马	2	1	1	2.3	1.4	7.7
埼玉	7	5	2	3.3	3.0	4.5
千叶	5	2	3	2.5	1.4	5.4
东京	12	8	4	2.7	3.7	1.9
神奈川	6	5	1	2.3	2.7	1.2
新泻	-	-	-	0	0	0
山梨	1	1	-	1.9	2.4	0
长野	2	1	1	1.9	1.1	6.3
富山	1	1	-	1.7	2.0	0
石川	2	2	-	3.0	3.5	0
福井	1	-	1	2.6	0	14.3
岐阜	3	2	1	3.3	2.6	6.3
静冈	3	2	1	2.0	1.9	2.3
爱知	2	-	2	0.9	0	3.7
三重	2	2	-	2.5	3.1	0
滋贺	1	1	-	1.3	1.8	0
京都	7	4	3	6.8	6.2	8.1
大阪	12	10	2	4.2	5.3	2.1
兵库	9	8	1	3.9	4.5	1.9
奈良	1	1	-	1.5	2.0	0
和歌山	2	2	-	3.7	4.3	0
鸟取	1	1	-	2.9	3.4	0
岛根	3	3	-	5.9	7.3	0
冈山	2	1	1	1.9	1.2	4.2
广岛	4	4	-	2.9	3.8	0
山口	2	2	-	2.2	2.8	0
德岛	-	-	-	0	0	0
香川	-	-	-	0	0	0
爱媛	-	-	-	0	0	0
高知	1	-	1	1.9	0	12.5
福冈	5	2	3	2.7	1.5	4.8
佐贺	5	5	-	10.9	13.2	0
长崎	5	5	-	5.7	7.5	0
熊本	1	-	1	1.2	0	4.5
大分	5	4	1	6.5	6.6	6.3
宫崎	2	2	-	3.4	3.4	0
鹿儿岛	1	1	-	1.0	1.0	0
冲绳	2	2	-	2.9	2.9	0
合计	132	98	34	2.4	2.4	2.6

1) 都道府县的实施校数÷高中学校数的百分比

表 3 实施校的地区分布

地区	汉语(C)			朝鲜语(K)			C ∩ K ¹⁾		
	合计	公立	私立	合计	公立	私立	合计	公立	私立
北海道	4	2	2	3	1	2	1	1	-
青森	1	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手	2	2	-	3	2	1	1	1	-
宫城	4	3	1	3	1	2	2	1	1
秋田	1	1	-	-	-	-	-	-	-
山形	4	3	1	2	-	2	1	-	1
福岛	2	1	1	-	-	-	-	-	-
茨城	3	2	1	-	-	-	-	-	-
栃木	3	2	1	-	-	-	-	-	-
群马	6	1	5	1	-	1	1	-	1
埼玉	18	12	6	4	-	4	3	-	3
千叶	14	8	6	2	1	1	2	1	1
东京	51	28	23	12	9	3	11	8	3
神奈川	21	15	6	6	5	1	3	2	1
新泻	1	1	-	1	1	-	1	1	-
山梨	2	2	-	-	-	-	-	-	-
长野	2	1	1	3	2	1	1	1	-
富山	5	4	1	1	1	-	-	-	-
石川	3	3	-	3	3	-	3	3	-
福井	4	1	3	2	-	2	2	-	2
岐阜	6	4	2	1	1	-	1	1	-
静冈	7	4	3	-	-	-	-	-	-
爱知	9	4	5	1	-	1	1	-	1
三重	3	3	-	1	1	-	1	1	-
滋贺	8	7	1	5	4	1	4	3	1
京都	15	6	9	6	2	4	6	2	4
大阪	28	22	6	32	26	6	15	13	2
兵库	24	21	3	11	10	1	8	7	1
奈良	4	3	1	2	1	1	2	1	1
和歌山	5	4	1	1	-	1	-	-	-
鸟取	4	4	-	4	4	-	2	2	-
岛根	4	4	-	3	3	-	2	2	-
冈山	6	3	3	-	-	-	-	-	-
广岛	6	6	-	16	11	5	6	6	-
山口	6	4	2	3	2	1	2	2	-
德岛	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	-	-	-	-	-	-	-	-	-
爱媛	-	-	-	2	2	-	-	-	-
高知	2	1	1	-	-	-	-	-	-
福冈	18	13	5	8	4	4	8	4	4
佐贺	8	7	1	4	4	-	2	2	-
长崎	9	8	1	1	1	-	-	-	-
熊本	5	3	2	5	2	3	2	1	1
大分	9	5	4	6	3	3	6	3	3
宫崎	5	4	1	4	3	1	4	3	1
鹿儿岛	3	2	1	1	1	-	1	1	-
冲绳	8	8	-	2	2	-	2	2	-
合计	353	242	111	165	113	52	107	75	32

1) C ∩ K: 实施两种语言教育的学校

表4 实施两种语言教育的学校

地区 (学校数)	高中名 ¹⁾ *私立	开始年度 ²⁾		地区 (学校数)	高中名 ¹⁾ *私立	开始年度 ²⁾	
		汉	朝			汉	朝
北海道(1)	札幌国際情報	96 → 97	法俄		佐野工業定期制	98 ← 91	
岩手(1)	不来方	87 → 89	法德西		此花総合(市)	99 = 99	法
宮城(2)	*仙台育英学園	91 → 97		兵庫(8)	姫路商業	79 → 未	
	宮城野	97 = 97	法		*関西学院高等部	86 → 94	法德
山形(1)	*山形城北女子	未 ← 88	法		湊川	87 = 87	
群馬(1)	*白根開善	95 ← 94			尼崎(市)	98 = 98	
埼玉(3)	*自由の森学園	85 → 87	法西		神戸甲北	98 = 98	其他
	*慶応義塾志木	91 = 91	法德西俄等		尼崎	99 = 99	
	*立教	96 = 96	法德西俄等		六甲アイランド(市)	00 = 00	法
千叶(2)	*千葉明徳	93 → 94			芦屋(市)	[97] ?	
	流山東	98 = 98		奈良(2)	*天理教校親里	89 → 94	法西等
东京(11)	*武蔵	73 → 90	法德		山辺	97 = 97	
	*桜美林	88 → 99		鳥取(2)	米子	92 → 93	
	国際	89 → 92	法德西俄		青谷	95 = 95	
	都立大学附属	90 [94]	法德西	島根(2)	浜田商業	97 = 97	
	飛鳥	94 ← 80	法		遭摩	98 = 98	
	葛西南定期制	95 = 95		广岛(6)	安芸府中	92 → 94	法等
	西	97 = 97	法德		広島商業	93 = 93	
	日比谷	97 = 97	法德		大竹	98 = 98	
	晴海総合	97 → 99	法德西		三次青陵	98 = 98	
	*芝浦工業大学	98 = 98	法		舟入(市)	99 = 99	
	狛江	[95] → 98	法		広島觀音	00 = 00	
神奈川(3)	*栄光学園	80 → 94		山口(2)	響	97 ← 96	
	神奈川総合	96 ← 95	法德西		下関国際	[98] [98]	
	大師	97 → 98	法西等	福岡(8)	戸畠商業(市)	69 → 95	
新泻(1)	新潟商業	94 = 94	俄		*九州国際大学付属	94 = 94	
長野(1)	塩尻	01 = 01			東鷲	94 = 94	
石川(3)	金沢辰巳丘	95 → 99	法德俄		*冲学園	97 → 99	
	金沢伏見	96 = 96			*慶成	98 = 98	
	金沢北陵	97 → 未			博多青松	98 → 99	
福井(2)	*啓新	89 [94]			福岡女子(市)	? 94	
	*敦賀気比	94 = 94		佐賀(2)	*福岡第一	? ?	
岐阜(1)	土岐紅陵	98 → 99			高志館	92 → 97	
愛知(1)	*安城学園	90 = 90			神崎清明	96 → ?	
三重(1)	昂学園	96 = 96		熊本(2)	東稜	87 = 87	
滋賀(4)	守山女子(市)	87 → 99			*王名女子	92 = 92	
	国際情報	88 = 88		大分(6)	*別府大学附属	93 → ?	
	*近江兄弟社	94 = 94			*日本文理大学附属	95 = 95	
	水口	95 → 96			大分東	96 = 96	法德
京都(6)	*南京都	94 → 未			日田三隅	97 = 97	
	日吉ヶ丘(市)	96 → 97	德西		日出賀谷	98 = 98	
	*同志社国際	97 = 97	法德西		*楊志館	99 ← 93	
	*花園	97 = 97		宮崎(4)	*日章学園	87 = 87	
	嵯峨野	97 → 98	法西		富島	90 → 98	
	*同志社	[97] ?	法德		本庄	91 = 91	
大阪(15)	*帝塚山学院泉ヶ丘	84 → 87	法西		都農	98 = 98	
	*大阪体育大学浪商	89 → 95	法	鹿児島(1)	鹿児島東	86 → 98	法西
	住吉	91 = 91	法西	冲绳(2)	向陽	95 → 97	
	桃谷通信制・定期制	92 = 92			那覇国際	99 = 99	法德西
	旭	92 ?	法德				
	佐野	92 ?	法德西				
	阪南	93 = 93					
	松原	93 = 93	法西				
	枚方	93 → 97	法德西				
	箕面	93 ?	法德西				
	花園	95 ← 94					
	西	96 = 96	法				
	柴島	97 = 97	法				

1) 依每个都道府县的汉语开始开设年度顺序(年度相同时, 依朝鲜语开始开设年度顺序)

2) 开始年数为19--、20--的只写--

汉: 汉语 朝: 朝鲜语

= 同时开课 → 汉语为先 ← 朝鲜语为先

[]确认开设的年度 ? 开始开设年度不明

未 开始开设年度未定

■ 80年代后期增加的实施校

如表1所示，汉语及朝鲜语教育的实施校，自80年代后期开始逐步增加。自87年度至98年度，汉语教育实施校及朝鲜语教育实施校每年分别增加21.8所和9.4所。在87年的临时教育审议会的最终答辩中，提出了初高中选修科目多样化的建议；89年修改了学习指导大纲，英语教育及其他语种的外语教育，作为促进交流、加深国际理解不可或缺的一环，引起了社会的重视。

91年度起一些学校指定为“外语教育多样化试点校”，这可视为对英语以外的外语教育进行研究的起始点。93年，“改进外语教育调研小组会议”及“推进高中教育改革会议”分别提出了各自的总结报告。前者的报告中，在谈到关于“改进初高中外语教育的方法”时指出，有必要推进英语以外的、亚洲邻近国家和地区语言及其它语言的外语教育。而后的报告，对设置综合学科、学分制高中等新型高中及开设具有特色的学科、课程，起到了促进作用。

如表3、4所示，实施两种语言教育的高中($C \cap K$)为107所(公立75所、私立32所)，公立学校约为私立学校的2.3倍。这些学校的汉语及朝鲜语教育开始年度的先后顺序，如表4所示，大多是汉语为先，朝鲜语为后，也有一些相反的情况(8所，7.5%)。同时开课的学校为52所，并集中于87年度以后。

107所学校中，除英语以外，只开设汉语或朝鲜语的为64所，多见于中国地区、四国地区及九州地区。

■ 地区的和公立私立学校的实施率

实施汉语教育的学校已在全国普及(表3所示)，截止到98年度末的统计，未设置汉语实施校的县，只有德岛、香川、爱媛3县，而在95年度当时，尚有6个县。截止到98年度末的统计，未设置朝鲜语实施校的县，为关东

地区北部、东北及四国地区的11个县。

为更清楚地了解地区及公立学校、私立学校实施情况的异同，我们分别根据不同地区及公立、私立学校的不同算出了实施率(都道府县的实施校数÷高中学校数的百分比)。下页的表5分别表示汉语(C)、朝鲜语(K)、及两种语言实施校并集($C \cup K$)的实施率。下页的表6分别表示公立学校、私立学校的实施率。通过这些图表可以看出不同地区实施情况的特征。

从全国来看，有7.5%的高中(其中6.7%的公立高中、10.0%的私立高中)实施了汉语教育或朝鲜语教育。实施汉语教育的高中占高中学校总数的6.4%(其中公立学校为5.8%、私立学校为8.4%)。实施朝鲜语教育的学校占高中总数的3.9%(其中公立学校占2.7%、私立学校占4.0%)。

■ 3年内实施校增加了132所

第一次汉语教育调查中，95年度末的实施校数为221所。实施校数自80年代后期起急速增长，其增长幅度在90年代后期更为显著。通过这两次调查，得知95年～98年的3年之中，新出现了132所实施校。第51页表2表示地区和公、私立实施校的增加数及实施率的变化。除6个县外，所有县的实施校都有所增加。学校数增加最多的为东京、大阪、兵库、埼玉、京都、神奈川、千叶、福冈、佐贺、长崎、大分等。实施率增幅最大的为佐贺、京都、大分、岛根和山形等。

■ 朝鲜语教育的讲座名

汉语教育的讲座名，通称为“汉语”，而朝鲜语教育，从全国范围来看，使用“hangul”的占实施校的42.1%、“韩国语”占24.3%、“朝鲜语”占20.0%、“韩国朝鲜语”占13.6%。

表5 实施率的地区分布

地区	汉语 (C)	朝鲜语 (K)	C ∪ K ¹⁾
北海道	1.2	0.9	1.8
青森	1.1	-	1.1
岩手	2.0	3.0	4.0
宫城	3.5	2.7	4.4
秋田	1.5	-	1.5
山形	5.6	2.8	7.0
福岛	1.8	-	1.8
茨城	2.3	-	2.3
栃木	3.6	-	3.6
群马	6.9	1.1	6.9
埼玉	8.5	1.9	9.0
千叶	6.8	1.0	6.8
东京	11.1	2.6	11.4
神奈川	8.0	2.3	9.2
新泻	0.8	0.8	0.8
山梨	3.9	-	3.9
长野	1.9	2.8	3.7
富山	8.5	1.7	10.2
石川	4.5	4.5	4.5
福井	10.3	5.1	10.3
岐阜	6.4	1.1	6.4
静冈	4.7	-	4.7
爱知	3.9	0.4	3.9
三重	3.8	1.3	3.8
滋贺	13.8	8.6	15.5
京都	14.4	5.8	14.4
大阪	9.9	11.3	15.8
兵库	10.4	4.8	11.7
奈良	6.2	3.1	6.2
和歌山	9.3	1.9	11.1
鸟取	11.4	11.4	17.1
岛根	7.8	5.9	9.8
冈山	5.6	-	5.6
广岛	4.3	11.3	11.3
山口	6.5	3.3	7.6
德岛	-	-	-
香川	-	-	-
爱媛	0.0	2.7	2.7
高知	3.8	-	3.8
福冈	9.7	4.3	9.7
佐贺	17.4	8.7	21.7
长崎	10.2	1.1	11.4
熊本	5.9	5.9	9.4
大分	11.7	7.8	11.7
宫崎	8.5	6.8	8.5
鹿儿岛	2.9	1.0	2.9
冲绳	12.1	3.0	12.1
全国	6.4	3.0	7.5

注) 每个都道府县的高中数, 依据文部省资料

1) C ∪ K: 两种语言及任一语言的实施校

表6 公、私立学校的实施率

地区	公 立			私 立		
	汉 语 (C)	朝 鲜 语 (K)	C ∪ K ¹⁾	汉 语 (C)	朝 鲜 语 (K)	C ∪ K ¹⁾
北海道	0.7	0.3	0.7	3.7	3.7	7.4
青森	-	-	-	5.9	-	5.9
岩手	2.3	2.3	3.4	-	7.7	7.7
宫城	3.2	1.1	3.2	5.3	10.5	10.5
秋田	1.7	-	1.7	-	-	-
山形	5.4	-	5.4	6.7	13.3	13.3
福岛	1.0	-	1.0	5.9	-	5.9
茨城	1.8	-	1.8	4.8	-	4.8
栃木	2.9	-	2.9	6.7	-	6.7
群马	1.4	-	1.4	38.5	7.7	38.5
埼玉	7.3	-	7.3	13.0	8.7	15.2
千叶	5.3	0.7	5.3	10.9	1.8	10.9
东京	12.7	4.1	13.1	9.7	1.3	9.7
神奈川	8.1	2.7	9.7	7.9	1.3	7.9
新泻	0.9	0.9	0.9	-	-	-
山梨	5.0	-	5.0	-	-	-
长野	1.1	2.2	2.2	6.3	6.3	12.5
富山	8.0	2.0	10.0	11.1	-	11.1
石川	5.4	5.4	5.4	-	-	0.0
福井	3.1	-	3.1	42.9	28.6	42.9
岐阜	5.1	1.3	5.1	12.5	-	12.5
静冈	3.8	-	3.8	7.0	-	7.0
爱知	2.3	-	2.3	8.9	1.8	8.9
三重	4.6	1.5	4.6	-	-	-
滋贺	14.0	8.0	16.0	12.5	12.5	12.5
京都	9.2	3.1	9.2	23.1	10.3	23.1
大阪	11.6	13.8	18.5	6.3	6.3	10.5
兵库	11.8	5.6	13.5	5.8	1.9	5.8
奈良	6.1	2.0	6.1	6.3	6.3	6.3
和歌山	8.7	-	8.7	12.5	12.5	25.0
鸟取	13.8	13.8	20.7	-	-	-
岛根	9.8	7.3	12.2	-	-	-
冈山	3.6	-	3.6	12.5	-	12.5
广岛	5.7	10.4	10.4	-	14.3	14.3
山口	5.6	2.8	5.6	10.0	5.0	15.0
德岛	-	-	-	-	-	-
香川	-	-	-	-	-	-
爱媛	-	-	-	-	-	-
高知	2.2	-	2.2	12.5	-	12.5
福冈	10.5	3.2	10.5	8.1	6.5	8.1
佐贺	18.4	10.5	23.7	12.5	-	12.5
长崎	11.9	1.5	13.4	4.8	-	4.8
熊本	4.8	3.2	6.3	9.1	13.6	18.2
大分	8.2	4.9	8.2	25.0	18.8	25.0
宫崎	9.1	6.8	9.1	6.7	6.7	6.7
鹿儿岛	2.4	1.2	2.4	4.5	-	4.5
冲绳	12.9	3.2	12.9	-	-	-
全国	5.8	2.7	6.7	8.4	4.0	10.0

注) 每个都道府县的高中数, 依据文部省资料

1) C ∪ K: 两种语言及任一语言的实施校

2 外语教育中的汉语教育 及朝鲜语教育

以上我们按地区、开设年度分别介绍了公立学校和私立学校实施这两种外语教育的概况。下面再来分析一下这两种外语教育在日本外语教育中所处的位置。

表7表示英语教育以外的外语教育实施高中的现状。从全国来看，90年度以后汉语一直居首位。97年度，汉语发展到303所，朝鲜语继法语（191所）之后为103所。从上述资料还可得知，学习这些语言的学生人数占学生总数^{注)}的百分比，即汉语15,390人，占0.35%、朝鲜语3,929人，占0.09%。每1,000名高中生中，学习汉语及朝鲜语的分别为3.5人及0.9人。学习法语、德语、西班牙语、俄语的分别为2.1人、1.1人、0.5人及0.2人，尽管学习英语以外的外语学生为数极少。但实施这些外语教育的学校和学习人层数年年都在增加。

^{注)} 97年度学生总数为4,371,360人 引自98年度学校基本情况调查报告书（文部省）

表7 开设英语以外的外语的高中

		学校数						学习人数
		1986	1988	1990	1993	1995	1997	
汉 语	公 立	19	40	64	96	124	201	7,915
	私 立	27	31	47	58	68	102	7,475
	合 计	46	71	111	154	192	303	15,390
朝 鲜 语	公 立	4	8	10	25	47	64	2,046
	私 立	3	6	14	17	26	39	1,883
	合 计	7	14	24	42	73	103	3,929
法 语	公 立	26	34	44	57	74	101	3,448
	私 立	49	55	63	71	73	90	5,739
	合 计	75	89	107	128	147	191	9,187
德 语	公 立	17	24	31	37	43	55	1,549
	私 立	26	30	30	36	32	42	3,218
	合 计	43	54	61	73	75	97	4,767
西班牙语	公 立	7	9	13	23	27	47	1,249
	私 立	12	12	18	16	16	21	987
	合 计	19	21	31	39	43	68	2,236
俄 语	公 立	1	2	3	5	11	11	315
	私 立	1	2	3	6	9	10	504
	合 计	2	4	6	11	20	21	819
其 他	公 立	0	0	0	0	0	5	71
	私 立	6	6	5	6	20	21	324
	合 计	6	6	5	6	20	26	395
合 计	公 立	74	117	165	243	326	484	16,593
	私 立	124	142	180	211	244	325	20,130
	合 计	198	259	345	454	570	809	36,723

资料：文部省

III 汉语教育的现状

每个学校实施汉语及朝鲜语教育的经过及实施内容，因所处地区、开始年度和每个学校的情况各异而不尽相同，难以一概而论。下面我们举几个学校和教育委员会的实例，来看一下这两种语言教育所处的现状。

1 开始实施的经过

每个学校的实施情况都或多或少地受到不同因素的影响，其中有积极推进课程开设，并使之正常发展下去的任课教师的努力；有从学校整编角度上（普通科·商业科转为综合学科等）考虑的校长、理事长等人为因素；还有来自各地方政府国际化政策的变化等。

◆ **大东文化大学第一高中（东京）** 采纳同系列学校大东文化大学的建议，于74年开设汉语课。自94年起，组织学生去北京修学旅行。该校的汉语课为必修课，二年级的全体学生必须修满1个学分^{注)}，主要学习会话以便在修学旅行中使用。上三年级后继续选修的学生几乎全部升入大东文化大学汉语专业。

◆ **鹿儿岛县立鹿儿岛东高中** 86年设立国际教养科，居全国第二。自98年度起，在当初开设的汉语课以外，又增设了朝鲜语、法语

和西班牙语。汉语会话课为必修课，一年级的全体学生必须修满2个学分。同时，还制定在四门外语中任选一门学习（二年级2个学分、三年级3个学分）的教学计划。他们把培养学生的交际能力放在首位，将10～20名学生分为一个班，汉语课和朝鲜语课由外籍老师和日本老师进行双语协助教学（team teaching）。他们还跟中国及韩国的学校进行姊妹校交流，并计划在将来开展留学互访活动。

◆ **兵库县教育委员会** 为了向学生提供学习多种语言的机会，在三所县立高中开设了汉语和朝鲜语讲座。他们希望能使学生通过这两种语言的学习，加深与邻近国家与地区的友谊。他们向县立高中所有学生提供学习这些语言的机会，为第二外语教育开拓了新的领域。上课时间安排在周六（基本上隔周一次）和暑假。由于上课时间有时与俱乐部活动及学校活动相冲突，出勤情况并非十分理想，而且还存在有些学生离实施校较远等问题。但作为一种尝试受到了关注。试点校分别为湊川高中（汉语、朝鲜语）、神崎工业高中（汉语）及姫路北高中（汉语）。取得学分为2个学分。

◆ **岐阜市立岐阜商业高中** 为了推进适应社会变化的商业教育，88年度进行了学科改编，在新成立的经营管理科国际经济课程中开设了汉语课。岐阜市和中国的杭州市为友好城市，并且当时岐阜商业高中与杭

注) 学分：学满一年，每周一节课为一个学分

州市综合中专计划结为友好校，这些都对汉语课程的开设起到极大的推进作用。

◆ 大阪府教育委员会 自91年度至93年度，有九所府立高中设置了国际教养科。其特色之一是将第二外语列入教学计划之中，使外语教育更加充实。旭、佐野、住吉、花园、枚方、箕面等6所高中开设了汉语课和朝鲜语课。泉北、千里、长野等3所高中开设了汉语课。旭的修学旅行地点安排在韩国，佐野、泉北、千里、箕面等校则安排在中国（朝鲜语实施校中，包含97、98年度停课的学校）。

◆ 南京都高中（京都） 78年，以理事长对中国进行教育考察为契机，开始了和中国教育工作者间的交流。根据理事会的方针，于94年在国际交流课程中开设了汉语班。全体任课教员均从中国招聘，在教龄长达30年多年的老教师的带领下开展教学活动。学生在一年级和二年级时，分别去中国短期留学三个星期。汉语班的毕业生几乎全部考上设有汉语专业的日本大学或去中国的大学留学。

◆ 石川县立辰巳丘高中 在建校10周年的95年度设置了外语课程汉语班，在县内首次开始实施汉语教育。由一名专职教师和两名在金泽大学留学的中国留学生担任教学工作。汉语班的学生，三年内最多可修满24个学分。

◆ 鸟取县立青谷高中 青谷町在与友好城市中国江苏省太仓市进行交流的基础上，希望将青谷町办成环日本海国际交流基地。而当时青谷高中为使学生树立明确的学习目标，计划开设国际课程，由于两者的构想正相吻合，青谷高中在95年度开设国际课程的同时，开设了第二外语的汉语课和朝鲜语课。此外，作为学校文化节的一项活动，青谷町还主办了日、中、韩高中生国际研讨会，并邀请了太仓师范学校和韩国庆

尚南道的居昌商业高中的学生及教师前来参加。担任朝鲜语讲座教学的为町政府聘请的国际交流员。

2 选修概要

表8表示开设汉语及朝鲜语讲座的学科。两种语言均以普通科居多，在普通科开课的94所汉语实施校中42所（44.7%），52所朝鲜语实施校中14所（26.9%）是在普通科的一部分课程中开设的。97年度以来，在能开设多项选择科目的综合学科中，实施这两种语言教育的地方有所增加。

同时开设两种课程的52所学校中有14所是在综合学科里开设的。在综合学科实施汉语教育的有29所，实施朝鲜语教育的有18所。在设有综合学科的学校（98年度 106所）中，汉语及朝鲜语实施校，分别占27.4%和17.0%。长崎县3所设有综合学科的学校均设有汉语课程。福岛县于97年度设置综合学科时，在县内公立高中率先实施汉语教育。教育管理部门也把逐步在每个学区，设置一所有综合

表8 从开设学科看实施校

学科 ¹⁾	汉 语	朝 鲜 语
普通科	94	52
综合学科	29	18
国际经济科	22	4
商业科	19	4
国际科	14	6
国际教养科	14	6
国际文化科	7	3
外语科	6	1
英语科	5	1
工业科	2	1
国际观光科	2	-
国际信息科	2	-
信息处理科	2	-
信息科	2	-

注) 一所学校开设多种学科时，数字有重复

1) 在两所以上学校开设的学科

学科的学校定为目标，综合学科的增加将会给这两种语言教育带来新的发展。一些实施校内部也出现了新的动向，他们通过改变教学计划，使在其他学科学习的学生也能选修自己所在学科里没有的讲座。

◆ **关东国际高中(东京)** 86年开设外语科汉语课程，开始实施汉语专科教育。99年度开始，普通科二年级的学生也可以选修汉语必选课。

◆ **神奈川县立大师高中** 96年度改为综合学科，97年度开设汉语、法语、西班牙语课，98年度开设朝鲜语课，99年度开设葡萄牙语课。学校共有六个课程，地域国际课程的学生可以选修作为综合选修课的外语课。

◆ **兵库县立神户甲北高中** 97年度由普通科改为综合学科。因地区内住有许多来自亚洲国家的外国人，他们将“连接亚洲”作为学校的办学方针之一，开设了汉语、朝

鲜语、越南语、印度尼西亚语课程。他们还与韩国的一所姊妹校高中开展学生互访活动。98年度组织学生去韩国修学旅行。与上海市位育中学交流的准备工作也在进行。

表9表示校名中含有商业或工业等名称的职业高中的实施情况。实施汉语教育的商业高中有43所，相当于实施校总数的12.2%。其中8所学校于70年度以前已开始实施汉语教育。

表10表示以学习形式来分类的实施校数。最多的形式为自选课，汉语46.6%（公立109所、私立29所），朝鲜语53.2%（公立54所、私立13所）。其次是必选课，汉语32.8%（公立77所、私立20所），朝鲜语33.3%（公立33所、私立9所）。汉语课中83.8%是自选或必选课，必修课占12.5%。朝鲜语课中87.3%是自选或必选课，必修课占9.5%。同时设有必选和必修课的学校分别占3.7%和3.2%。两种外语教育实施校中，开设选修科目的学校占多数。

表11可以从学习时间上了解实施情况。选修汉语时间是指能够学习的最长时间。

表9 职业高中开设情况

	汉 语	朝鮮語
商业高校	43	8
工业高校	4	4
农业高校	1	1

表10 从学习形式看实施校

学习形式	汉 语			朝鮮語				
	合计	(%)	公立	私立	合计	(%)	公立	私立
自选课	138	(46.6)	109	29	67	(53.2)	54	13
必选课	97	(32.8)	77	20	42	(33.3)	33	9
必修课	37	(12.5)	11	26	12	(9.5)	3	9
必选课+自选课	13	(4.4)	11	2	1	(0.8)	1	-
必修课+必选课	9	(3.0)	5	4	1	(0.8)	-	1
其他 ¹⁾	2	(0.7)	1	1	3	(2.4)	2	1
合计	296	(100.0)	214	82	126	(100.0)	93	33

注)一所学校有多种学习形式时，数字有重复。

1) 必修课+自选课、必修课+必选课+自选课

表11 从学习时间看实施校

时间	年级	汉语 (%)	朝鮮語 (%)
1年	1	6	6
	2	43	22
	3	72	30
	其他	13	10
		134 (46.9)	68 (52.7)
2年	1-2	9	6
	2-3	97	40
	其他	4	0
		110 (38.5)	46 (35.7)
3年以上	1-3	42	11
	其他	0	4
		42 (14.7)	15 (11.6)
合计		286 (100.0)	129 (100.0)

注)一所学校有多种学习形式时，数字有重复

46.9%的汉语实施校及52.7%的朝鲜语实施校，学习时间为一年。为期两年的分别为38.5%和35.7%。85.3%的汉语实施校和88.4%的朝鲜语实施校，学习时间为一年或两年。

表12表示从取得学分数看开课的情况。选修学分是指能够取得的最大学分数。汉语及朝鲜语均以2个学分为最多，分别占37.6%和40.8%。其次为4个学分，分别为29.3%和30.8%。综合起来，2个学分和4个学分的

汉语或朝鲜语实施校中，分别占其语种实施校总数的66.9%和71.7%。94年度实施的汉语教育调查中，4个学分的为最多，占36.8%，其次为2个学分，占21.7%。从表13可以同时了解取得学分数和学习形式。

表14表示取得学分数多的实施校。总数超过10个学分的12所学校中，6所为私立学校。从开课年度看，均集中于80年代后期至90年代前期。

表12 从取得学分数看实施校

学分数	汉 语				朝 鲜 语			
	合 计	(%)	公 立	私 立	合 计	(%)	公 立	私 立
1	4	(1.4)	2	2	5	(4.2)	3	2
2	108	(37.6)	81	27	49	(40.8)	41	8
3	24	(8.4)	14	10	7	(5.8)	4	3
4	84	(29.3)	66	18	37	(30.8)	30	7
5	13	(4.5)	10	3	6	(5.0)	4	2
6	29	(10.1)	21	8	10	(8.3)	7	3
7	8	(2.8)	7	1	1	(0.8)	1	0
8	3	(1.0)	3	0	0	(0.0)	0	0
9	2	(0.7)	1	1	2	(1.7)	1	1
10-19	8	(2.8)	4	4	2	(1.7)	1	1
20-28	4	(1.4)	2	2	1	(0.8)	0	2
	287	(100.0)	211	76	120	(100.0)	92	29

注)一所学校有多种学习形式时，数字有重复

表13 从取得学分数和形式看实施校

学分数	汉 语				朝 鲜 语			
	自选课	必选课	必修课	其他	自选课	必选课	必修课	其他
1	1	0	3	0	2	0	3	0
2	52	42	13	1	30	15	3	1
3	11	9	4	0	6	1	0	0
4	40	35	3	6	19	16	0	2
5	6	4	1	2	1	4	1	0
6	17	4	6	2	4	3	2	1
7	1	1	1	5	0	1	0	0
8	2	0	0	1	0	0	0	0
9	1	0	0	1	1	0	1	0
10-19	0	1	4	3	0	1	0	1
20-28	0	0	2	2	0	0	1	0
	131	96	37	23	63	41	11	5

注)回答数：汉语287、朝鲜语120

表14 取得学分数多的实施校

高中名 (*私立)	地区	学分数	开设学科(开课年度)
不来方	岩手	25	普通科外语学系(87)
金沢辰巳丘	石川	24	普通科外语课程(95)
* 関東国際	东京	21	外语科(86)
* 明徳義塾	高知	20	普通科国际外语课程(95)
* 京都両洋	京都	19	国际课程(87)
伊奈学園総合	埼玉	18	普通科语言课程(91)
* 敦賀気比	福井	18	国际科(94)
* 南京都	京都	18	国际交流课程(94)
向陽	冲绳	15	国际文化科(95)
* 柴田女子	青森	14	普通科(95)
桃谷通信制・定期制	大阪	12	外语科(92)
玄界	福冈	11	普通科国际文化课程(88)

注)学分数超过10个学分的学校

■ 学习人数及学习动机

从上述情况可以了解到，学习英语以外的外语的学生，在大多数学校中只占极少数。

表15 从学习人数看实施校

学习人数	汉 语				朝鮮語			
	合计	(%)	公立	私立	合计	(%)	公立	私立
2~10	24	(11.5)	19	5	14	(22.2)	12	2
11~20	48	(23.0)	34	14	16	(25.4)	7	9
21~30	32	(15.3)	27	5	6	(9.5)	4	2
31~40	21	(10.0)	17	4	8	(12.7)	6	2
41~50	10	(4.8)	7	3	4	(6.3)	2	2
51~60	17	(8.1)	11	6	2	(3.2)	1	1
61~70	12	(5.7)	9	3	3	(4.8)	1	2
71~80	10	(4.8)	8	2	0	(0.0)	0	0
81~90	6	(2.9)	3	3	0	(0.0)	0	0
91~100	5	(2.4)	5	0	1	(1.6)	1	0
101以上	24	(11.5)	7	17	9	(14.3)	5	4
学校数	209	(100.0)	147	62	63	(100.0)	39	24
学习人数	11,981		5,990	5,991	3,276		1,589	1,687

注) 根据文部省的资料, 97年度开设的学校数和学习人数: 汉语303所(15,390人)、朝鮮語103所(3,929人)。此表数字仅限回答问卷调查的学校

这也在表15中得到反映。一校的学习人数为11~20人的实施校最多, 汉语占23.0%、朝鮮語占25.4%。汉语实施校中21人~30人的占15.3%、10人以下和101人以上的均占11.5%、31人~40人的占10.0%。朝鮮語实施校中10人以下的占22.2%、101人以上的占14.3%、31人~40人的占12.7%、21人~30人的占9.5%。学习人数在20人以下的学校, 占汉语实施校的34.4%、朝鮮語实施校的47.6%, 30人以下的, 占汉语实施校的49.8%、朝鮮語实施校的57.1%。约半数的汉语实施校, 学习人数在30人以下, 约半数的朝鮮語实施校, 学习人数在20人以下。

表16中表示学习人数较多的学校。汉语实施校中, 超过150人的有17所, 其中13所是私立高中, 朝鮮語实施校中, 超过100人的有10所, 其中4所是私立高中。汉语实施校中, 很多学校除修学旅行外, 还开展外语研修和结为姊妹校等活动。朝鮮語实施校中前6位的学校, 均有修学旅行活动。从地区来看, 与

表16 学习人数多的实施校

高中名(*私立)	区域	学习人数	学习形式(开课年度)	交流活动
* 京都兩洋	京都	648	国际课程必修(87)	外语研修
* 桜丘	爱知	507	普通科1年级必修(85)	姊妹校
* 長門	山口	490	商业科必修(93)	
* 麗應義塾	神奈川	420	3年级必选+自选课(83)	
* 関西	冈山	310	商业科必修课(73)	
* 立花	福冈	276	普通科汉语课程必修课(73)	
桃谷通信制・定期制	大阪	260	外语科1-2年级必选课, 3年级自选课	
* 大東文化大学第一	东京	245	普通科2年级必修课, 3年级必选课+自选课(73)	修学旅行
* 関東国際	东京	216	外语科汉语课程 1-3年级必修(86)	修学旅行、外语研修
* 武蔵野	东京	183	1-3年级自选课(70)	
* 群馬女子短大附属	群马	179	普通科(90)	
* 沖学園	福冈	170	社会综合学科1年级必选课(97)	
* 国際開洋第一	静冈	167	普通科国际课程 1-3年级必修课(85)	
鹿児島東	鹿儿岛	163	国际教养科1年级必修课, 2-3年级必选课(86)	姊妹校
浦添商業	冲绳	162	国际观光科1-3年级必修课+必选课、商业科3年级必选课(88)	
神戸商業	兵库	155	商业科国际课程2-3年级必选课、升学课程必选课、就职课程必选课(79)	
* 立命館宇治	京都	152	普通科2-3年级自选课(96)	修学旅行、姊妹校

注) 学习人数超过150人的学校

已在全国推广的汉语教育相比，朝鲜语教育除山形、东京（各1所）外，都集中在关西以西地区。

由问卷调查结果得知，不论是选择汉语还是选择朝鲜语的学生，其动机均以出于对语言和文化的关心为最多。以汉语为例，一些学生之所以选择汉语，是因为看过《三国志》、看过香港电影、听过中国歌儿等，即通过亲身体验接触过汉语及中国文化。

虽然自97年开始，大学统一考试的外语考试中增加了汉语，但在调查表的学习动机一栏中，填入考大学的学校并不多。

如表17所示，参加高考汉语考试的学生超过法语、德语，但参加全国统考汉语考试的学校仅有15所（占回收答案的5.7%），其中7所学校的汉语课程，三年内的总学分数超过10个学分。由此可以看出，在学分数为2~4学分的学校居多的现状下，参加高考汉语考试的学生为数极少。

然而，从与高等教育的联系来看，希望进大学后，把汉语作为第二外语继续学习，或进设有中国历史、文化专业及汉语专业的大学，或想去留学的学生逐年增加。

3 教员现状

经调查得知，任课教员中汉语为360人（人次）、朝鲜语为101人（人次）。由于许多教师在复数学校兼课，估计实际人数将低于以上统计。

表17 参加全国统考外语考试的人数

	汉 语	法 语	德 语
1997年	243	182	168
1998年	242	162	142
1999年	223	178	134

资料：大学考试中心

调查结果表明任课教师及担任学科教学的专职教师所起的作用是非常重要的。专职教师为开设汉语或朝鲜语等外语教育，不仅要承担说服领导及其他教职员、招生、招聘教师、安排教室等工作，开课后，还必须处理协调只在有课时到校的非专职教师与学生及校方的关系等，积极参与教学运营方面的工作。这些教师（并非一定担任教学工作）对汉语及朝鲜语教育的推广起到很大的促进作用。

◆ 千叶县立幕张综合高中 任课教师衫山辰夫

为使学生能接触中国人说的汉语，通过个人关系寻找合适教师，虽没能按计划找到白天上课的义务（付极少报酬）教师，但找到了在放学后时间里任教的教师，从97年度起开设了课外辅导课。他不仅每周参加汉语课，还每月一次加班加点与任课教师研究教学。

◆ 东京都立日比谷高中 97年度开始，同时

开设了汉语和朝鲜语的第二外语选修课。这是通过国语教师加藤明雄和佐藤和夫的努力，经教职员全体会议一致通过决定的。尽管这所学校开设法语、德语等外语教学的历史较长，但两位专职教师的努力对新课程的开设起到了重要作用。

◆ 兵库县立神户甲北高中 汉语教师水畠哲

也在98年度开设汉语课之前做了长年的准备，他自92年起参加了全国高中汉语教育研究会全国大会及关西支部的学习会，学习如何更好地进行教学。97年参加静冈汉语讲座组织的第二届汉语教师进修团，在北京语言文化大学进行了为期三周的研修。每次访问中国，他不仅收集用于教学的辅助教材，还自己拍摄录像并进行编辑，以便进行生动活泼的形象教学。他还把收集的资料印成课外作业发给学生，并发行了《你好通讯》，以此来提高学生们的学习积极性。

从表 18 可了解按职称分类的教师人数。汉语及朝鲜语均以非专职教师居多，分别为 65.0% 和 59.4%。汉语非专职教师的比例与 94 年的调查相比，增加了 5.2 个百分点。这两种外语的专职教师所占比例分别为 26.1% 和 33.7%。

从表 19 可了解持有教师资格证书的教师人数。持有汉语教师资格证书的教员为 63.9%，而持有朝鲜语教师资格证书的教师仅为 37.3%，两者的资格证书持有率存在很大差异。此外，汉语教师的一个特征是持有国语教师证书的占 42.2%，而朝鲜语教师的特

征则为，持有英语教师证书的占 27.5%。持有临时教师证书的汉语教师为 5.6%、朝鲜语教师为 15.7%。持有外语教师证书（含临时证书）的汉语、朝鲜语教师的比例分别为 69.4% 和 52.9%。

有人认为，这次调查中回答是否持有证书一项的汉语教师仅占任课教师的 50%（180/360），若将未回答者计算在内，无汉语教师证书的教师的比例将会更大。

表 20 中列出按任课教师人数排列的实施校数。汉语和朝鲜语教育，仅由 1 名教师担任教学工作的学校最多，分别占 69.1% 和 75.4%。教师人数为 1~2 名（汉 22.0%，朝 14.5%）的学校占 91.1% 和 89.9%，从表中可以看出，大部分实施校是由 1~2 名专职教师或非专职教师担任教学工作的。

表 21 表示任课教师的母语。表 22 表示非专职任课教师的母语，占教师总人数约六成的这些非专职教师，今后也将对这两种语言教育的发展发挥重要作用。汉语任课教师中，以日语为母语的教师占总人数的 56.4%。而非专职教师中，以汉语为母语的教师，超过以

表 18 按职称分类的任课教师数

教员级别	汉语		朝鲜语
	94年度(%)	97年度(%)	97年度(%)
非专职教师	128 (59.8)	234 (65.0)	60 (59.4)
专职教师	59 (27.6)	94 (26.1)	34 (33.7)
外语教学助手	27 (12.6)	25 (6.9)	3 (3.0)
其他	0 (0.0)	7 (1.9)	4 (4.0)
	214 (100.0)	360 (100.0)	101 (100.0)

表 19 任课教师资格认定情况

汉语		
资格别		人数 (%)
汉语	汉语	40
	十国语	48
	十英语	20
	十其他	7
		115 (63.9)
临时证书	临时证书	6
	十社会	2
	十国语	1
	十国语+社会	1
		10 (5.6)
其他科目	国语	26
	社会	10
	英语	9
	其他	10
		55 (30.6)
	合计	180 (100.0)

朝鲜语		
资格别		人数 (%)
朝鲜语	朝鲜语	11
	十英语	5
	十其他	3
		19 (37.3)
临时证书	临时证书	6
	十其他	2
		8 (15.7)
其他科目	英语	7
	国语	4
	音乐	3
	商业	2
	社会+其他	2
	农业	2
	其他	4
		24 (47.1)
	合计	51 (100.0)

日语为母语的教师，约占二分之一强。朝鲜语教师中，朝鲜语(含双母语者)为母语的教师，占总人数的58.9%、占非专职教师的72.2%。

表23表示按任课时间分类的任课教师人
数。汉语及朝鲜语均以两课时为多，分别占
28.7%和28.9%。其次为四课时，占23.1%
和17.8%。

表21 任课教师的母语

母语	汉 语 (%)	母语	朝鮮語 (%)
汉语	141 (42.7)	朝鮮語	48 (50.5)
日语	186 (56.4)	日语	39 (41.1)
日语以及汉语	3 (0.9)	日语以及朝鮮語	8 (8.4)
330 (100.0)			95 (100.0)

■ 为教师举办的活动

教师们希望得到在国内外研修的机会及
获得有关他校情况的信息。以高中教师为中
心的研究会也在各个地区积极开展活动。汉
语教育工作者和教育委员会也开始举办海外
研修等各具特色的活动，研修及交换信息的
机会超过以往。

表22 非专职任课教师的母语

母语	汉 语 (%) ¹⁾	母语	朝鮮語 (%)
汉语	114 (54.3)	朝鮮語	34 (63.0)
日语	93 (44.3)	日语	15 (27.8)
日语以及汉语	3 (1.4)	日语以及朝鮮語	5 (9.3)
210 (100.0)			54 (100.0)

1) 94年度，以汉语为母语的教师占50.9%，以日语为母语的教师占49.1%

表20 从任课教师数看实施校

教师数／教员级别	汉 语 (%)	朝鮮語 (%)
1名 非专职教师	128	39
专职教师	35	10
ALT	3	1
其他	4	2
	170 (69.1)	52 (75.4)
2名 专职教师+非专职教师	22	4
非专职教师	16	4
非专职教师+ALT	8	0
专职教师+ALT	4	2
专职教师	2	0
专职教师+其他	2	0
	54 (22.0)	10 (14.5)
3名 专职教师+非专职教师	3	2
非专职教师	3	1
专职教师+非专职教师+ALT	3	0
专职教师	1	2
非专职教师+ALT	1	0
专职教师+其他	1	0
	12 (4.9)	5 (7.2)
4名 专职教师+非专职教师	4	2
以上 专职教师+ALT	3	0
非专职教师	2	0
专职教师+非专职教师+ALT	1	0
	10 (4.1)	2 (2.9)
合计	246 (100.0)	69 (100.0)

ALT：外语教学助手

表23 从担任课时数看教师数

课时	汉 语 (%)	朝鮮語 (%)
1	8 (2.6)	4 (4.4)
2	87 (28.7)	26 (28.9)
3	28 (9.2)	8 (8.9)
4	70 (23.1)	16 (17.8)
5	15 (5.0)	5 (5.6)
6	39 (12.9)	3 (3.3)
7	4 (1.3)	1 (1.1)
8	10 (3.3)	6 (6.7)
9	3 (1.0)	4 (4.4)
10	9 (3.0)	2 (2.2)
11	6 (2.0)	1 (1.1)
12	2 (0.7)	3 (3.3)
13	0 (0.0)	1 (1.1)
14	2 (0.7)	4 (4.4)
15	5 (1.7)	1 (1.1)
16	9 (3.0)	0 (0.0)
17	1 (0.3)	1 (1.1)
18	5 (1.7)	3 (3.3)
19	0 (0.0)	1 (1.1)
	303 (100.0)	90 (100.0)

◆ **全国高中汉语教育研究会** 关东、关西支

部分分别举办研究会，并于97年度开始在中部支部开展与大学联合举办研究会等活动。98年度神奈川县的汉语教师发起并成立了研究会，每三个月举办一次研讨会。

◆ **汉语教育研究会** 为提高现代汉语教学的

水平，自86年开始举办研究会。每次以第二外语的汉语教学中实际出现的问题为课题，由两名讲师发表自己的报告。研究会的主要参加者为大学（第二外语教师）、高中及民间汉语学校的教师。

◆ **汉语教育协议会** 该会是为促进与汉语教

育有关的教师间的交流并使作为外语科目的汉语教育得到巩固和充实，于97年设立的。98年度开始举办教师研修会。研修课题为发音教育、语法教育、制作教材、水平测验等。

◆ **神奈川县教育委员会** 应中国方面的邀请，

自79年开始派遣高中国语教师前往中国的大学讲授日语。98年，曾被派遣的教师在县内的三所公立学校担任汉语课，将他们在中国的所见所闻用于教学实践中。

◆ **鸟取县教育委员会** 98年度在日本首次独

自进行招聘汉语教学助手（ACT：Assistant Chinese teacher）的尝试。在采用汉语教学助手时，由负责此项工作的负责人到中国进行面试。为使县内的汉语教育更加充实，他们还考虑在不久的将来派遣县立高中的教师前往中国。

◆ **长崎县教育委员会** 为培养汉语教师，自

97年起，每年派遣两名县立高中在职教师前去上海的华东师范大学，接受为期11个月的外语研修。参加研修的教师有实施或计划实施汉语教育的学校教师，亦有组织学生前去中国修学旅行学校的教师。

◆ **静冈汉语讲座** 以高中汉语教师为对象，

举办目的在于提高教师汉语水平及掌握教

育理论、教育方法的研修会。研修会利用暑假约三周的时间在北京语言文化大学举办。

4 教材和授课的各种尝试

表24表示通用教材。与94年度的调查结果相同，使用最多的是《高中汉语》，使用校为75所。这次调查表明使用教材超过100种。回答缺乏教材的学校有129所（占回收答案的48.7%），教材仍是一个重要问题。多数教师抱怨缺乏适合于高中生的教材。

为提高学生的学习积极性，教师们进行了各种各样的尝试，例如课上放映电影、录像和烹调实习，表演民间艺术等。特别是由于母语教师参加教学活动有助于指导学生发音，促进学生对他国文化的理解，多数学校希望进行双语协助教学。

JET自87年度起，开始实施聘请担任外语指导员的外国青年招聘计划，根据这个计划，98年度从中国聘请3名（长崎、福井县）教学助手，从韩国聘请1名（鸟取县）教学助手来日。继开始聘请英语圈国际交流员（CIR）的大约五年之后，于92年度、93年度分别从中国、韩国聘请国际交流员来日。他们也担任汉语及朝鲜语的教学工作。还有不少留学生及母语侨民参加所在地学校的外语教学活动。

◆ **千叶县立松户国际高中** 汉语任课教师大

野隆敏，考虑到音像辅助教材有助于帮助学生了解民族习惯及正确地使用语言，在课堂上放映了中国电影《清凉寺钟声》。他认为，一些学生对日中间的历史几乎一无所知，或虽略知一二却不求甚解。通过观赏电影可使学生思考如何看待日中友好，不仅能丰富他们的知识及对日中历史的了解，还能从感情上加深对中国的理解。他在放

映电影之前，向学生介绍一些最基本的知识。他还准备选出电影中的几个场面，编成简单易懂的教材，用于语言教学。

◆ **石川县立辰巳丘高中** 为提高学生的外语能力，不仅实施二年级的海外外语研修（北京、上海、苏州），每年还在校内举办两次汉语演讲大会。任课教师菅原宏积极参与地区的交流计划，如：参加石川县留学生协会举办的交流会，邀请金泽大学的中国留学生一起包饺子，让地方企业邀请的香港留学生到学生家体验生活等。

◆ **三重县立松阪商业高中** 作为课题研究课开设了汉语课，在年度末举行的发表会上，上演汉语（用日语解说）小话剧，为加深学生对中国的了解，每学期还设有一次中国菜肴烹调实习课。

◆ **鸟取县立青谷高中** 与县政府聘请的汉语教学助手配合，进行双语协助教学。利用指导助手因有课时，全天在校的机会，回答学生提出的有关中国的问题及关于留学的咨询，并举办以教职员为对象的汉语讲座。

◆ **鹿儿岛县立鹿儿岛东高中** 汉语会话课均采用双语协助教学的方式，任课教师与母语教师配合进行教学。为使母语教师的发音能在学生耳中留下鲜明的印象，课堂上的语法说明、会话尽可能全部使用汉语。每次期中、期末考试及小测验中，都出有听力或口试题，他们把培养学生的交际能力放在第一位。

■ 演讲比赛及检定考试

为了调动学生学习外语的积极性，很多学校参加校外团体主办的演讲大会，发表学习成果。全国高中汉语教育研究会关东支部与关西支部，还分别举办以高中生为对象的朗读、背诵、辩论大会，参加者年年递增。京都外语大学也于97年开始，举办高中生汉语演讲比赛。有些高中生还在日中友好协会主办的全日本汉语演讲大会和朝日新闻社主办的汉语演讲比赛中名列前茅。汉语检定考试及汉语水平考试（HSK）等检定考试也成为学生学习的一个目标。

表 24 通用教材

教材	出版社	使用学校数 ¹⁾
高校中国語 ²⁾	白帝社	75 (41)
ポイント学習 中国語初級	东方书店	12 (5)
中国語はじめの一歩	白水社	10 -
標準中国語 ^{1 3)}	白帝社	8 (10)
青年漢語	东方书店	8 -
入門北京カタログ	朝日出版社	8 -
新中国	中华书店	7 (4)
中国語123	白水社	5 (7)
最新中国語教本	中华书店	5 (4)
実用漢語課本	东方书店	5 (3)
漢語入門	好文出版	5 (1)
基礎中国語会話	东方书店	4 (6)
12回で学ぶ中国語	白帝社	4 (2)
言える中国語	同学社	4 -
漢語基礎課本	白帝社	4 -

1) () 内は94年度の数字 2) 包括改訂版 3) 包括修订版

5 语言学习和交流活动

为了尽可能让学生多接触一些使用汉语或朝鲜语国家和地区的文化，实施以上两种语言教育的学校，还组织实施了课堂教学以外的多种活动。

■ 赴使用汉语的国家、地区及韩国的修学旅行

作为语言学习的辅助手段，实施汉语和朝鲜语教育的学校采用最多的方法是修学旅行。汉语实施校中去使用汉语的国家和地区（中国、台湾、新加坡等）修学旅行的学校（包括计

划实施校在内），为15.6%（55所）；朝鲜语实施校中，去韩国访问的学校（包括计划实施校在内），为24.8%（41所）。这些学校组织的修学旅行都达到了促进语言学习的目的。

72年，两所私立高中去韩国的修学旅行，可视为海外修学旅行的开始。公立高中的海外修学旅行，以84年去韩国（福冈县），87年去中国（埼玉县浦和市）为开端，之后，海外修学旅行的学校和学生数逐年增加。另一方面，也有一些地方政府对海外修学旅行计划作出了限制。据98年度的统计，由于茨城县、枥木县、千叶县、东京都、神奈川县、长野县、爱知县、和歌山县及札幌市、千叶市、川崎市、横滨市、名古屋市、神户市等市不与批准，致使这些地

表 25 实施海外修学旅行的高中

国家和地区	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
韩国								
公立	40	45	49	67	107	139	146	145
私立	90	85	92	90	84	90	82	79
合计	130	130	141	157	191	229	228	224
学生数	-	-	33,760	36,570	40,677	41,599	38,769	37,180
中国								
公立	5	10	31	44	57	62	69	89
私立	21	21	40	46	46	54	55	57
合计	26	31	71	90	103	116	124	146
学生数	-	-	19,619	25,126	29,497	27,840	27,810	31,537
亚洲								
(除韩国和中国)								
公立	3	3	7	3	10	17	36	50
私立	31	30	34	40	45	60	55	65
合计	34	33	41	43	55	77	91	115
学生数	-	6,714	6,815	6,591	9,666	11,736	13,896	16,867
北美¹⁾ 和夏威夷								
公立	0	1	2	4	8	13	17	19
私立	72	66	84	100	113	132	138	137
合计	72	67	86	104	121	145	155	156
学生数	-	8,635	18,759	21,916	23,218	26,556	27,303	26,346
大洋洲²⁾								
公立	0	1	1	1	3	12	16	24
私立	22	24	39	48	59	85	88	102
合计	22	25	40	49	62	97	104	126
学生数	-	6,160	8,570	10,157	13,339	20,047	19,352	21,166
欧洲和其他地区								
公立	0	0	0	0	0	4	2	3
私立	5	7	18	22	27	45	47	68
合计	5	7	18	22	27	49	49	71
学生数	-	446	1,008	1,633	3,047	5,508	5,160	7,822
合计								
公立	48	60	90	119	185	247	286	330
私立	241	233	307	346	374	466	465	508
合计	289	293	397	465	559	713	751	838
学生数	-	-	88,531	101,993	119,444	133,286	132,290	140,918

资料：日本修学旅行协会

1) 美国、加拿大、墨西哥

2) 澳大利亚、新西兰、关岛、塞班岛

方的高中不能去海外修学旅行。不过，也有的地方已进入试行阶段，限制有所缓和。

从去海外修学旅行的目的地看，去韩国的学生最多，中国次之。97年度以去韩国的(38,769人，228所)、去中国的(27,810人，124所)、去北美和夏威夷的(27,303人，155所)、去大洋洲的(19,352人，104所)为顺(表25)。

97年度去中国修学旅行的学生数是学习汉语学生数的2倍，去韩国修学旅行的学生数是学习朝鲜语学生数的10倍。很多学校虽然没有开设汉语或朝鲜语课，但在修学旅行之前，组织学生事先学习该国家和地区的文化及语言。修学旅行将会给学生学习这些国家语言和文化提供更多的机会。

学习汉语学分多的学校中，有以汉语研修的方式访问中国的学校。有些学校的担任汉语教学的教师负责组织研修旅行。虽然负责计划和领队工作的任课教师负担很重，但对学生而言，却是一个检验学习汉语成果的好机会。

◆ 兵库县立神户商业高中 因为任课教师中野贞弘想让学习汉语的学生实地看看中国和使用汉语，97年组织了去北京4天的汉语研修旅行。为使参加者尽可能使用汉语，旅行前增加了10节课外辅导课。

■ 姊妹校交流

汉语教育实施校中，在中国、台湾、新加坡等使用汉语的国家和地区有姊妹校的学校，占总数的13.0%(46所，公立19所、私立27所)；朝鲜语实施校中，在韩国有姊妹校的，占总数13.3%(22所、公立4所、私立18所)。根据我们汇总的资料表明，进行姊妹校交流的学校中，私立学校多于公立学校。许多学校在修学旅行期间访问姊妹校，进行交流活动(表26、27)。

◆ 立命馆宇治高中(京都) 98年与天津外语学院附属外语学校结成姊妹校。暑假期间得到外语学校的协助，实施了约2周的汉语研修。

◆ 和歌山县立那贺高中 98年1月与山东省实验中学结成姊妹校。同年8月那贺高中的学生和教职员等22人作了5宿6天的访华旅行。访华期间学生去中国学生家住了两天体验生活。他们还预定99年接待山东实验中学学生访问。

表26 有海外姊妹校的高中

国家・地区		1986	1989	1991	1993	1995	1997
美国	公立	64	81	133	137	150	160
	私立	68	83	123	121	197	233
	合计	132	164	256	258	347	393
澳大利亚	公立	17	26	45	56	83	92
	私立	23	34	61	75	136	183
	合计	40	60	106	131	219	275
新西兰	公立	0	0	8	11	15	26
	私立	6	10	25	28	47	125
	合计	6	10	33	39	62	151
韩国	公立	6	9	17	20	28	36
	私立	56	65	79	77	83	96
	合计	62	74	96	97	111	132
加拿大	公立	7	8	19	20	19	27
	私立	7	14	30	32	62	97
	合计	14	22	49	52	81	124
中国	公立	11	13	20	13	21	34
	私立	19	29	24	29	51	65
	合计	30	42	44	42	72	99
台湾	公立	0	0	3	2	4	3
	私立	24	11	32	31	29	32
	合计	24	11	35	33	33	35
其他地区	公立	2	3	7	8	14	24
	私立	15	18	34	52	58	119
	合计	17	21	41	60	72	143
全体	公立	107	140	252	267	334	402
	私立	218	264	408	445	663	950
	合计	325	404	660	712	997	1,352

资料：文部省

表 27 与使用汉语的国家和地区的姊妹校交流

高中名(*私立)	地区	交流对象校	所在地
* 函館昭和女子学園	北海道	青岛旅游学校	青岛
* 尚志	福島	沈阳第二十中学	沈阳
* 浦和実業学園	埼玉	北京师范大学第二附属中学	北京
伊奈学園総合	埼玉	天津外国语学院附属中学	天津
* 早稻田大学本庄	埼玉	北京大学附属中学	北京
柏	千叶	承德第一中学	承德
* 関東国際	东京	北京语言文化大学	北京
		苏州大学	苏州
* 武藏	东京	人民大学附属高中	北京
* 桜美林	东京	上海外国语学校	上海
* 平和学園	神奈川	淡江高级中学	台北
* 高岡向陵	富山	大连第八中学	大连
福光	富山	稽山中学	绍兴
* 敦賀気比	福井	北京外国语大学	北京
岐阜商業	岐阜	杭州市综合中等学校	杭州
* 御殿場西	静冈	华州高级工业家事职业学校	高雄
* 桜丘	爱知	南京师范大学附属中学	南京
* 東邦	爱知	南京外国语学校	南京
* 津島女子	爱知	静修女子高级中学	台北
西京商業	京都	Outram secondary school	新加坡
* 立命館宇治	京都	天津外国语学院附属外国语学校	天津
扇町	大阪	上海复兴中学	上海
千里	大阪	镇江第一中学	镇江
神戸甲北	兵库	位育中学	上海
* 甲南女子	兵库	天津外国语学院	天津
* 国際開洋第二	和歌山	南楼中学	天津
那賀	和歌山	山东省实验中学	济南
青谷	鸟取	太仓师范学校	太仓
防府商業	山口	济南第二职业中等专业学校	济南
下関商業	山口	青岛第一职业高级中学	青岛
* 明徳義塾	高知	大连理工大学	大连
		什刹海体育学校	北京
玄界	福冈	北京第三十一中学	北京
* 榊志館	大分	北京月坛中学	北京
		富平高等学校	仁川
* 日章学園	宫崎	协和高级工商职业学校	台北
		大连第一中学校	大连
鹿児島東	鹿儿岛	天津市立第三十四中学	天津
* 鹿児島城西	鹿儿岛	景文高级中学	台北
		大连市第一中学	大连
		大连市职业高级中学实习中心学校	大连
向陽	冲绳	北京外国语大学	北京

注) 交流对象校的名字是据问卷调查回答内容记载的。

IV 巩固和发展高中汉语教育

TJF 在出版的“高中汉语教育”报告书中，提出了解决汉语教育的十项建议。我们根据这些建议开展了力所能及的工作。现阶段的当务之急是把握高中汉语教育现状和明确课题，并为巩固汉语教育而努力解决这些问题。

- 1 积极推进作为第二外语的汉语教育
- 2 制定高中汉语教育目标
- 3 编写标准高中汉语教材
- 4 确保具有任教资格的汉语教师
- 5 培养合格的汉语教师，并为之提供再进修的机会
- 6 充实面向汉语教师的教学研究活动
- 7 提供汉语教师去国外进修的机会
- 8 尽早配备从中国聘请的汉语教学助手
- 9 构筑汉语教师联系网
- 10 共享汉语教育信息

以研究会副会长和理事为中心，经过多次集中开会，反复讨论，终于在96年研究会第14次大会上，提出了包括语法项目和词汇项目的第一次草案。之后，该草案被确认为研究会的一个研究项目。并经过96年第二次和97年第3次草案的不断修改，终于在98年汇编成包括词汇和语法项目的最终方案。由于参与方案编制的教师，兼有日常教学工作，在“高中汉语教育”语法和词汇定稿上所花费的时间，大大超过预想。

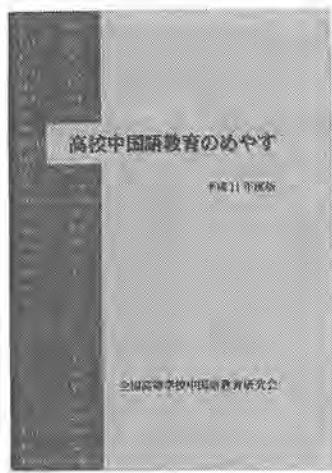
研究成果的《高中汉语教育目标》（以下简称《目标》），在大学有关人员的帮助下，于99年定稿（A4版、本文20页），并于99年6月正式发行。TJF连续4年对该项目的研究、《目标》的编纂和出版工作给予了大力协助。《目标》的完成对高中汉语教育是一件具有划时代意义的大事，并将对其发展产生积极的影响。

■ 《高中汉语教育目标》的特色

1. 《目标》是以学习汉语（第二外语）的高中生为对象，以高中生最低限度应学习哪些语法知识，如何使教学内容易懂、易学、循序渐进等为重点，归纳、汇编而成的。
2. 在编写《目标》的过程中，我们将以下两点定为高中汉语教学的目标，即(1)考虑到汉语的语音特征，重视发音教学，打好汉语的基础；(2)培养交际能力，加深对世界及其不同文化的理解。

1 《高中汉语教育目标》的完成

制定“高中汉语教育”标准的必要性，在很早以前就被提出。89年高中汉语教育研究会第七次大会上提出了制定“学习指导要领试行案”的议题。TJF的94年度调查报告中也强调指出，没有一个标准的学习目标和学习范畴是其结症所在。为此，根据研究会提出的由任课教师制订学习标准的建议，TJF从95年度开始，协助编制了汉语教学标准。



若希望得到《高中汉语教育目标》，请与 TJF 联系。

2 加强与中国中等日语教育界的联系

TJF 在参与“高中汉语教育”的同时，自 92 年以来，和中国有关方面一起举办了以初中和高中学生为对象的日语演讲比赛大会及以东北三省（黑龙江省、吉林省、辽宁省）及内蒙古自治区初中、高中日语教师为对象的研修会^{注)}。

■ 友好班级交流

在这些活动中，我们了解到，中国每位在初中或高中任教的日语教师都强烈地希望与日本学校交流。另一方面，我们也听到了日本高中汉语教师希望与中国学校交流的呼声。

很多汉语教师指出，学习语言和实际交流是密不可分的，随着汉语教育的不断发展，也带来了重新认识自己的语言和文化的机遇。有的学校已建立姊妹校关系，实现了师生互访。不过就目前情况看，学校间的交流，仅有任课教师的愿望是难以实现的。考虑到教师同行的交流比较容易进行，因此产生了“友好班级”交流的构想。自 97 年起，我们开始帮助汉语实施校的教师与中国的日语教师建立“友好班级”关系。

注) 中国中等日语教育开展最好的地区是东北三省和内蒙古自治区。根据对以上地区的调查，估计 97 年该地区开设日语课的中学为 270 多所，任课教师约 1,000 人、学生约 8 万人。

3. 另外，因发音教学关系到初级阶段的教学是否成功，所以我们将标准学分数定为 3~4 个学分。
4. 《目标》是以富有教学经验的高中教师为中心汇总的一个提案，并不具有约束力。

如表 28 所示，26 组“友好班级”主要是通过教师、学生之间积极主动的相互通信，开展交流活动。

◆ 山梨县立盐山高中

四川省南充外国语学校

因山梨县和四川省是友好省县，所以 TJF 帮助这两所高中结成了友好班级。盐山高中汉语教师内山修一老师，这样评价交流成果：“学生们对接到来自中国的信是特别高兴的。他们初次接触外国人写的日语，刚看起来觉得有些不通顺，但当他们知道这是只学了一年日语的学生写的时，则感到十分震惊。能够将在课堂上学到的汉语用于实践，这种喜悦也是对学生的一种鼓励。有的学生还提出制作录像寄往中国的建议。学校方面也在制订去中国研修旅行的计划，友好班级活动的成果正逐渐在全校开花结果。”

◆ 大分县立大分东高中

珲春市第二高级中学

汉语和国语的任课教师田口理一制订了用书信来进行国际交流和提高作文水平的授课计划。要求学生写一篇 200~400 字的文章向学习日语的中国高中学生介绍日本文化（如：从盒饭、赏花和泡泡袜等项目中任选一项），在学生之间相互讲评后寄往中国。因珲春市第二高级中学有很多朝鲜族学生，他还争取朝鲜语任课教师的支持，积极扩大交流的范围。

另外，有的教师将友好班级学生寄来的自己写的诗制成汉语教材。还有的教师给学生放映中国的学校生活及日语课的录像，使他们了解同龄人高中生是怎样生活的。日本的一些教师，积极提出希望结成正式姊妹校并希望带学习汉语的学生访问友好班级。

今后，TJF 将在为友好班级交流活动起桥梁作用的同时，积极积累通过相互交流学习语言的好经验。

表 28 友好班级交流

中国日语教师(姓名 / 班 / 高中名 / 所在地)	日本汉语教师 (姓名 / 班 / 高中名 / 县)
杨凤秋 / 1个班、61人 北宁市高级中学	辽宁省·北宁市 佐藤英三子
刘路 沈阳市外国语学校	辽宁省·沈阳市 札幌国际情报
金锦善 / 2个班、108人 哈尔滨市朝鲜族第一中学	黑龙江省·哈尔滨市 北海道
李娟 / 5个班、100人 延吉市第二高级中学	吉林省·延吉市 田口友美 / 2个班、22人
徐建会 / 4个班、156人 镇赉县第一中学	吉林省·镇赉县 柏日体高校
金钟穆 / 1个班、34人 庆安县朝鲜族中学	黑龙江省·庆安县 千叶
朴龙吉 / 7个班、98人 延边大学附属中学	吉林省·延吉市 藤森孝幸
牟秀春 / 7个班、77人 大连市一〇四中学	辽宁省·大连市 千葉國際
李福子 / 3个班、110人 牡丹江市朝鲜族中学	黑龙江省·牡丹江市 龟谷新一、杉山辰夫 / 7个班
宋薇 沈阳市外国语学校	辽宁省·沈阳市 幕張総合
张田来 大连市一〇三中学	辽宁省·大连市 大野隆敏
王健英 / 1个班、38人 哈尔滨市第七十三中学	黑龙江省·哈尔滨市 松戸国際
王庆伟 / 1个班、20人 哈尔滨市第十八中学	黑龙江省·哈尔滨市 佐藤宜行
张弘 / 1个班、11人 哈尔滨市第十三中学	黑龙江省·哈尔滨市 外語短大付属
田晶 / 2个班、75人 大连市第一中学	辽宁省·大连市 山田秀二 / 1个班、14人
刘海峰 / 2个班、60人 甘旗卡第二中学	内蒙古自治区 大師
南充外国语学校	四川省·南充市 山梨
孙荣娟 东北中山中学	辽宁省·沈阳市 倉石愛子 / 2个班、15人
大连市第三十六中学	辽宁省·大连市 津久井
刘明晖 大连市第六十二中学	辽宁省·大连市 金井一夫 / 1个班、6人
池美兰 / 3个班、150人 吉林市朝鲜族中学	吉林省·吉林市 六ツ川
李英实 / 3个班、93人 敦化市第二中学	吉林省·敦化市 内山修一 / 3个班、51人
金中华 / 2个班、60人 佳木斯市朝鲜族中学	黑龙江省·佳木斯市 塙山
崔粉善 鸡东县朝鲜族中学	黑龙江省·鸡东县 笠原祥士朗 / 3个班、60人
金惠辰 / 6个班、330人 珲春市第二高级中学	吉林省·珲春市 斎藤正高
马文莉 / 1个班、46人 哈尔滨市第一一二中学	黑龙江省·哈尔滨市 爱知
	小杉
	敦賀氣比
	桜丘
	小林和代
	嵯峨野
	藤田美奈子
	山辺
	水畠哲也
	神戸甲北
	松本陽子 / 1个班、27人
	博多青松
	田口理一
	大分東
	小金沢豊 / 1个班、28人
	入間市立東町中
	埼玉

■ 教材开发和信息交流

TJF 一直为日本的高中汉语教育界与中国中学日语教育界的相互促进、共同发展作出不懈的努力。TJF 为了使学习汉语的学生不仅对汉语，而且对中国文化也产生兴趣，于 97 年在网页上开辟了以照片介绍中国高中生生活的专栏“中国高中生照片馆”。今后，我们还计划着手为高中学生编写以照片为素材的教材。

TJF 利用在机关杂志上介绍实施汉语教育的学校，在网页刊登这些学校一览表等有关信息的方式，帮助教师和有关人员建立联系网络。99 年 4 月，以高中汉语教师为对象的定期刊物《小溪》创刊。我们还考虑发行与《小溪》相似的面向中国日语教师的定期刊物，通过这两种刊物的相互借鉴，使日中双方教师能够互相交换意见与信息。

TJF 今后要更好地为加强日本高中汉语教育界，与中国中等日语教育界的联系而开展工作，为“高中汉语教育”的发展做出更大的贡献。



**日本の高等学校における中国語教育の広がり
韓国朝鮮語教育との比較で見る**

**日本高中汉语教育的发展
与朝鲜语教育相比较**

1999年6月発行

編集人 高嶋伸和

発行所 (財)国際文化フォーラム

(财)国际文化交流中心

〒163-0726 東京都新宿区西新宿2-7-1 第一生命ビル26F

tel. 813-5322-5211 fax. 813-5322-5215

e-mail. forum@tjf.or.jp http://www.tjf.or.jp/

©1999 The Japan Forum

女儿指地跑眼夜深亮金珠半果
葡萄汽车铅笔钱包桥青年清楚裙
子人民认真日语伞散步音乐英语
樱花游泳羽毛语言初生春节日